

はやめぐり *for fusion_place*

対応製品バージョン: 6.2

第 3.0 版 : 2014 年 10 月 8 日

第 4.0 版 : 2017 年 9 月 20 日

第 4.1 版 : 2018 年 6 月 15 日



fusion_place は、株式会社フュージョンズの商標です。

Oracle, Java は、米国 Oracle Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。 Microsoft, Windows, Windows Vista, Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他のブランド名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

このチュートリアル著作権は株式会社フュージョンズおよびその供給者に帰属します。著作権者が発行した文書による許可がない限り、個人的な使用目的以外でこのチュートリアルの一部または全部をいかなる形式または方法でも（転写、記録、情報検索システムへの利用などの電子的または機械的な方法を含む）複製または転載することを禁じます。

警告：このチュートリアルに含まれる情報はすべて、予告なしに変更されることがあります。株式会社フュージョンズは、このチュートリアルの誤りに対して責任を負いません。また、このチュートリアルの提供、実行または使用に関して生じた損害に対しても責任を負いません。

株式会社フュージョンズ
(本店所在地：東京都港区)

文書名：	fusion_place はやめぐり
文書バージョン：	4.1.0
公開日：	2018 年 6 月 15 日

目次

はじめに	1
はやめぐりを始める前に.....	1
うまくいかない時には	1
作成するシステムの概要.....	2
モデルケースのご説明	3
1 Excel-Link を使用する.....	4
1.1 Excel-Link でシートにデータを取得する.....	4
2 Excel-Link で予算データを入力する	7
2.1 店舗別予算を入力する	7
2.2 予算を集計して確認する	9
2.3 月次報告帳票に予算値を表示する	10
3 Excel-Link ピボット検索を使う	11
3.1 検索条件を指定し、ピボット検索を実行する.....	11
4 ディメンションと元帳を設定する	15
4.1 新しいアプリケーションを作成する.....	15
4.2 期間表を選択する	18
4.3 シナリオを登録する	20
4.4 会計年度を登録する	22
4.5 「店舗」ディメンションを設定する.....	23
4.6 「商品部門」ディメンションを設定する.....	31
4.7 「勘定科目」ディメンションを設定する.....	33
4.8 ディメンションメンバの登録と管理について.....	35
4.9 「店舗・商品部門別利益」元帳を作成する	36
5 実績データを取込む	39
6 Excel-Link で月次報告資料を作成する	40
6.1 シートのレイアウトを確認する	40
6.2 シートに Excel-Link 用の設定を加える	42
7 Excel-Link で予算入力表を作成する	54
7.1 予算入力のための Excel-Link の設定方法を確認する	54
7.2 予算データの入力.....	55
7.3 (参考) 実績データ取込み用ファイルの Excel-Link の設定.....	56
8 簡易版フォームを使用する	57
8.1 簡易版フォームで予算データを入力する.....	57
8.2 簡易版フォームで予実データを表示する.....	62
8.3 表示したフォームを Excel に出力する	64

9	簡易版フォームを作成する	65
9.1	フォームリストを作成する	65
9.2	年間予算入力フォームを作成する	67
9.3	売上高・総利益集計表フォームを作成する	71
10	fusion_place をさらにご活用いただくために	81
11	より高度な機能のご紹介	83
11.1	事前準備	85
11.2	ご紹介機能① 高度なインポート	86
11.3	ご紹介機能② フォーム機能 1	89
11.4	ご紹介機能③ フォーム機能 2	91
11.5	ご紹介機能④ ドリルダウン	96

はじめに

fusion_place の世界へようこそ。

この「はやめぐり」は、fusion_place ユーザの方を対象に、アプリケーションの作成と Excel および簡易版フォームによるデータ入出力をご理解いただけるよう作成したチュートリアルです。

このチュートリアルを行えば、fusion_place を皆さまの業務に具体的にどのように適用できるのかイメージが湧いてくると思います。また、ここでは説明しきれない fusion_place の高度な機能を、ユーザマニュアルを読みながら活用していくための準備ができたことになります。

はやめぐりを始める前に

はやめぐりを始める前に、ユーザマニュアルの「fusion_place をセットアップする」をご参考に、お手もとのコンピュータに、fusion_place をセットアップしておいて下さい。

対象バージョン：fusion_place 6.2

ユーザマニュアルは、fusion_place のインストーラと同じ圧縮ファイルに収められている fusion_place-usermanual.chm というファイルをダブルクリックすれば表示できます。

fusion_place が存在しない環境に fusion_place を新規インストールした場合は、はやめぐりで使用する「SAMPLE1」「DEMO」アプリケーションが作成されます。

既に fusion_place のデータベースが存在する環境にインストールした場合は、2つのアプリケーションは作成されません。この「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルの「SAMPLE1.fpbackup」「DEMO.fpbackup」アプリケーションバックアップファイルから、アプリケーションを作成してください。

作成方法はユーザマニュアルの以下の箇所をご覧ください

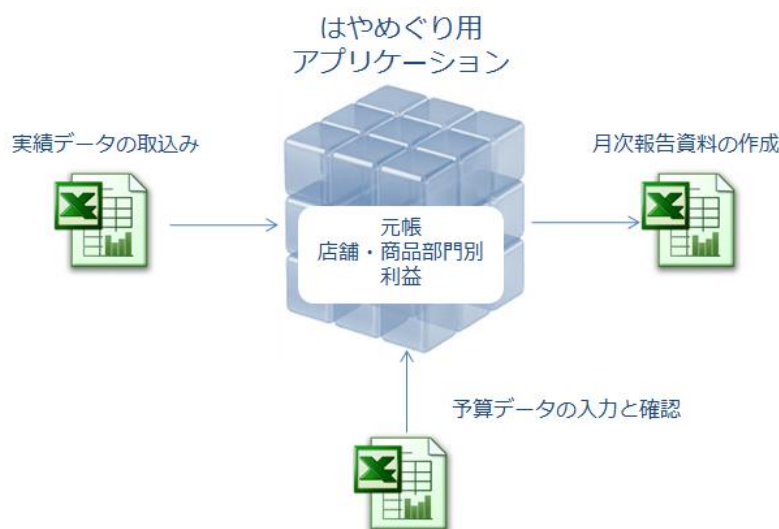
- ⇒「操作の手引き」-「01.マネージャ」-「10.設計」-「01. アプリケーションを作成し、基本情報を設定する」
- 「01.【設 計】アプリケーションを新しく作成する」

うまくいかない時には

はやめぐりの途中で、どう設定すれば良いかわからなくなった時や、正しく設定したつもりなのにシステム処理がうまくいかない時には、fusion_place のインストールに伴って自動作成されるアプリケーション「SAMPLE1」をご覧ください。SAMPLE1 の設定内容は、このチュートリアルで作成するアプリケーションと全く同じです（アプリケーションラベルを除く）。また、インストーラに同梱されている SAMPLE1.xlsx は、このチュートリアルで使用する「はやめぐり_ひな形.xlsx」の完成版です（シート上の接続先アプリケーションラベルセルの内容は「SAMPLE1」となっています）。これも合わせてご参照下さい。

作成するシステムの概要

下図は、この「はやめぐり」の第7章までで作成するシステムの全体像です。



1. 図の中央部分 — まず、はやめぐり用のアプリケーションを作成し、その中に、店舗・商品部門別の売上高や粗利・経費のデータを納める箱として「元帳」をひとつ作成します。
2. 図の左側部分 — 実績データは、会計システムからデータファイルとして提供されたものを「Excel-Link」を用いて元帳に書き込みます。
3. 図の下側部分 — 各店舗の予算を Excel シートに入力し、「Excel-Link」を用いて元帳に書き込みます。入力するだけでなく予算値の集計結果を同じ Excel シートで確認することもできるようにします。
4. 図の右側部分 — 月次報告資料も Excel シートとして作成します。「Excel-Link」を用いて、fusion_place の元帳のデータをもとに、さまざまなレイアウトのシートを作成します。また、検索条件を指定してピボットテーブル形式でデータを分析することもできます。

fusion_place の「アプリケーション」とは、特定の業務目的を実現するための設定・データの集まりです。設計者は任意のアプリケーションを設けることができます。例としては、以下のようなものがあるでしょう：

- ・ 部門予算管理アプリケーション
- ・ 月次損益報告アプリケーション
- ・ 製品群別採算管理アプリケーション

システム内のデータは、アプリケーションごとに区分されます（「ライセンス」と「ユーザアカウント」に関するデータは、この例外として、全アプリケーション共通です）。

8章・9章ではもうひとつのデータ入出力機能である「フォーム」を利用して頂きます。フォームを用いたシステム全体像は、後程ご紹介します。

モデルケースのご説明

「はやめぐり」では、想像上のひとつの企業を題材として用います。この企業、株式会社ルバイヤートは、和洋の食器とガラスウェア（ガラス製の食器・調度類）を販売しており、六本木・代官山・横浜・京都に店舗を持っています。

あなたはこの会社の営業統括部に所属しています。営業統括部はその名の通り営業活動の全般を統括しており、その中であなたは、とくに、営業部門全体の経営管理を担当しています。

「経営管理」業務には、各店舗の売上や利益について、（1）予算を取りまとめること、（2）実績を把握して予算に対する達成状況を分析すること、（3）当月までの実績を踏まえて年間の売上と利益を予測すること、が含まれています。また店舗別という視点だけではなく、和食器・洋食器・ガラスウェアという商品部門別の分析も重要です。

今回は上記（1）と（2）の業務、すなわち予算編成と予算実績管理を、店舗と商品部門、2つの切り口にもとづいて行うための仕組みを構築しましょう。

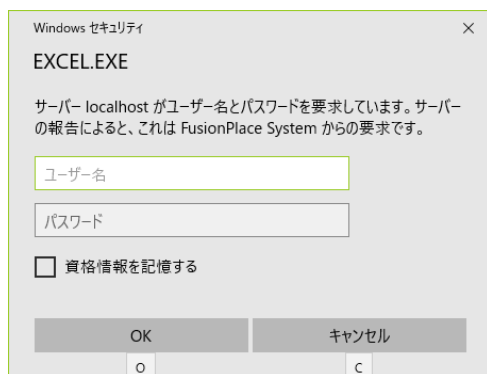
1 Excel-Link を使用する

この「はやめぐり」で作っていくシステムの完成形が、サンプルとしてすでに用意されています。fusion_place のインストール時に自動作成される「サンプルアプリケーション①」という名称のアプリケーションがそうです。ここでは、まずは、それを用いて Excel のレポートや入力表を使ってみましょう。「Excel-Link」では、fusion_place のデータを Excel シートの任意の範囲に貼り付けて、報告資料を簡単に作成することができます。

1.1 Excel-Link でシートにデータを取得する

「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルの「SAMPLE1.xlsx」という Excel ファイルを開き、「月次予算実績対比表」シートを選択して下さい。メニューから [fusions]-[データ取得]を選んでください。

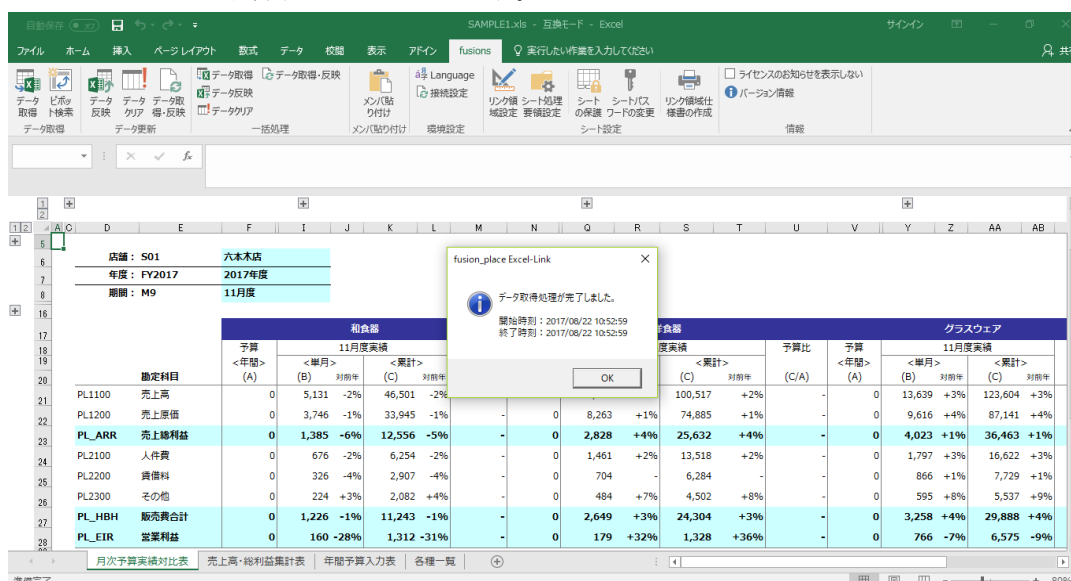
ユーザ名とパスワードの入力を促されますので、下図のように入力して、OK ボタンをクリックして下さい。Windows のバージョンにより、画面の見かけが異なる場合やメッセージが英語で表示される場合がありますが、気にする必要はありません。



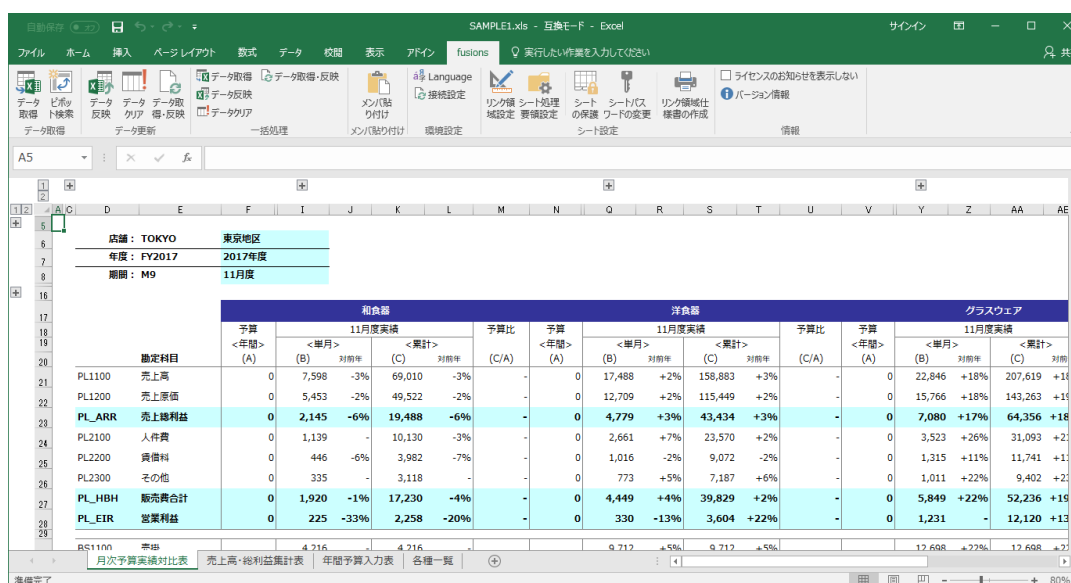
ユーザアカウント	パスワード
admin	admin

大文字と小文字が区別されます

シートにデータを取得することができます。



続いて、店舗欄のセル（E6）をクリックすると、セルの右に▼ボタンが現れます。そのボタンをクリックすると店舗コードの一覧が表示されますので（これは、Excel-Link ではなく Excel そのものの機能です）、「TOKYO」を選んで下さい。再び、メニューから「データ取得」を実行すると、東京地区の合計表が表示されます。



Excel-Link を利用すると、fusion_place のデータを、Excel で作成した報告資料に、このように簡単に貼り付けることができます。

次に「売上高・総利益集計表」シートを表示してみてください。同様にメニューから[fusions]-[データ取得]を選ぶとデータを取得することができます。

目録作成 (2) | 印刷 | 戻る | 進む | 検索 | 設定 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行 | 実行

経営管理報告資料には、このシートと月次予算実績対比表シートのように「元データは同じだが表示の仕方が異なる」資料が多数含まれるのが普通です。これらの資料を作成するためには、通常、同じ数値（たとえば「六本木店の和食器の売上高」）を複数のシートに入力することを強いられます。Excel-Link を用いると、このような二重入力是不要となります。

2 Excel-Link で予算データを入力する

前のステップで見たシートには「予算」欄がありましたが、予算値は表示されていませんでした。株式会社ルバイヤートでは、従来、予算値は月次報告資料の Excel シートに都度入力されてきました。

同じ予算値を複数のシートに何度も入力するのは面倒ですし間違いのもとです。そこで、この新システムでは、ひとつのシートに予算値を入力すると、それが他のすべてのシートに反映される仕組みにしましょう。

2.1 店舗別予算を入力する

「SAMPLE1.xlsx」ファイルの「年間予算入力表」シートを表示し、「データ取得」を実行して下さい。まだ予算値は入力されていないので下図のようにすべてのセルにゼロが表示されます。fusion_place で入力不可能なセルは色を付けて表示されます（シートを保護していれば、これらのセルは自動的にロックされ、Excel シート上でも入力不可になります）。

最新保存 (2)

印刷

編集

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前

名前</

入力欄に値を入力してみましょう。表の右側（K 列以降の領域）に店別の予算データを用意しています。六本木店のデータを F 列から H 列に「値貼り付け」してください。貼り付けが終わった後のシートは下図のような状態です：

店舗： S01		六本木店					
年度： FY2017		2017年度					
		単位：千円					
勘定科目	和食器	洋食器	グラスウェア	計			
	予算 <年間>	予算 <年間>	予算 <年間>	予算 <年間>			
PL1100 売上高	64,000	138,000	170,000				
PL1200 売上原価	46,500	103,000	120,000				
PL_ARR 売上総利益							
PL2100 人件費	8,500	18,500	22,500				
PL2200 賃借料	4,000	8,000	10,000				
PL2300 その他	2,800	6,000	7,500				
PL_HBH 販売費合計							
PL_EIR 営業利益							

月次予算実績対比表		売上高・総利益集計表		年間予算入力表		各種一覧		+	
-----------	--	------------	--	---------	--	------	--	---	--

それではこのデータを fusion_place の元帳に反映（保存）しましょう。メニューから [fusions]-[データ反映]を実行して下さい。「データ反映処理が完了しました」というメッセージが表示され、画面上では下図のように、fusion_place が計算した集計項目の値も表示されます：

自動保存

印刷

戻る

進む

リセット

ヘルプ

SAMPLE1.xlsx - Excel

サインイン

共有(S)

ファイルホーム挿入描画ページレイアウト数式データ校閲表示アドインfusions

データ取得データ取得・反映データ反映データクリアデータ更新一括処理

メンバー付け

環境設定

Language接続設定

リンク領域設定要領設定

シート処理の保護

シートパスワードの変更

リンク領域仕様の作成

ライセンスのお知らせを表示しないバージョン情報

情報

店舗S01

+

12

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

他の店舗（代官山・横浜・京都）についても同様にして、予算をデータベースに反映しましょう。店舗欄 E6 で各店舗のコード（S02, S03, S04）を選択して、データ取得→予算値の「値の貼り付け」→データ反映を繰り返して下さい。

2.2 予算を集計して確認する

各店舗の予算データが fusion_place のデータベースに保存されれば、その集計結果を確認するのも簡単です。

「年間予算入力表」シートの店舗欄 E6 で「TENPO_KEI」を選択した上で、メニューから[fusions]-[データ取得]を実行して下さい。下図のように予算の全店舗合計値が表示されます。

店舗：TENPO_KEI 店舗合計

年度：FY2017 2017年度

単位：千円

勘定科目	和食器	洋食器	グラスウェア	計
	予算 <年間>	予算 <年間>	予算 <年間>	予算 <年間>
PL1100 売上高	169,500	398,000	505,000	1,072,500
PL1200 売上原価	118,000	286,000	349,000	753,000
PL_ARR 売上総利益	51,500	112,000	156,000	319,500
PL2100 人件費	23,900	58,600	74,600	157,100
PL2200 賃借料	10,100	22,000	28,100	60,200
PL2300 その他	7,700	18,250	23,400	49,350
PL_HBH 販売費合計	41,700	98,850	126,100	266,650
PL_EIR 営業利益	9,800	13,150	29,900	52,850

月次予算実績対比表	売上高・総利益集計表	年間予算入力表	各種一覧	+
-----------	------------	---------	------	---

店舗合計予算は集計結果であって、直接、編集することはできないことを表すため、全セルが着色表示されています。データ取得時に着色されたセルは、シートを保護すれば、実際に編集不能となります。

同様に東京地区の合計予算を表示することもできますので、試してみてください。

fusion_place では原則として集計組織へのデータ入力できませんが、予算編成の場面では予算値を集計組織に入力したい場合や、集計勘定に入力したい場合があります。fusion_place ではこういった「集計レベル」の組織や勘定科目などの項目に入力できる機能も用意しています。詳細については、ユーザマニュアルの、以下の箇所をご覧ください

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「08.元帳」-「04.【設・管】元帳セル値の入力と集計」

実務では、このような Excel-Link 設定済みのシートを各部署に配布し、それを回収して元帳に反映すれば、以上のように即座にデータを集計することができます。fusion_place ではさらに、シートの配布やデータ収集のためのワークフローを構築する機能も備えています（premium と cloud のみの機能になります）。

2.3 月次報告帳票に予算値を表示する

最後に、月次報告帳票（月次予算実績対比表と売上高・総利益集計表）の各シートを表示して、メニューから[fusions]-[データ取得]を実行し、予算を帳票に表示しましょう。

【月次予算実績対比表シート】

店舗： S01	六本木店
年度： FY2017	2017年度
期間： M9	11月度

勘定科目	和食部					洋食部							
	予算 <年間> (A)	11月度実績			予算比 (C/A)	予算 <年間> (A)	11月度実績			予算比 (C/A)	予算 <年間> (A)		
		<単月> (B)	対前年	<累計> (C)			<単月> (B)	対前年	<累計> (C)				
PL1100 売上高	64,000	5,131	-2%	46,501	-2%	73%	138,000	11,091	+2%	100,517	+2%	73%	170,000
PL1200 売上原価	46,500	3,746	-1%	33,945	-1%	73%	103,000	8,263	+1%	74,885	+1%	73%	120,000
PL_ARR 売上総利益	17,500	1,385	-6%	12,556	-5%	72%	35,000	2,828	+4%	25,632	+4%	73%	50,000
PL2100 人件費	8,500	676	-2%	6,254	-2%	74%	18,500	1,461	+2%	13,518	+2%	73%	22,500
PL2200 賃借料	4,000	326	-4%	2,907	-4%	73%	8,000	704	-	6,284	-	79%	10,000
PL2300 その他	2,800	224	+3%	2,082	+4%	74%	6,000	484	+7%	4,502	+8%	75%	7,500
PL_HBH 販売費合計	15,300	1,226	-1%	11,243	-1%	73%	32,500	2,649	+3%	24,304	+3%	75%	40,000
PL_EIR 営業利益	2,200	160	-28%	1,312	-31%	60%	2,500	179	+32%	1,328	+36%	53%	10,000

【売上高・総利益集計表シート】

年度：FY2017		2017年度	
期間：M9		11月度	

単位：千円

商品部門	店舗	売上高					総利益						
		予算 <年間> (A)	11月度実績		予算比 (C/A)	予算 <年間> (A)	11月度実績		予算比 (C/A)				
			<単月> (B)	対前年			<累計> (C)	対前年		<単月> (B)	対前年	<累計> (C)	対前年
和食器	六本木店	64,000	5,131	-2%	46,501	-2%	73%	17,500	1,385	-6%	12,556	-5%	72%
	代官山店	30,500	2,467	-5%	22,510	-4%	74%	10,000	760	-7%	6,933	-6%	69%
	東京地区	94,500	7,598	-3%	69,010	-3%	73%	27,500	2,145	-6%	19,488	-6%	71%
	横浜店	0	0	-	0	-	-	0	0	-	0	-	-
	京都店	75,000	6,033	-1%	56,049	+1%	75%	24,000	1,940	+2%	18,020	+5%	75%
	計	169,500	13,631	-2%	125,059	-1%	74%	51,500	4,085	-2%	37,508	-1%	73%
洋食器	六本木店	138,000	11,091	+2%	100,517	+2%	73%	35,000	2,828	+4%	25,632	+4%	73%
	代官山店	80,000	6,396	+3%	58,366	+4%	73%	24,500	1,951	+1%	17,802	+2%	73%
	東京地区	218,000	17,488	+2%	158,883	+3%	73%	59,500	4,779	+3%	43,434	+3%	73%

このように、ひとつのシートで入力したデータを、すべてのシートで共有することができます。ここで使ったブック（Excel ファイル）はひとつだけでしたが、ブックが複数あっても、同様に、データを共有することができます。

3 Excel-Link ピボット検索を使う

データベースに保持されているデータは、Excel-Link の「ピボット検索」機能を用いて自在に検索することができます。実績データを検索してみましょう。

3.1 検索条件を指定し、ピボット検索を実行する

Microsoft Excel を起動し、メニューから[fusions]-[ピボット検索]を選んで下さい。下図のような、「ピボット検索」画面が表示されます。

この画面で、検索条件を指定して下さい：

項目	指定内容
アプリケーション	「サンプルアプリケーション①」を選択して下さい（初期提案値と異なりますのでご注意ください）。
元帳	「店舗・商品部門別利益」を選択して下さい（初期提案値のままです）。
業務責任単位	「なし（システム定義）」のみ選択可能です（初期提案値のままです）。
元帳版	「共有作業版」を選択して下さい（初期提案値と異なりますのでご注意ください）
符号処理	「科目属性」を選択して下さい（初期提案値のままです）。

続いて次頁の説明を参考に、「フィルタ」を設定して下さい。

フィルタ欄では、ディメンションごとに検索対象メンバの絞り込み条件を指定することができます（ディメンションはデータのキー項目、メンバは各キーの具体的な値とお考え下さい）。

fusion_place Excel-Link - ピボット検索

アプリケーション: サンプルアプリケーション① ☐ ラベルで表示
☒ データシートを作成する

元帳: 店舗・商品部門別利益 業務責任単位: なし(システム定義)
元帳版: 共有作業版
符号処理: 科目属性

フィルタ

ディメンション	起点メンバ	展開方法
<input type="radio"/> 勘定科目	営業利益	子孫メンバを含む
<input type="radio"/> 増減科目	なし	自身のみ
<input type="radio"/> 会計年度	(すべてのルートメンバ)	自身のみ
<input type="radio"/> 相対期間	年	子孫メンバを含む
<input type="radio"/> シナリオ	(すべてのルートメンバ)	自身のみ
<input type="radio"/> 表示形式	期別	自身のみ
<input type="radio"/> 商品部門	商品合計	自身のみ
<input checked="" type="radio"/> 店舗	店舗合計	自身のみ

フィルタ編集

検索条件保存 検索条件読込 実行 キャンセル

「ピボット検索」画面で各行をダブルクリックするか、各行をクリックして反転表示した状態で「フィルタ編集」ボタンをクリックすると以下のような「フィルタ編集」画面が表示されます。

フィルタ編集

アプリケーション: サンプルアプリケーション①

ディメンション: 店舗

起点メンバ

(すべてのルートメンバ)

⊕ 店舗合計 / TENPO KEI

(検索結果)

検索

名称 ラベル

展開方法

☒ 自身のみ
☐ 子メンバを含む
☐ 子孫メンバを含む
☐ 最下位メンバのみ

適用する キャンセル

ここで、絞り込みの起点（頂点）となるメンバと、起点メンバをもとにどの範囲のメンバを検索対象に含めるかを示す「展開方法」を指定して下さい。

今回は、ディメンションごとに以下のように設定して下さい：

ディメンション	起点メンバ	展開方法
会計年度	2017 年度	自身のみ
シナリオ	実績	自身のみ
商品部門	商品合計	子孫メンバを含む
店舗	店舗合計	子孫メンバを含む

※ この表にないディメンションについては、初期提案値のままとして下さい。またこの表上でも、網掛け部分は初期提案値のままです。

fusion_place Excel-Link - ピボット検索

アプリケーション: サンプルアプリケーション①

☐ ラベルで表示
☒ データシートを作成する

元帳: 店舗・商品部門別利益

業務責任単位: なし(システム定義)

元帳版: 共有作業版

符号処理: 科目属性

フィルタ

ディメンション	起点メンバ	展開方法
<input type="radio"/> 勘定科目	営業利益	子孫メンバを含む
<input type="radio"/> 増減科目	なし	自身のみ
<input type="radio"/> 会計年度	2017 年度	自身のみ
<input type="radio"/> 相対期間	年	子孫メンバを含む
<input type="radio"/> シナリオ	実績	自身のみ
<input type="radio"/> 表示形式	期別	自身のみ
<input checked="" type="radio"/> 商品部門	商品合計	子孫メンバを含む
<input type="radio"/> 店舗	店舗合計	子孫メンバを含む

検索条件保存

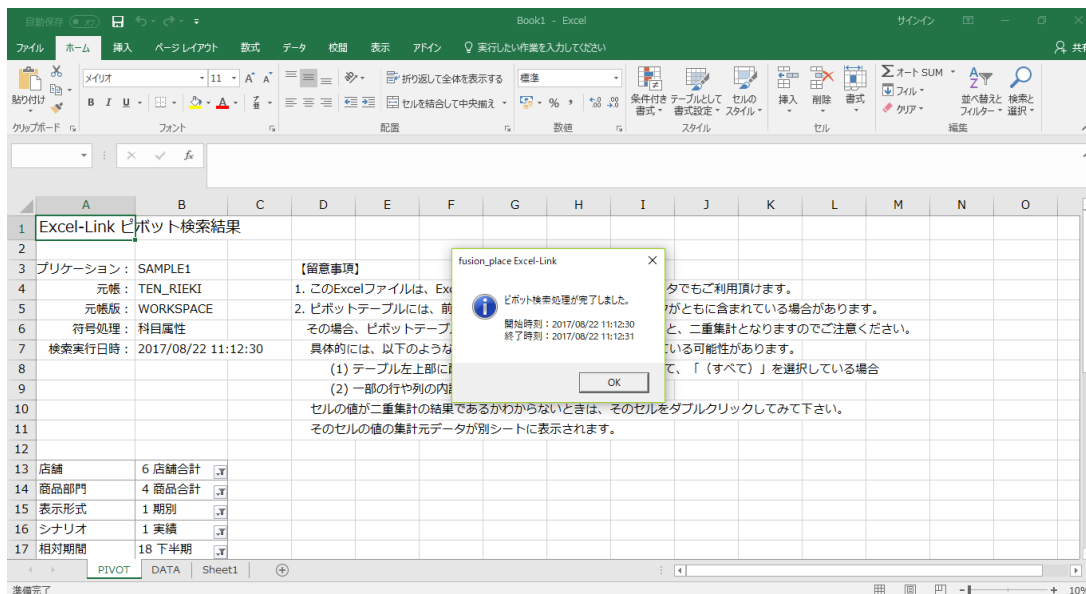
検索条件読込

実行

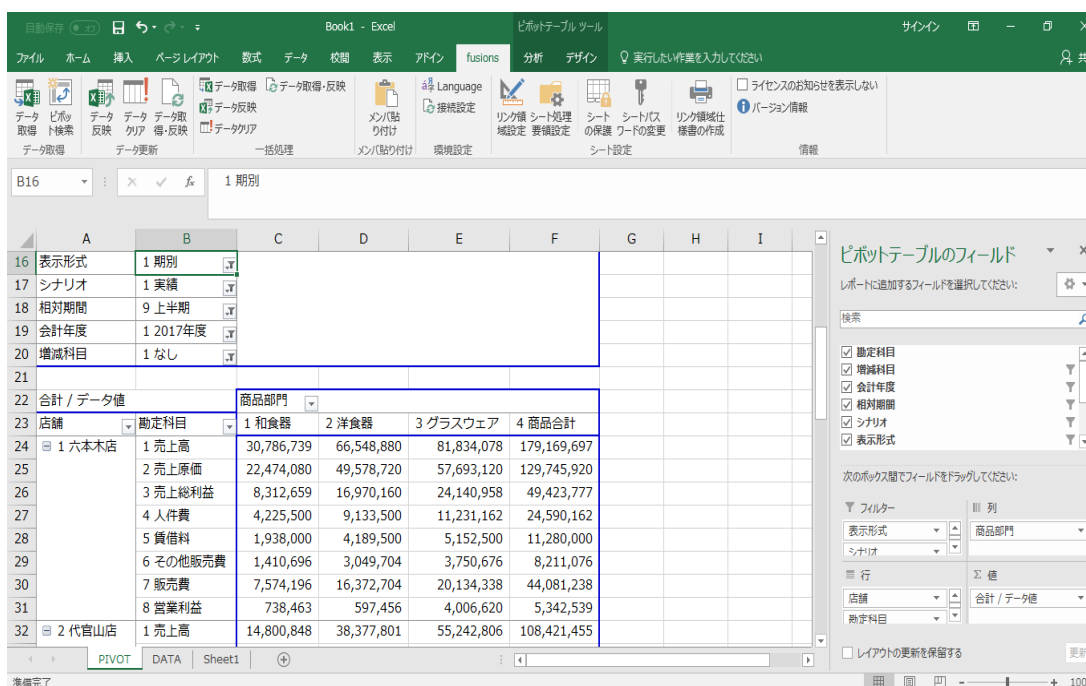
キャンセル

フィルタ編集

検索条件を指定し終えたら、「ピボット検索」画面の実行ボタンをクリックして下さい。図のように検索結果が表示されます。



検索結果は、Excel のピボットテーブルとして表示されています。従って、店舗や商品部門などの「ディメンション（データの切り口）」をテーブルの縦軸・横軸にドラッグすることによって、下図のように、任意のマトリックス形式で、検索結果を表示することができます。




4 ディメンションと元帳を設定する

それではこれまで使用してきたものと同様のアプリケーションを実際に作成してみましょう。その中に、店舗別・商品部門といったディメンション（データの切り口）を作ります。さらに、そのディメンションを軸として売上・利益データを収容する元帳（データの箱）を用意します。

4.1 新しいアプリケーションを作成する

Step 1. fusion_place マネージャを起動する

コンピュータのデスクトップにある fusion_place マネージャのアイコンをダブルクリックして fusion_place マネージャを起動して下さい。

Step 2. fusion_place マネージャにログインする

「ログイン」画面が表示されますので、以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。



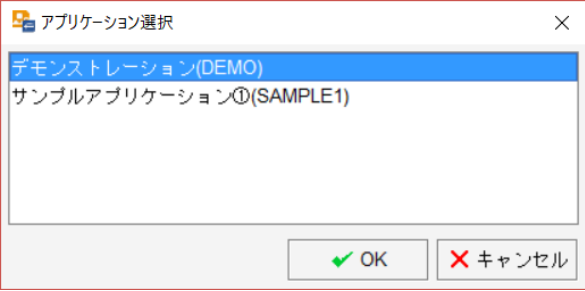
ログイン画面のスクリーンショット。タイトルは「ログイン」。ユーザーアカウント欄に「admin」、パスワード欄に黒い丸が6つ表示されている。役割のプルダウンメニューには「DESIGNER/ 設計者」が選択されている。右下には「OK」と「キャンセル」のボタンがある。

ユーザアカウント	パスワード	役割
admin	admin	「設計者」

大文字と小文字が区別されます

*fusion_place のセットアップ後、ユーザアカウントやパスワードを変更した場合には、上記に代えて、適切なユーザアカウントとパスワードを入力して下さい。

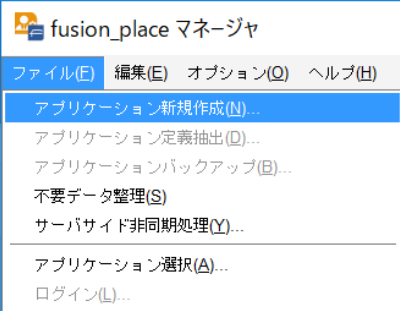
この後、「アプリケーション選択」画面が表示されます。既存のアプリケーションを使うのではなく、新しいアプリケーションをこれから作成するため、この画面では「キャンセル」ボタンをクリックして下さい。



アプリケーション選択画面のスクリーンショット。タイトルは「アプリケーション選択」。リストには「デモンストレーション(DEMO)」と「サンプルアプリケーション①(SAMPLE1)」が示されている。右下には「OK」と「キャンセル」のボタンがある。

Step 3. アプリケーションの新規作成を始める

メニューから[ファイル(F)]-[アプリケーション新規作成(N)...]を選択して下さい。



Step 4. 新しいアプリケーションを作成する

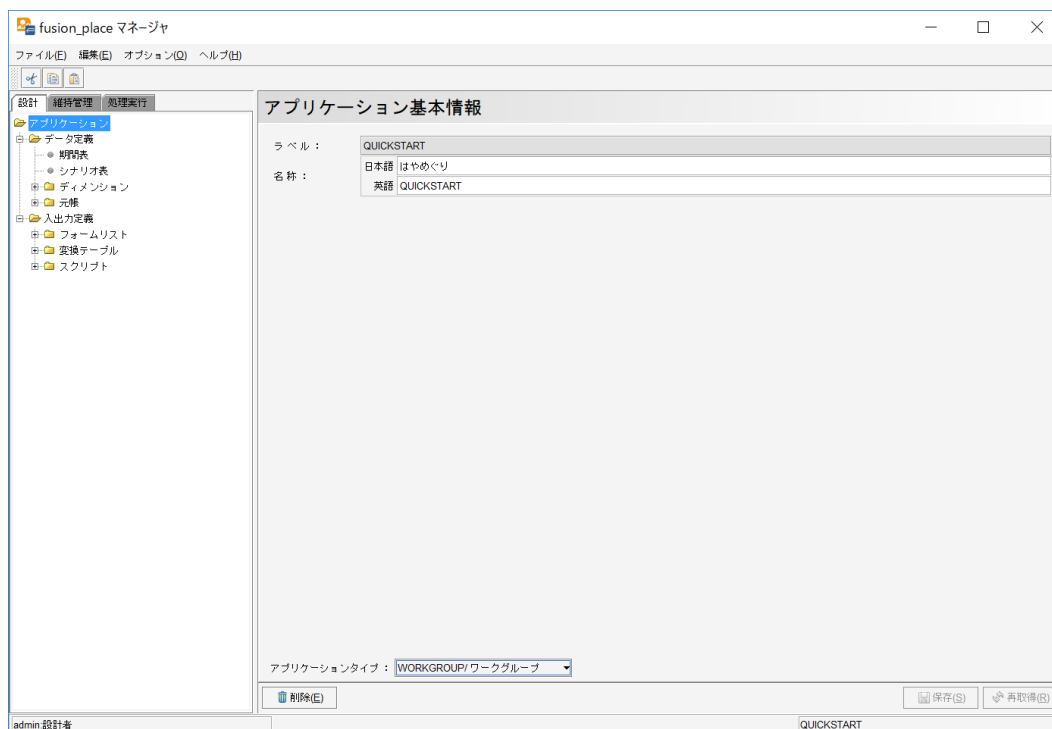
「アプリケーション新規作成」画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

ラベル	名称(日本語)	名称(英語)	作成方法	アプリケーション タイプ
QUICKSTART	はやめぐり	QUICKSTART	「アプリケーションタイプを指定して、白紙から作成する」をチェック	ワークグループ

「ラベル」とは、fusion_place の様々なオブジェクトを識別するために用いるコードのことです。アプリケーションだけでなく、後で紹介するディメンションや元帳などもそれぞれラベルを持ちます。ラベルは 20 文字以内で、英大文字、数字、大部分の特殊文字を含めることができます（ラベルの入力時に英小文字を入力すると大文字に変換されます）。

ただし、ひと文字目が# のラベルは、特殊目的での使用のため予約されているので、ユーザが登録するオブジェクトには使用できません。

アプリケーションが作成され、「アプリケーション基本情報」画面が表示されます。

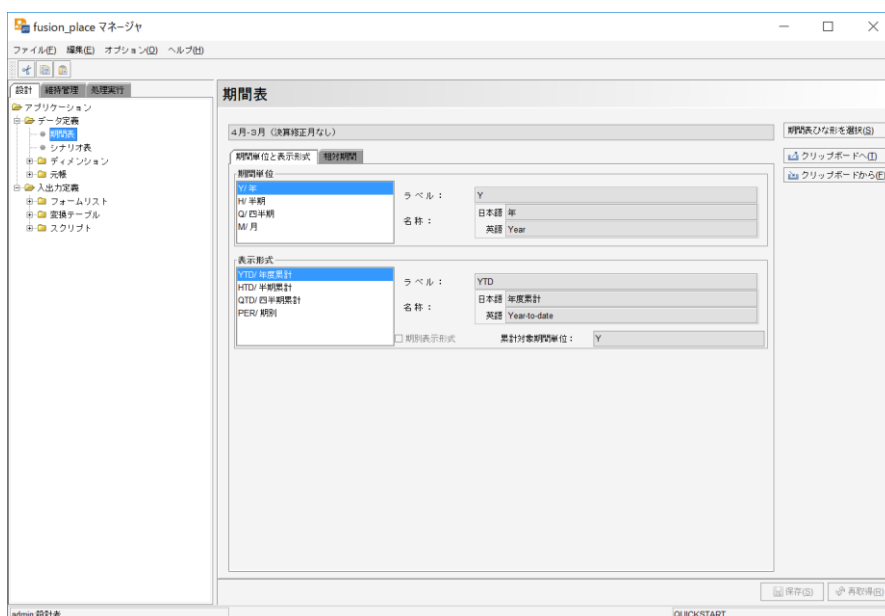


4.2 期間表を選択する

アプリケーションの新規作成時には、4月に始まり3月に終わる期間表が初期設定されます。決算月が3月と異なる場合や、決算修正月を追加したい（13か月になります）等の場合は期間表を変更します。はやめぐりでは初期設定される期間表を用いますが、他の期間表もいくつか見てみましょう。

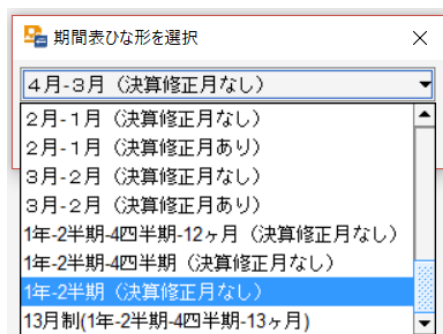
Step 1. 期間表画面を表示する

fusion_place マネージャの画面左側部分、「設計」タブの [アプリケーション] - [データ定義] - [期間表] をクリックして期間表画面を表示して下さい。現在設定されている期間表の内容を確認することができます。右画面の「相対期間」タブをクリックすると期間のツリーが表示されます。



Step 2. 期間表ひな形を選択する

画面右上の「期間表ひな形を選択(S)」ボタンをクリックし、一覧から、試しに「1年-2半期（決算修正月なし）」を選択して下さい（下から2番目の項目です）。



選択後、「適用する(A)」ボタンをクリックして「期間表ひな形を選択」画面を閉じて下さい。

Step 3. 期間表を確認する

「期間単位と表示形式」「相対期間」タブの内容が、選択された期間表に応じて変わることをご確認下さい。最後には、画面右下の「再取得(R)」ボタンをクリックして下さい。「期間表の変更内容が失われますが、よろしいでしょうか？」と尋ねられるので、「はい(Y)」をクリックして下さい。これで、Step 2 で適用した期間表は捨てられ、元の状態に戻ります。

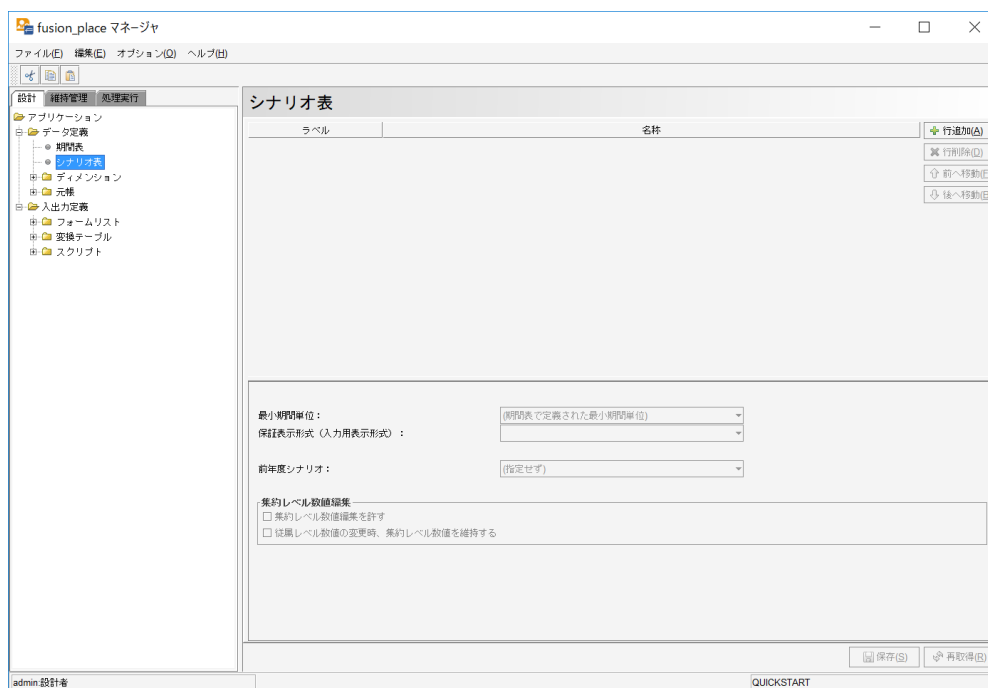
注：誤って、期間表の適用後、「保存(S)」ボタンをクリックして適用結果を保存してしまった場合、あらためて「4月－3月（決算修正月なし）」の期間表ひな形を選択して「保存」して下さい。元の状態に戻ります。

4.3 シナリオを登録する

予算・実績・見込など各年度の事業活動がどのように進むのか（進んだのか）という「筋書き」の種類のことを fusion_place では「シナリオ」と呼びます。「はやめぐり」アプリケーションでは、予算と実績、2つのシナリオを設けます。

Step 1. シナリオ表画面を表示する

fusion_place マネージャの画面左側部分、「設計」タブの [アプリケーション]—[データ定義]—[シナリオ表]をクリックしてシナリオ表画面を表示して下さい。



Step 2. シナリオ行を追加する

画面右上のボタン「行追加(A)」をクリックし、各項目を入力します。

ラベル	名称	最小期間単位	保証表示形式	前年度シナリオ
ACTUAL	実績	(初期値のまま)	「年度累計」を選択	「実績」を選択
BUDGET	予算	(初期値のまま)	「期別」を選択	「実績」を選択

*その他欄外の項目はチェックしない

「最小期間単位」には、期間表で定義された期間単位のうちいずれを最小単位としてデータを保持するかを指定します。ここでは期間表の最小の期間単位である「月」を単位としてデータを保持できるようにしています。

「保証表示形式 (入力用表示形式)」とは、そのシナリオでデータを入力することができる表示形式のことです。たとえば、保証表示形式を「年度累計」とした場合、「期別」や「四半期累計」では、データを表示することはできますが、入力はできません。

バランス勘定科目の増減内訳把握を行わない場合、「前年度シナリオ」には何を設定してもかまいません (いずれかのシナリオを設定する必要があります)。「はやめぐり」アプリケーションはこのケースに該当します。「増減科目ディメンション」を用いてバランス勘定科目の増減内訳を把握する場合には、前年度の期末残高をどのシナリオから取得するかを指定して下さい。

Step 3 シナリオ表を保存する

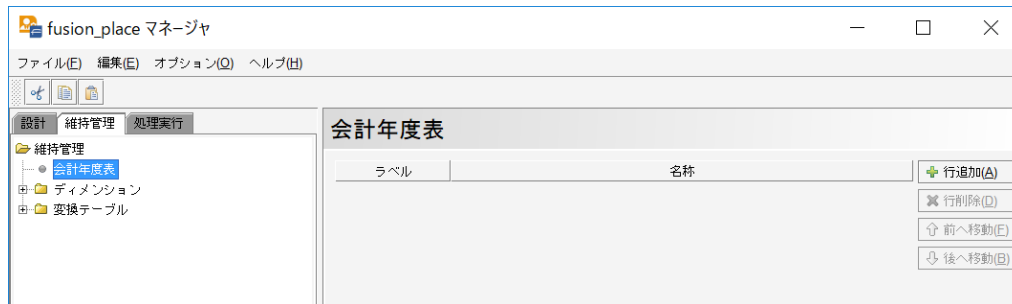
画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして下さい。追加した 2 つのシナリオが保存されます。

4.4 会計年度を登録する

次に登録するのは「会計年度」です。3月決算の場合、4月から翌年の3月までが1会計年度となります。

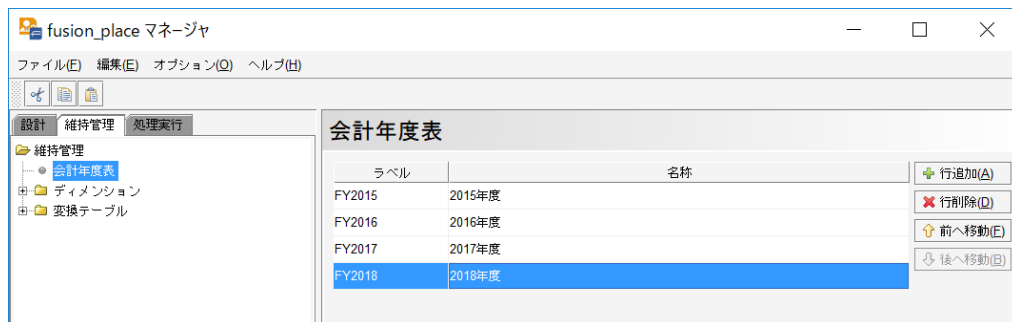
Step 1. 会計年度表画面を表示する

fusion_place マネージャの画面左側部分、「維持管理」タブの【維持管理】-【会計年度表】をクリックして会計年度表画面を表示して下さい。



Step 2. 会計年度行を追加する

画面右上のボタン「行追加(A)」をクリックして会計年度行の各項目を入力して下さい。



ラベル	名称
FY2015	2015 年度
FY2016	2016 年度
FY2017	2017 年度
FY2018	2018 年度

*古い年度から順に並ぶようご注意ください。

最も古い(一番上の)会計年度は会計年度ディメンションのメンバとなりません。次の年度(最初のメンバ)の「前期末残高」の供給元としてのみ使用されるためです。したがって 2016 年度からデータを表示したい場合、上記の例のように 2015 年度から設定する必要があります。

Step 3 会計年度表を保存する

画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして下さい。追加した会計年度が保存されます。

4.5 「店舗」ディメンションを設定する

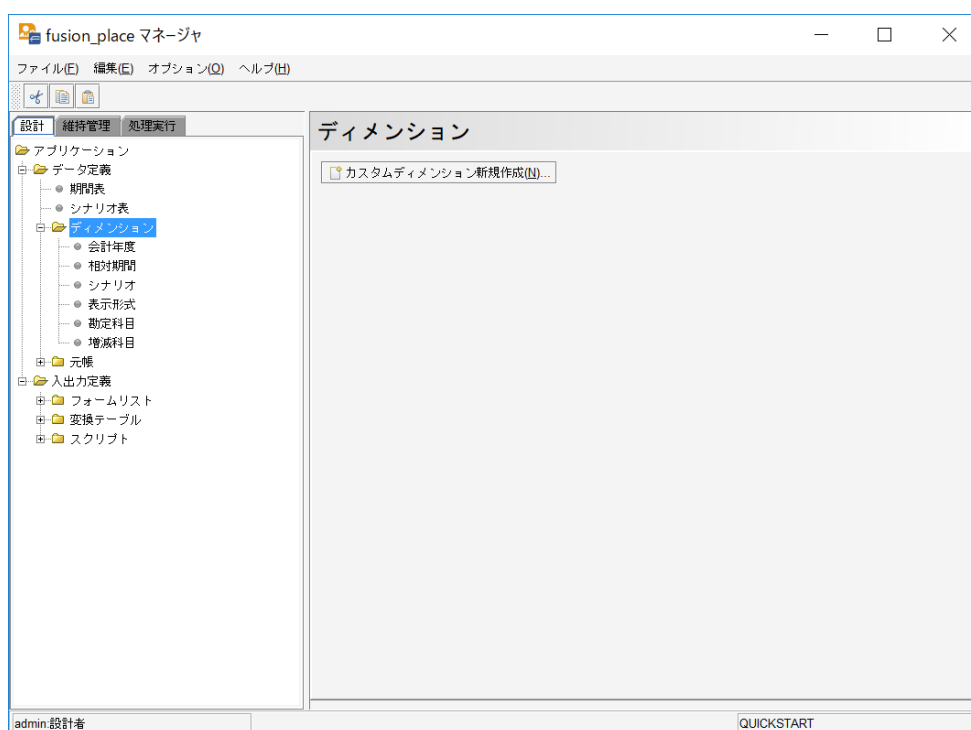
計数データの切り口を fusion_place では「ディメンション」と呼びます。「はやめぐり」アプリケーションでは以下のディメンションについて設定が必要です¹：

- 店舗 … 六本木店・代官山店などを含む。
- 商品部門 … 和食器・洋食器・グラスウェアなどを含む。
- 勘定科目 … 売上高・利益などを含む。

まず、店舗ディメンションを設定します。

Step 1. ディメンション画面を表示する

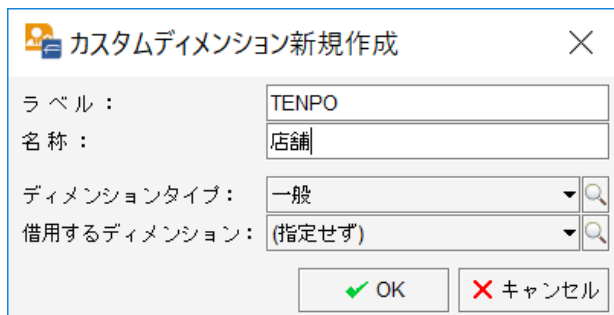
fusion_place マネージャの画面左側部分の「設計」タブの[アプリケーション]－[データ定義]－[ディメンション]をクリックして「ディメンション」画面を表示して下さい。



¹ ディメンションは他にもありますがこの「はやめぐり」では設定不要です。

Step 2. ディメンションを新規作成する

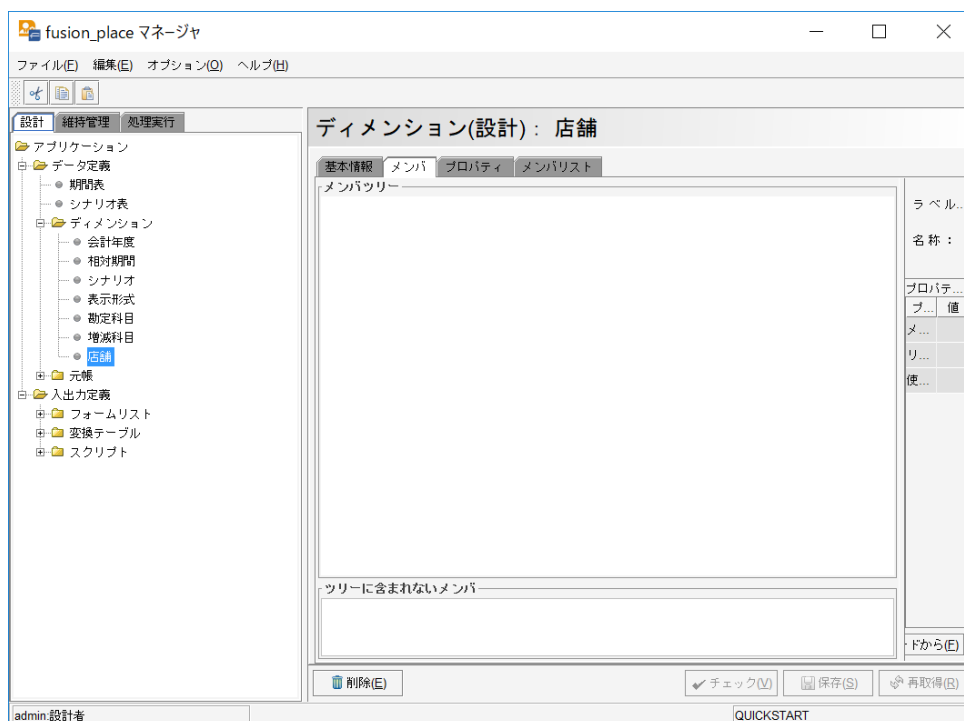
「ディメンション」画面上の「カスタムディメンション新規作成(N)...」ボタンをクリックして下さい。カスタムディメンション新規作成画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。



ラベル:	TENPO
名称:	店舗
ディメンションタイプ:	一般
借用するディメンション:	(指定せず)

ラベル	名称	ディメンションタイプ	借用するディメンション
TENPO	店舗	一般	(指定せず)

店舗ディメンションが作成され、同ディメンションのメンバツリー画面が表示されます。

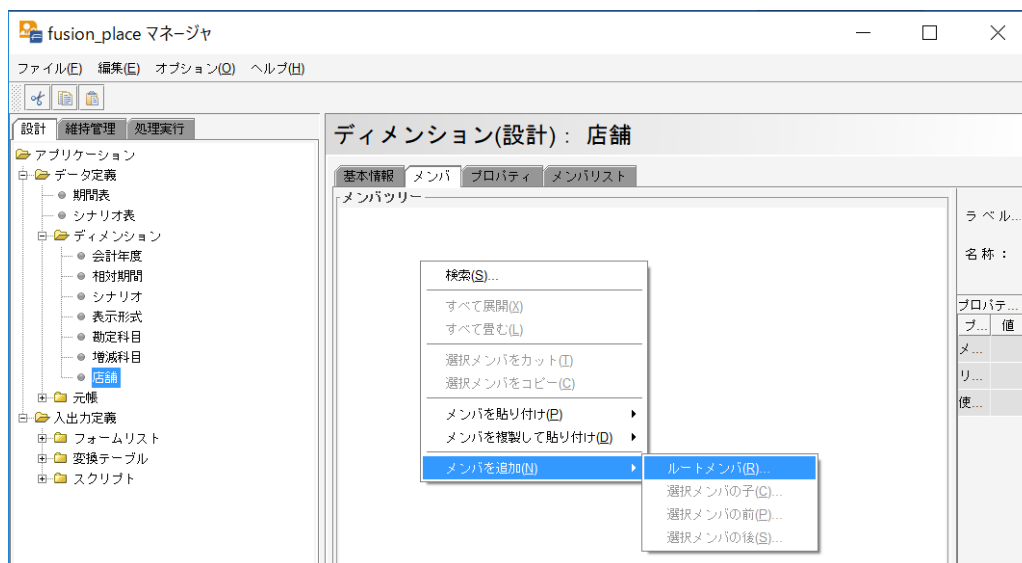


「メンバ」とは、ディメンションに含まれる個々の要素を意味します。店舗ディメンションの場合、「六本本店」・「代官山店」などがメンバの例です。また、そうした個別の要素を束ねて「店舗合計」のような集計メンバを設けることもできます。したがって、ディメンション内には、集計メンバの下位に子メンバが紐づけられたメンバツリーが形作られます。

メンバツリーの最上位（根もと）に位置するメンバを「ルートメンバ（根もとのメンバの意）」と呼ぶことがあります。

Step 3. ルートメンバを登録する

「メンバツリー」領域上で右クリックすると、下図のようにポップアップメニューが表示されます。



ポップアップメニューから、[メンバを追加(N)]-[ルートメンバ(R)...]を選択すると、メンバ新規作成画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

fusion_place マネージャ

×

ラベル:

TENPO_KEI

名称:

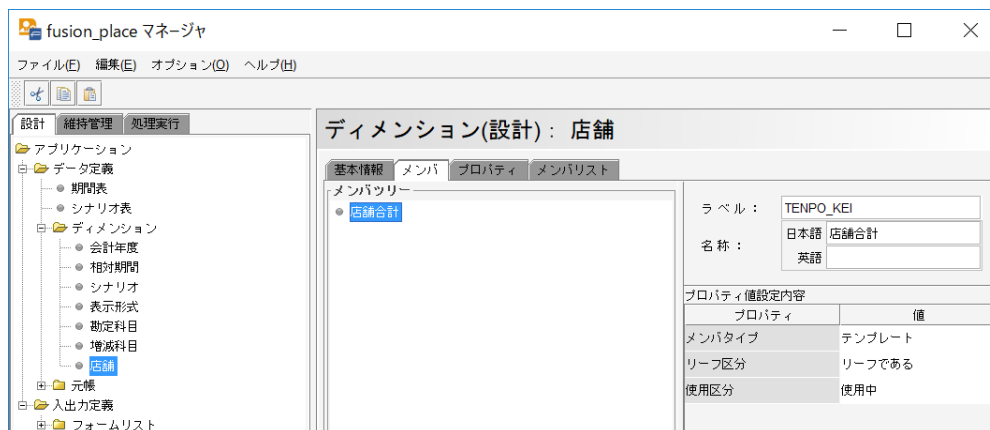
店舗合計

OK

キャンセル

ラベル	名称
TENPO_KEI	店舗合計

「店舗合計」メンバが「メンバツリー」上に表示されます。



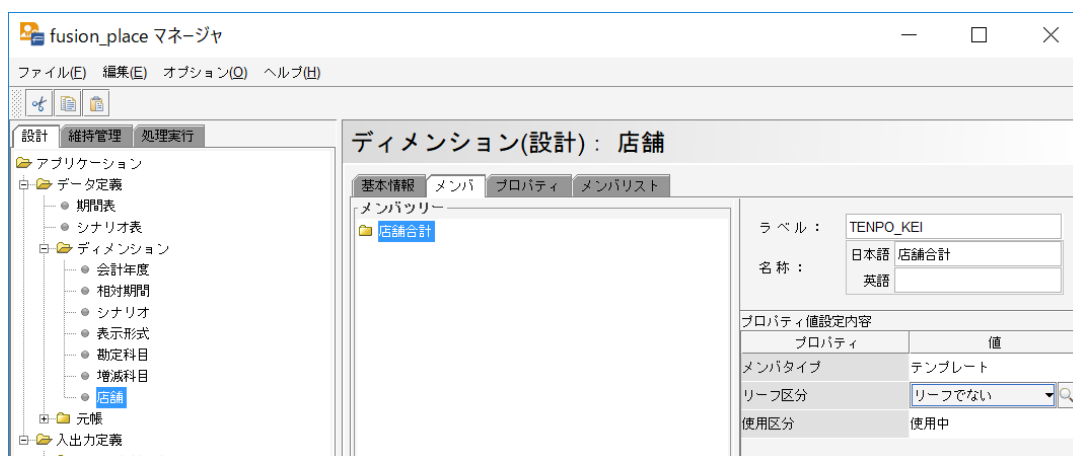
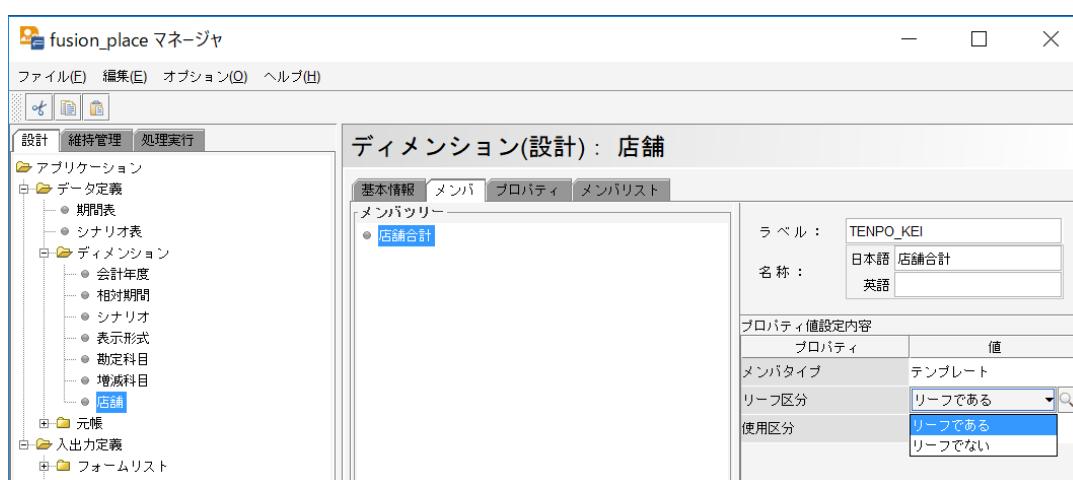
登録直後のメンバはリーフメンバとなります。

	定義	特性	
	「リーフ区分」の値が...	子メンバを..	データ入力...
リーフメンバ	「リーフである」	持てない	受け付ける
集計メンバ	「リーフでない」	持てる	受け付けない(※)

(※) 子メンバのデータが集計されて、集計メンバのデータになります。

ただし、前述の通り、集計メンバへのデータ入力を許可することも出来ます。

「店舗合計」は集計メンバとしたいので、メンバツリー上で「店舗合計」をクリックして選択しておき、メンバツリーの右の「プロパティ値設定内容」で、「リーフ区分」の値を「リーフでない」として下さい。



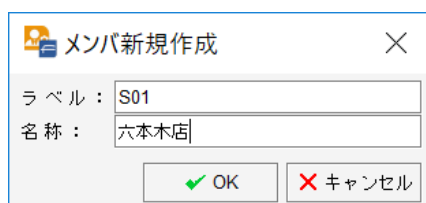
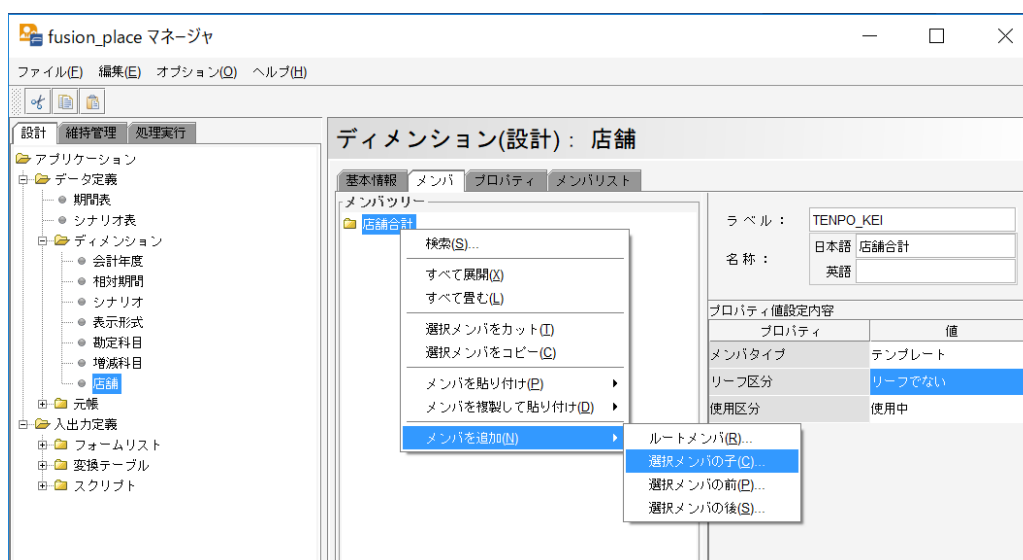
プロパティはメンバの属性です。上図画面に表示されている「メンバタイプ」「リーフ区分」「使用区分」はすべてのディメンションのメンバが持つプロパティです。その他に特定のディメンションのメンバだけが持つプロパティもあります。たとえば勘定科目ディメンションのメンバには、「貸借区分」というプロパティがあり、各メンバが借方科目（利益に対する加算項目）か貸方科目（利益に対する減算項目）かを指定することができます。

あらかじめ決められたプロパティに加えて、ユーザがプロパティを追加することもできます。

Step 4. 各店舗メンバを登録する

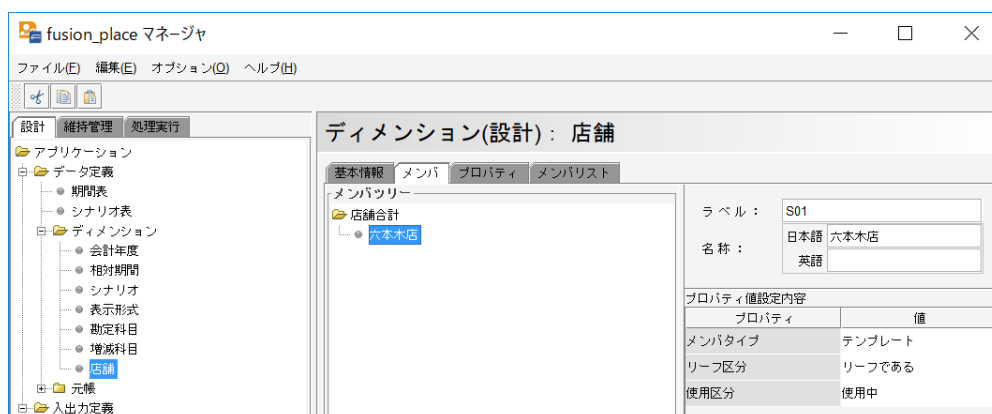
各店舗に対応するメンバを、店舗合計の子メンバとして登録していきます。

メンバツリー上で「店舗合計」をクリックして選択しておき、右クリックして、ポップアップメニューから、[メンバを追加(N)]－[選択メンバの子(C)...]を選択すると、前回と同じく、メンバ新規作成画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。



ラベル	名称
S01	六本木店

「六本木店」が「店舗合計」の子メンバとして追加され、選択された状態になります。



以下、六本木店以外の店舗に対応するメンバも同様に追加して下さい。各メンバには以下のラベル（店舗コード）と名称をお使い下さい。また各メンバのプロパティ値は初期設定値のままとして下さい。

ラベル	名称(日本語)
S01	六本木店
S02	代官山店
S03	横浜店
S04	京都店

*後の作業に影響するので、ラベルはかならず指定通りに設定して下さい。以降で行う設定においても同様です。
間違ってラベルを設定した時は、画面右のラベル欄で上書き修正することが出来ます。

追加するとき、以下の方法も試してみてください：

- すでに登録済の店舗メンバ（たとえば六本木店）を選択しておいた上で、ポップアップメニューから、[メンバを追加(N)]－[選択メンバの後(S)...]を選ぶ。
- 「店舗合計」をクリックして選択しておいた上で、メニューから、[編集(E)]－[メンバを追加(N)]－[選択メンバの子(C)...]を選ぶ。

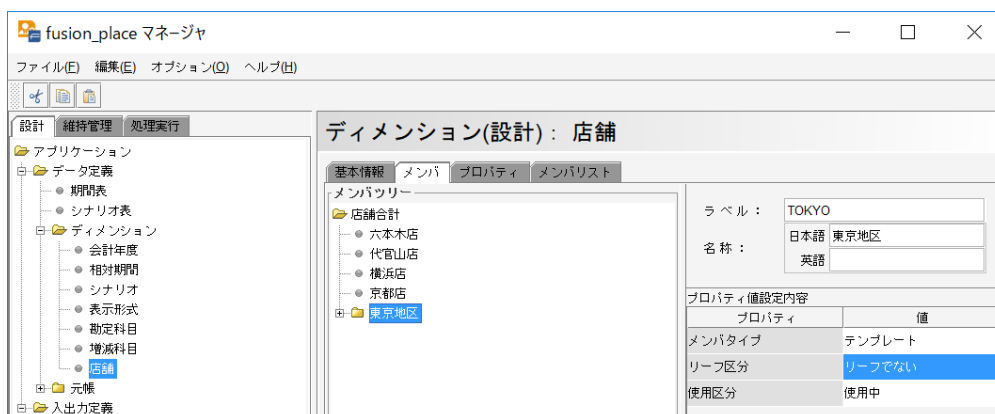
登録位置は後から変更することもできます（詳細は **Step5** 参照）。

次の作業に移る前に、画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして設定内容を保存しておきましょう。

Step 5. 集計の括りを付け加える

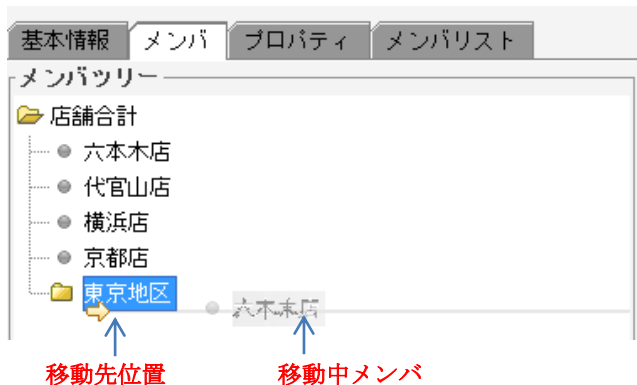
各店舗をメンバとして登録できたら、最後に、集計メンバをもうひとつ登録しておきましょう。株式会社ルバイヤートでは、東京地区の二店舗（六本木店と代官山店）をまとめた単位でも業績を管理しています。そこで、店舗ディメンションに、集計メンバ「東京地区」を設けましょう。

まず、「店舗合計」の子として、以下のように「東京地区」を作成します。



ラベル	名称	リーフ区分
TOKYO	東京地区	「リーフでない」

次に、「六本木店」を「東京地区」の下までドラッグしましょう。すなわち、「六本木店」をクリックしてマウスの左ボタンを押したまま、「東京地区」の右下あたりまでマウスの矢印を動かします。移動先位置がクリーム色の矢印で示されます。



上図のように、クリーム色の矢印が「東京地区」の「東」の字の下あたりに来たら、マウスのボタンを離します（ドロップ）。これで、「六本木店」は東京地区の子メンバとなります。

ドロップするタイミングによっては、「東京地区」の下ではなく直後に「六本木店」が移動してしまうことがあります。ドロップする前に「東京地区」が反転表示された状態でマウスをしばらく止めておき、その後、「六本木店」を少し右下にドラッグすると、クリーム色の矢印が「東京地区」の「東」の字の下に移動します。そこでマウスのボタンを離すとうまくいきます。

ドラッグ&ドロップが面倒でしたら、カット&ペーストで移動することもできます。「六本木店」を選択して右クリックし、ポップアップメニューから、[選択メンバをカット(T)]を選んで下さい（六本木店がカットされます）。次に「東京地区」を選択して右クリックし、ポップアップメニューから、[メンバを貼り付け(P)]-[選択メンバの子(C)]を選んで下さい（「六本木店」が「東京地区」の下に現れます）。

代官山店も同じようにして東京地区の下に移動し、最後に「東京地区」自体を、横浜店の前に移動して下さい。

この時点でメンバツリーは以下のようにになっているはずです。



左の図のように、メンバのラベルと名称を並べて表示するには、メニューから、[オプション(O)]-[オブジェクト表示(D)]-[ラベルと名称(A)]を選んで下さい。

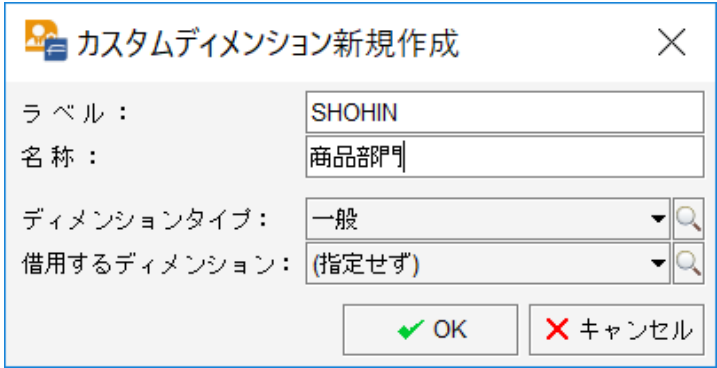
以上で、店舗ディメンションの設定は終わりです。画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして設定内容を保存して下さい。

4.6 「商品部門」ディメンションを設定する

次に「商品部門」ディメンションを設定しましょう。今回は、メンバを手で登録するのではなく、テキストファイル（CSV ファイル）から読み込んで登録してみましょう。

Step 1. ディメンションを新規作成する

新規作成時の設定項目は以下のとおりです。

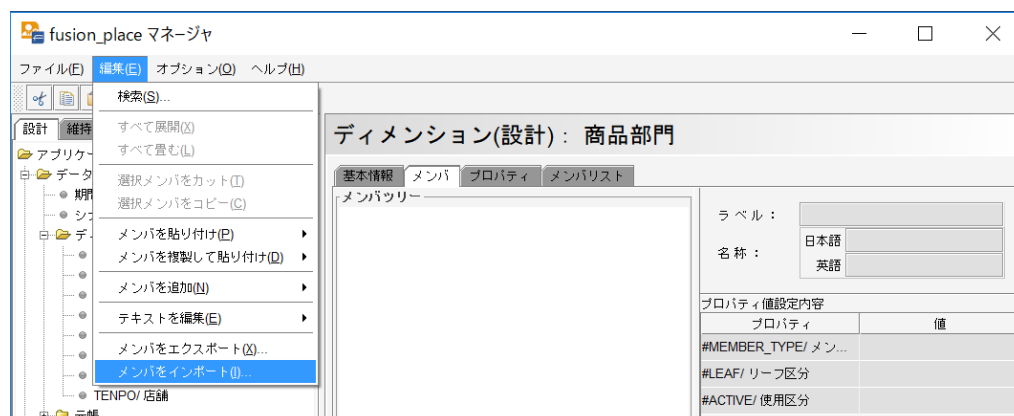


ラベル：	SHOHIN
名称：	商品部門
ディメンションタイプ：	一般
借用するディメンション：	(指定せず)

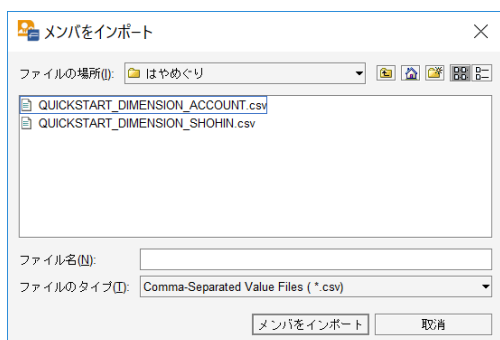
ラベル	名称	ディメンションタイプ	借用するディメンション
SHOHIN	商品部門	一般	(指定せず)

Step 2. メンバをファイルからインポートする。

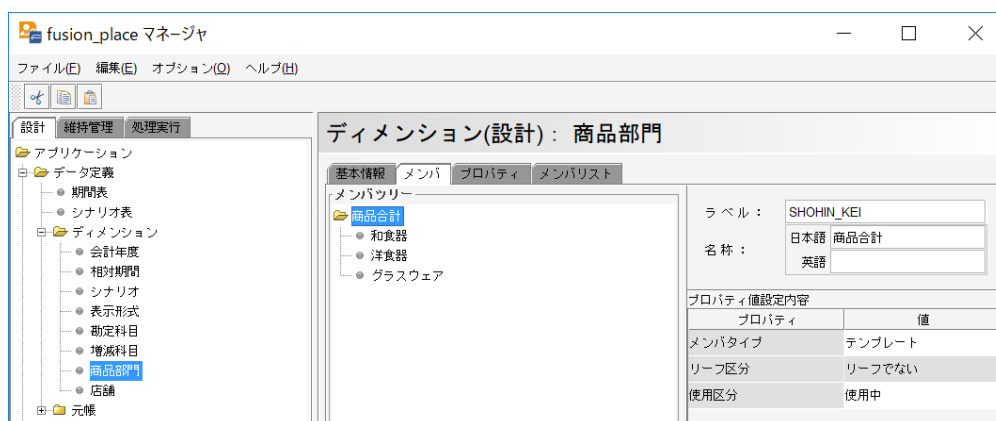
「ディメンション（設計）：商品部門」画面で「メンバ」タブをクリックして、メンバツリーの画面を表示して下さい。続いて、メニューから「編集(E)ーメンバをインポート(I)...」を選択して下さい。



下図のようにインポートファイル選択画面が表示されます。インポートファイルは「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルに含まれていますので、それを展開した場所（フォルダ）にあるフォルダを選択して下さい。



QUICKSTART_DIMENSION_SHOHIN.csv を選択して、「メンバーをインポート」ボタンをクリックして下さい。処理が終わると、以下のようにメンバツリーにメンバが登録されて表示されます（「商品合計」をクリックして、子メンバを表示してみてください）。



各メンバのラベル（商品部門コード）と名称は以下の通りです。

ラベル	名称(日本語)
SHOHIN_KEI	商品合計
M01	和食器
M02	洋食器
M03	グラスウェア

なお、メンバインポート用のファイルは Excel で簡単に編集できます。いま読込んだ QUICKSTART_DIMENSION_SHOHIN.csv を Excel で開いてみて下さい。ファイルの内容の詳細については、ユーザマニュアルの、以下の箇所をご覧ください

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「07.ディメンション」-「09.【設・管】メンバのインポート・エクスポート」

以上で、商品部門ディメンションの設定は終わりです。画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして設定内容を保存して下さい。

4.7 「勘定科目」ディメンションを設定する

設定が必要な最後のディメンションは「勘定科目」です。勘定科目ディメンションには「売上高」「利益」といった管理項目を登録します。勘定科目ディメンション自体はアプリケーション作成時に自動的に作成されるので新しく作成する必要はありません。とはいえ、作成直後は中身が空なので、必要なメンバを登録する必要があります。

勘定科目のメンバには、固有のプロパティがいくつかあります。特に重要なプロパティは「データタイプ」「貸借区分」です。これらも合わせて設定します。

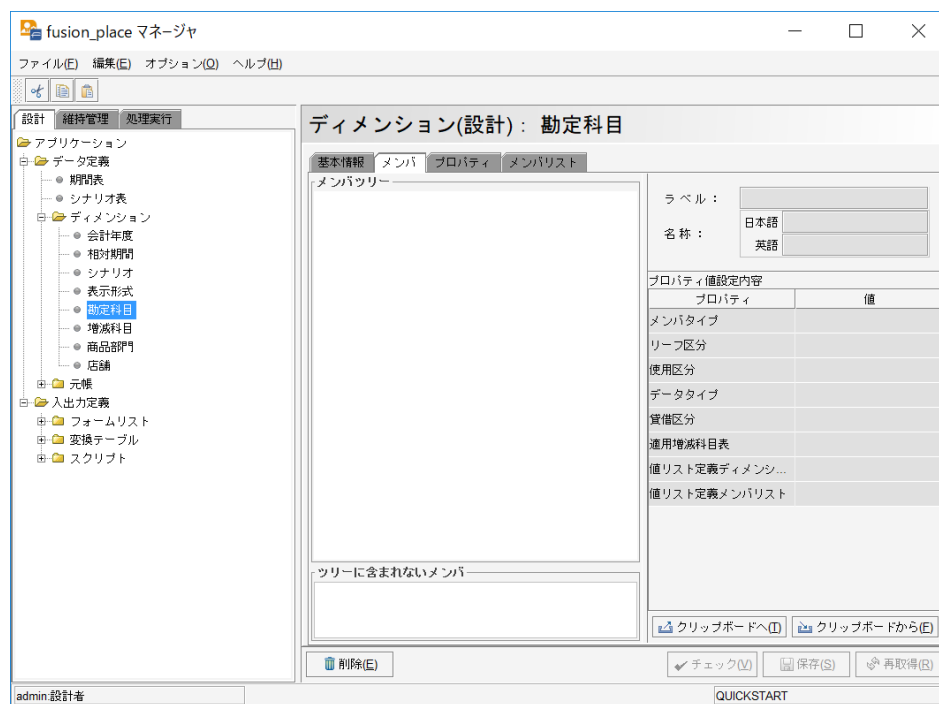
以下では手作業でメンバを登録することを前提にご説明していますが、商品部門ディメンションで行ったのと同様に、ファイルからメンバをインポートすることもできます。ファイルは、**QUICKSTART_DIMENSION_ACCOUNT.csv** という名で「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルに含まれています。

ファイルからメンバをインポートすることにした場合でも、このセクションにひと通り目を通されることをお勧め致します。

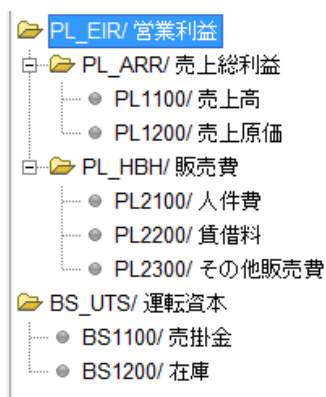
Step 1. 勘定科目メンバを登録する

これまでに学んだ方法で、全ての勘定科目メンバを登録しましょう。

fusion_place マネージャの画面左側部分の「設計」タブの [アプリケーション]—[データ定義]—[ディメンション]—[勘定科目]をクリックして「ディメンション（設計）：勘定科目」画面を表示して下さい。



下図に示すツリーの形になるようにメンバを登録して下さい。各メンバのラベル・名称・プロパティ値設定内容は、この頁の下部の表に記述しています。



利益は集計メンバとし、各メンバの貸借区分（借方・貸方）を適切に設定すると、利益の金額が自動計算されます。例えば、左の図のツリーで、売上総利益を「貸方」、その子メンバである売上高は「貸方」、売上原価は「借方」としておくと、売上総利益＝売上高－売上原価となります。営業利益（貸方）も、子メンバである売上総利益（貸方）と販売費（借方）の差引で計算されます。

`fusion_place` は、借方をプラスとして金額を保持していて、表示・入力の際に、貸借区分が貸方なら符号を付け加えます。

「はやめぐり」アプリケーションの勘定科目ディメンションにはルートメンバが二つあります（営業利益と運転資本）。ルートメンバはいくつでも設けることができます。

勘定科目	ラベル	名称(日本語)	プロパティ値		
			リーフ区分	データ タイプ	貸借区分
営業利益	PL_EIR	営業利益	リーフでない	フロー値	貸方
売上総利益	PL_ARR	売上総利益			
売上高	PL1100	売上高	リーフである		
売上原価	PL1200	売上原価			
販売費	PL_HBH	販売費	リーフでない		
人件費	PL2100	人件費	リーフである		
賃借料	PL2200	賃借料			
その他販売費	PL2300	その他販売費			
運転資本	BS_UTS	運転資本	リーフでない	バランス値	借方
売掛金	BS1100	売掛金	リーフである		
在庫	BS1200	在庫			

*この表に示されていないプロパティの値は初期設定値のままにして下さい。

以上で、ディメンション設定はすべて終わりです。画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして勘定科目ディメンションの設定内容を保存して下さい。

4.8 ディメンションメンバの登録と管理について

ここまでの実習を踏まえて、ディメンションメンバの登録と管理について、実務上のポイントになる事柄を確認しておきましょう。

基幹システムとのマスタ連携

実習で見たように、ディメンションのメンバをテキストファイルからインポートすることができます。したがって、販売管理や会計といった基幹システムのマスタデータをインポート用のテキストファイルから取り込むことによって、マスタ連携が可能になります。

基幹システムのマスタにない括りでのデータ集計

連携したマスタをもとに、経営管理上必要な括りを独自に登録することもできます。今回登録した店舗ディメンションを例にとりましょう。六本木店・代官山店といった個々の店舗は基幹システム側で店舗マスタに登録されていても、「東京地区」のような管理上の集約単位はマスタデータとして保持されていないかもしれません。こうした集約単位も、fusion_place ではメンバとして登録でき、その括りで管理帳票を作成することができます（「[2.2 予算を集計して確認する](#)」参照）。こうした任意集計は経営管理業務ではほぼ必ず必要になりますが、一般的なBI（ビジネスインテリジェンス）ツールでは対応が難しい問題でもあります。

メンバの登録・修正作業のさらなる効率化

メンバを手作業で登録する場合、メンバツリー上で個々に項目を設定するのは大変かもしれません。そのような場合に備えて、メンバの登録内容データを Excel とやり取りする機能が用意されています。

メンバパネルの右下のボタン「クリップボードへ」を押下した後、Excel のシート上で適当なセルを選び「ctrl+v」キーを押下すると、メンバの内容がシートに貼り付けられます。

シート上で名称やプロパティを修正し、メンバデータのある範囲を選択してコピーした上で、メンバパネルに戻り、「クリップボードから」をクリックすると、修正内容がメンバツリーに反映されます。

詳しくはユーザマニュアルの以下の項目をご覧ください：

「操作の手引き」-「01. マネージャ」-「10. 設計」-「02. データ定義を設定する」-「03. ディメンションを設定する」

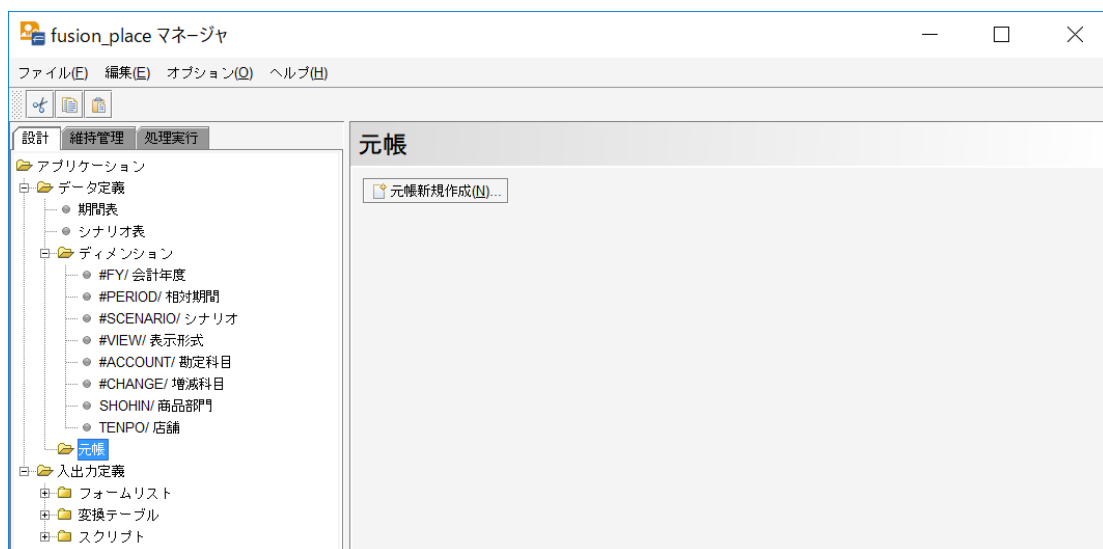
4.9 「店舗・商品部門別利益」元帳を作成する

これまでに設定した「店舗」「商品部門」「勘定科目」ディメンションなどを組み合わせて、**元帳**を作成します。

「元帳」とは経営管理データを納めておく箱です。ルービックキューブのようなものを想像して、キューブ自体を元帳、キューブの縦・横・奥行きの軸をディメンションと考えると分かり易いかもしれません。ただし、元帳は三次元にとどまりませんし、各ディメンションの中にはメンバのツリーがあるなど、ルービックキューブとは似ていない部分もあります。

Step 1. 元帳画面を表示する

fusion_place マネージャの画面左側部分の「設計」タブの[アプリケーション]―[データ定義]―[元帳]をクリックして「元帳」画面を表示して下さい。



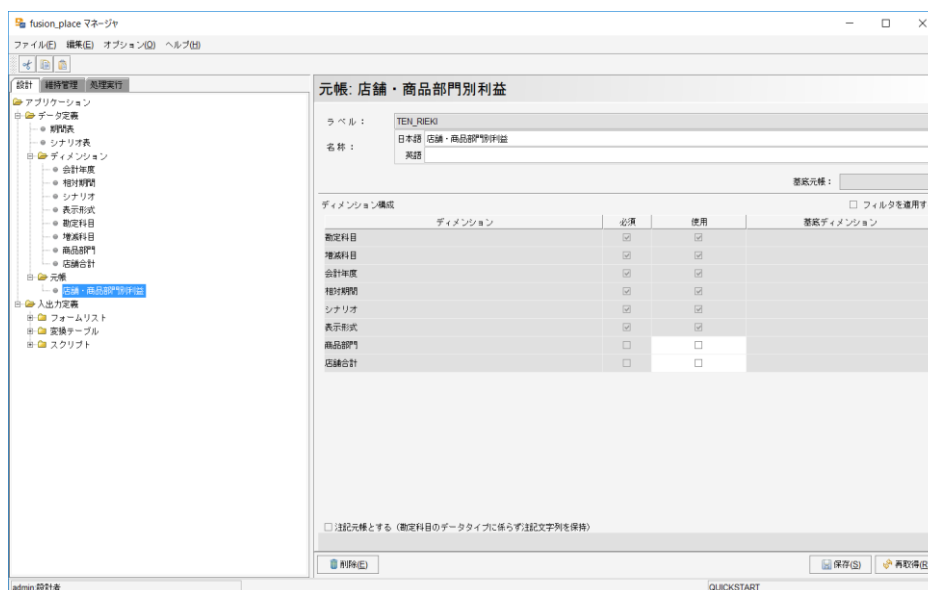
Step 2. 元帳を新規作成する

「元帳」画面上の「元帳新規作成(N)...」ボタンをクリックして下さい。「元帳新規作成」画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

元帳新規作成	
ラベル：	TEN_RIEKI
名称：	店舗・商品部門別利益
基底元帳（ビュー作成時に指定）：	(指定せず)
<div>OK キャンセル</div>	

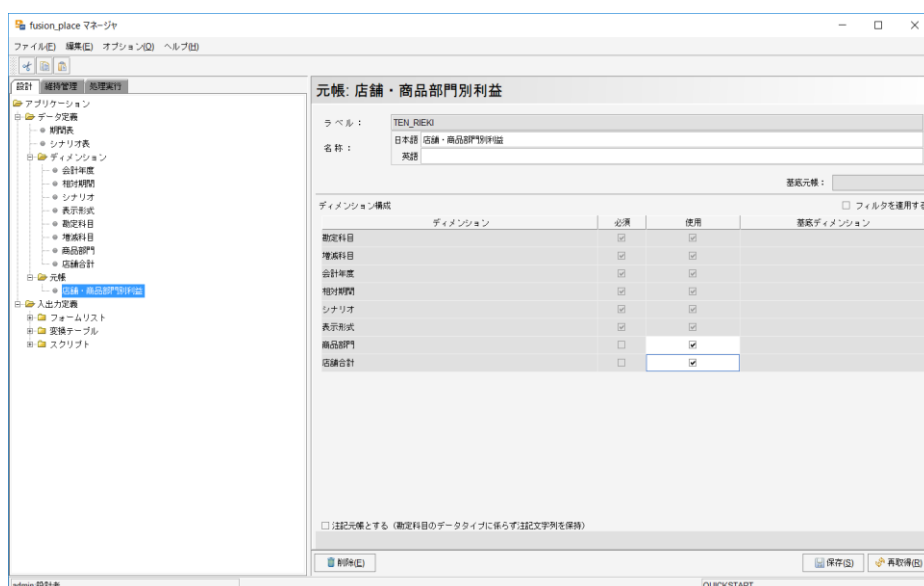
ラベル	名称	基底元帳
TEN_RIEKI	店舗・商品部門別利益	(指定せず)

店舗・商品部門別利益元帳が作成され、同元帳の設定画面が表示されます。



Step 3. 元帳で使用するディメンションを指定する

次に、店舗・商品部門別利益元帳で用いるディメンションを指定します。この元帳ではこれまでに作成した全ディメンションを使うので、同元帳の設定画面の「ディメンション構成」表の「使用」欄で、チェックマークが無い「商品部門」と「店舗」の両方の行のチェックボックス（☐マーク）をクリックし、チェックを入れて下さい。



※ 画面左下の「注記元帳とする」チェックボックスはblankのままとして下さい。

以上で、元帳の設定は終わりです。画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして設定内容を保存して下さい。

元帳のディメンション構成には、私たちが設定した 3 つのディメンションすなわち「店舗」「商品部門」「勘定科目」以外にも、ディメンションが含まれます。これらのディメンションは登録済の各種表に基づいて自動設定されるか、あるいは元帳を特殊な用途で使用する時のみ設定を要するものです：

- シナリオ … 「シナリオ表」をもとに自動設定されます。
- 相対期間 … 「期間表」をもとに自動設定されます。
- 表示形式 … 同上
- 会計年度 … 「会計年度表」をもとに自動設定されます。
- 増減科目 … バランス勘定科目について増減内訳を管理する場合のみ設定が必要です。その他の場合は「なし/#NONE」を指定して下さい。

上記の 5 つのディメンションと勘定科目ディメンションはどの元帳にも必須です。

次のステップに進む前に、それぞれの内容をご覧になっておいて下さい。

5 実績データを取込む

ここまでのステップで、店舗別・商品部門別の利益管理データを納める箱（元帳）を用意しました。次にはその箱に実績値を取り込みましょう。「Excel-Link」を用いてそのデータを元帳に取込みます。

fusion_place premium, cloud では会計システムのデータをコードやフォーマットを変換しながら自動取込みする機能が用意されています。日次で伝票データの自動取り込みなどを行うことができます。

この「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルに格納されている「QUICKSTART_FY2016_ACTUAL.xlsx」という Excel ファイルを開きます。メニューから [fusions]-[データ反映] を選んでください。このファイルにはすでにデータ反映の設定がされています（設定内容については「[7.3 \(参考\) 実績データ取込み用ファイルの Excel-Link の設定](#)」をご参照ください）。

QUICKSTART_FY2016_ACTUAL.xlsx - 互換モード - Excel

ファイルホーム挿入ページレイアウト数式データ校閲表示アドインfusions

実行したい作業を入力してください

共有

データ取得データ取得・反映データ取得

金額反映列（F 列）のデータが fusion_place に反映され、同時に金額取得列（G 列）にデータを取得し、その差額をチェック列（H 列）で計算しています。チェック列の合計をチェック欄（セル H9）で計算していますので、チェック欄が 0 にならない場合、すべてのデータが反映されたわけではないことを表します。この場合どのデータが反映されていないのか確認して下さい。

同様に「QUICKSTART_FY2017_ACTUAL.xlsx」を開き、メニューから [fusions]-[データ反映] を選んでください。

6 Excel-Link で月次報告資料を作成する



それでは前のステップで取込んだ実績データをもとに月次報告資料を作成しましょう。

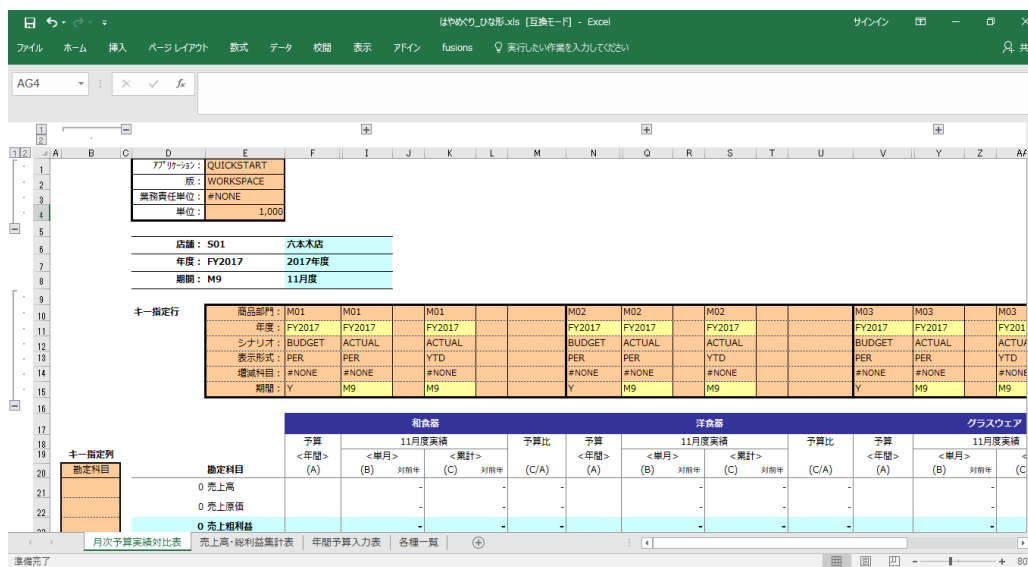
6.1 シートのレイアウトを確認する

この「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルの「はやめぐり_ひな形.xlsx」という Excel ファイルを開き、「月次予算実績対比表」シートを選択して下さい。

勘定科目	和食部					洋食部					クラスウェア				
	予算	11月度実績		予算比	実績	予算	11月度実績		予算比	実績	予算	11月度実績		予算比	実績
	<年間>	<単月>	<累計>	対前年	(C/A)	<年間>	<単月>	<累計>	対前年	(C/A)	<年間>	<単月>	<累計>	対前年	(C/A)
0 売上高															
0 売上原価															
0 売上粗利益															
0 人件費															
0 賃借料															
0 その他															
0 販売費合計															
0 営業利益															

この表のデータ表示領域（上図にて赤枠で囲んだ F21:AK32）には、fusion_place の店舗・商品部門別利益元帳のデータを表示することを想定しています。

ところで、このシートには、Excel のアウトライン機能を用いて隠されている列と行があります。C 列と I 列の上の  アイコンをクリックして隠し列を表示して下さい。同様に 5 行目と 16 行目の左の  アイコンもクリックして隠し行を表示して下さい。下図のように表示されます。



The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following structure:

- Top Section (Rows 1-4):** Contains a table with headers like "アパウェア", "QUICKSTART", "店:", "WORKSPACE", "業務責任単位:", "#NONE", and "単位:", "1,000".
- Section 1 (Rows 5-8):** Contains a table with headers like "店舗:", "S01", "六本木店", "年度:", "FY2017", "2017年度", and "期間:", "M9", "11月度".
- Section 2 (Rows 9-15):** Contains a table with headers like "キー指定行", "商品部門:", "M01", "M01", "M01", "M02", "M02", "M02", "M03", "M03", "M03".
- Section 3 (Rows 16-22):** Contains a table with headers like "キー指定列", "勘定科目", "0 売上高", "0 売上原価", and "0 売上粗利益".
- Bottom Section (Rows 23-28):** Contains a table with headers like "和食系", "洋食系", and "ガラスウェア".

隠されていたのは、Excel-Link のための設定情報です：

- ・ E1:E4 … 対象アプリケーションのラベルなど、全セル共通の情報が指定されています。
- ・ 10 行目～15 行目 … データ表示領域の各列に適用するキー（各ディメンションのメンバラベル）が指定されています。なお、年度・期間については、選択欄（E7 と E8）の値に連動するよう、式が設定されています。
- ・ B 列 … データ表示領域の各行に適用するキー（勘定科目ディメンションのメンバラベル）が指定されています（セル B21:B28 については、「[6.2 シートに Excel-Link 用の設定を加える](#)」の Step5 で設定します）。

このシートでは勘定科目のみがキー指定列に配され（すなわち行ごとのキーとされ）、その他のディメンションのメンバはキー指定行に配されて（すなわち列ごとのキーとされて）います。各ディメンションは、シートレイアウトに合わせて行・列どちらに配することもできます。また、ひとつのキー値をデータ表示領域の全セルに適用する場合には、そのキー値を特定のセルにて指定することも可能です。

このシートには、Excel-Link の設定はまだ一切行っていないので、これから設定していきましょう。

6.2 シートに Excel-Link 用の設定を加える

Excel-Link を用いるには、以下のような事柄を Excel-Link が認識できるようにする必要があります：

- シートのどの範囲を対象に fusion_place からデータを取得する（あるいは fusion_place にデータを反映する）のか。
- どの元帳からデータを取得するのか。
- その範囲の各セルに対するキー項目はどの行あるいは列又はセルに指定されているのか。

「リンク領域の設定」では、こうした情報を指定します。

Step 1. リンク領域設定画面を表示する

メニューから[fusions]・[リンク領域の設定]を選んで下さい。ユーザ名とパスワードの入力が促される場合がありますが、「[1 Excel-Link を使用する](#)」で説明した通りに入力して下さい。

下図のように、「リンク領域の設定」画面が表示されます。

fusion_place Excel-Link - リンク領域の設定

シート: 月次予算実績対比表 ☐ ラベルで表示

領域選択: 削除 追加 一覧

領域名: 範囲:

領域タイプ: データ領域 アプリケーション指定セル:

データ領域処理条件 | メンバー名称表示条件 | テキスト値表示条件 |

元帳: 業務責任単位指定セル:

処理区分: 版指定セル:

セルのロックと色変更

☐ セルのロック属性を自動切り替え

ロック色指定セル: X

金額/数値表示条件

表示単位セル: 有効小数桁:

端数処理: 符号処理:

☐ データタイプをチェックする ☐ 列挙値・論理値の名称を表示 ☐ 日時文字列は日時に変換

☐ テンプレート処理で、データ有無の判定に関与させない

キー割り当て

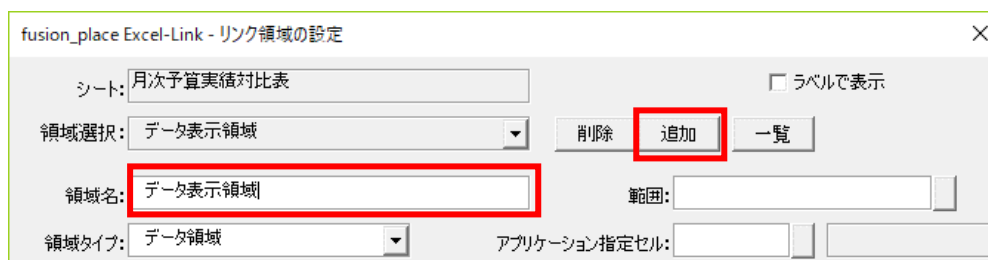
ディメンション: キー指定セル、列または行

セル、列または行を指定: X

領域設定コピー 貼り付け 保存 キャンセル

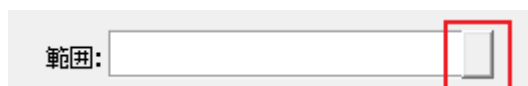
Step 2. リンク領域を追加する

領域選択欄の右の「追加」ボタンをクリックしてリンク領域を追加して下さい。領域名欄に「Region 1」と初期表示されますが、下図のように「データ表示領域」と上書き入力して下さい。

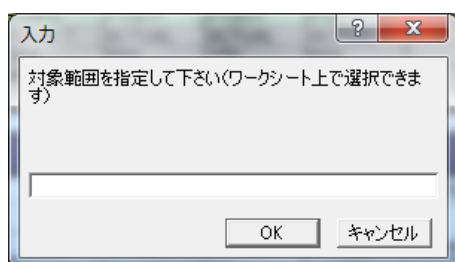


Step 3. リンク領域の範囲を指定する

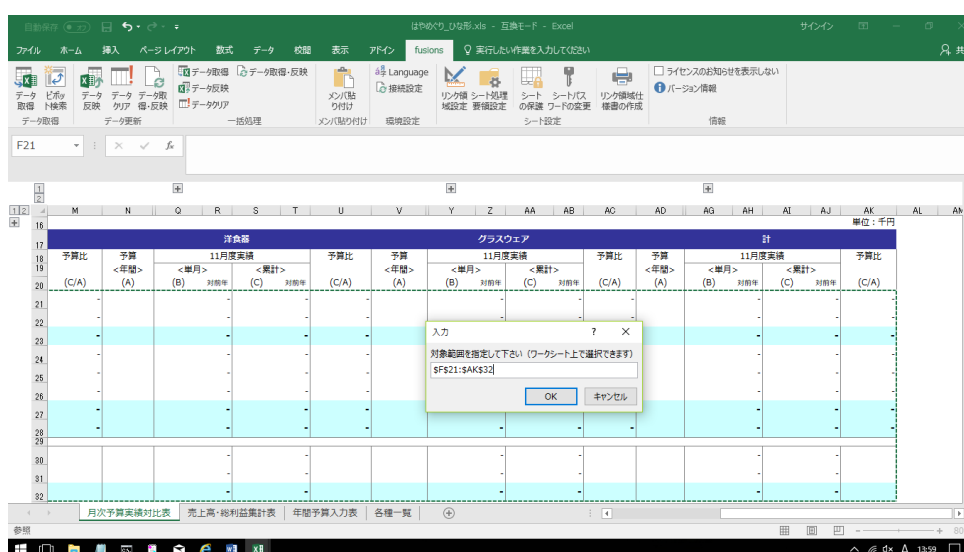
追加した「データ表示領域」の対象範囲を指定します。範囲指定欄の右にあるボタン（下図参照）をクリックして下さい。



次のような「入力」画面が表示されます：



シート上でマウスを用いて範囲 F21:AK32 を指定して下さい(シート上で範囲を選択する代わりに、上図画面の入力欄に直接 F21:AK32 と入力してもかまいません)。



指定を終えて OK ボタンをクリックすると、「リンク領域の設定」画面に戻ります。範囲指定欄に、F21:AK32 と表示されていることを確認して下さい。

Step 4. リンク領域に関する設定項目（キー割り当て以外）を設定する

各項目を以下のように設定して下さい：

領域タイプ

初期提案値「データ領域」のままにしておいて下さい。

領域タイプ:	<input type="text" value="データ領域"/>
--------	------------------------------------

アプリケーション指定セル

セル E1 を指定して下さい。「範囲」指定欄と同様、指定欄の右端にあるボタン（下図参照）をクリックすると、セル指定のための画面が表示されます。その画面を表示した状態でセル E1 をクリックするか、あるいは、入力欄に直接 E1 と入力して下さい。

⇒ 正しく設定すると、右側に当該セルの値「QUICKSTART」が表示されます。

アプリケーション指定セル:	<input type="text" value="E1"/>	<input type="button" value="QUICKSTART"/>
---------------	---------------------------------	---

元帳と処理区分

元帳は「店舗・商品部門別利益」、処理区分は「取得のみ」を選択して下さい（アプリケーション指定セルを正しく指定しないと、元帳の選択肢は表示されないのをご注意下さい）。

元帳:	<input type="text" value="店舗・商品部門別利益"/>
処理区分:	<input type="text" value="取得のみ"/>

業務責任単位指定セルと版指定セル

業務責任単位指定セルにはセル E3 を、版指定セルにはセル E2 を指定して下さい。セル指定の要領はアプリケーション指定セルと同じです。

業務責任単位指定セル:	<input type="text" value="E3"/>	<input type="text" value="#NONE"/>
版指定セル:	<input type="text" value="E2"/>	<input type="text" value="WORKSPACE"/>

業務責任単位指定セルには、業務責任単位のラベルを指定します。業務責任単位は部門や担当職務別に設けます。ただし、このはやめぐりで使用している「ワークグループ」タイプのアプリケーションでは、すべてのユーザは「なし/ #NONE」という唯一の業務責任単位に属するものとみなされます。fusion_place premium, cloud で使用可能な「エンタープライズ」タイプあるいは「ワークフロー」タイプのアプリケーションでは部門や担当職務別に権限を分けることができます。

版指定セルには、アクセスしたい元帳版のラベルを指定します。「共有作業版」のラベルは、「WORKSPACE」、公開版のラベルは「PUBLIC」です。

金額／数値表示条件

表示単位指定セルに、（アプリケーション指定セルと同じ要領で）セル E4 を指定して下さい。他の項目は、初期提案値のままにしておいて下さい。

金額／数値表示条件			
表示単位セル:	E4	有効小数桁:	0
端数処理:	四捨五入	符号処理:	科目属性

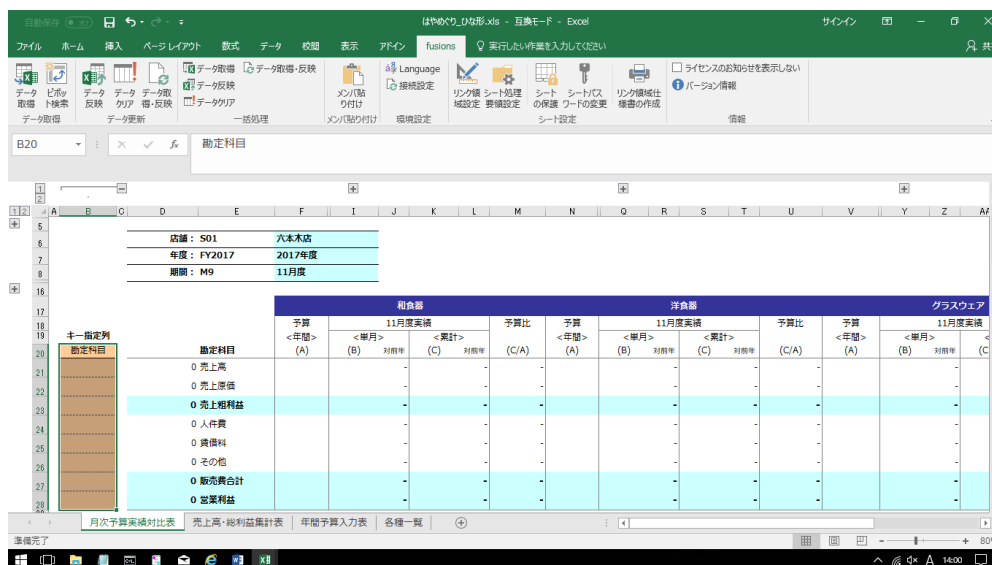
表示単位セルには、ワークシート上での金額・数値の表示単位を、元帳での金額の保持単位に対する倍数として指定してください。たとえば fusion_place の元帳では 1 円単位で金額を保持し、シート上では千円単位で表示したい場合、表示単位指定セルには 1,000 と指定して下さい。単位変換後の値の小数点以下部分をどう扱うかを「有効小数桁」と「端数処理」で指定することができます。詳しくはユーザマニュアルをご覧ください。

ここまで設定できたら、途中ですが、いったん「保存」ボタンをクリックして下さい。「リンク領域の設定」画面が閉じられます（設定は、シート内のユーザには見えない領域に保存されます。シートをコピーすると設定も一緒にコピーされます）。

Step 5.メンバの貼付け

「月次予算実績対比表」シートのB列の一部には勘定科目のメンバラベルが設定されていません（セルB21:B28）。ここに勘定科目のメンバラベルを貼り付けます。

セルB21:B28を選択します。メニューから[fusions]-[メンバ貼り付け]を選んで下さい。



メンバ並び選択画面が表示されます。

メンバ並び選択

アプリケーション: はやめり

ディメンション: 勘定科目

起点メンバ

すべてのルートメンバ

営業利益 / PL_EIR

運転資本 / BS_UTS

(検索結果)

検索

ラベル

展開方法

自身のみ

子メンバを含む

子孫メンバを含む

最下位メンバのみ

貼り付ける

キャンセル

アプリケーションは「はやめぐり」、ディメンションは「勘定科目」をそれぞれ選択します。
 ここで、絞り込みの起点（頂点）となるメンバと、起点メンバをもとにどの範囲のメンバを検索対象に含めるかを示す「展開方法」を指定して下さい。

ディメンション	起点メンバ	展開方法
勘定科目	営業利益	子孫メンバを含む

指定し終わったら、「貼り付ける」ボタンをクリックして下さい。

以下のようにメンバラベルが貼り付けられます。

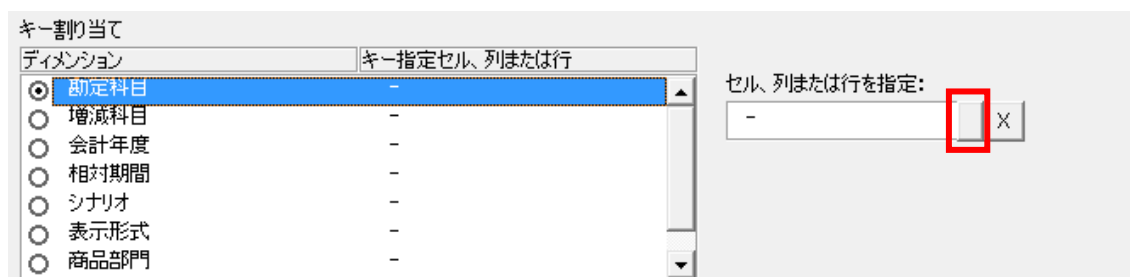
*メンバ貼り付け機能ではメンバラベル（PL1100 など）と同時にメンバ名称（売上高など）も同時に貼り付けられます。不要ですのでメンバ名称（上図のセル C21:C28）をクリアします。

店舗	S01	六本木店
年度	FY2017	2017年度
期間	M9	11月度
商品部門	M01	M01
シナリオ	BUDGET	ACTUAL
表示形式	PER	PER
増減科目	#NONE	#NONE
期間	Y	M9
勘定科目	PL1100	売上高
勘定科目	PL1200	売上原価
勘定科目	PL_ARR	売上粗利益
勘定科目	PL2100	人件費
勘定科目	PL2200	賃借料
勘定科目	PL2300	その他

Step 6. リンク領域に関する設定項目（キー割り当て）を設定する

最後に、「キー割り当て」条件を設定します。キー割り当て条件は、リンク領域の各セルに適用するディメンションメンバラベルが設定されているセルあるいは列（または行）を指定するものです。

もういちど、「リンク領域設定」ボタンを押し、設定画面を開いて下さい。登録途中で先ほど保存した「データ表示領域」が選択されていますので、キー割り当て欄（下図）で設定を再開します。



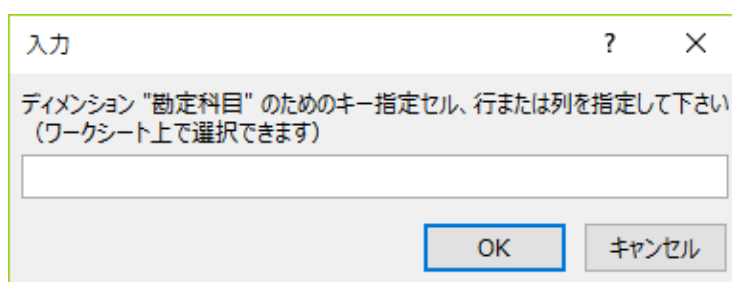
キー割り当て

ディメンション: 勘定科目, 増減科目, 会計年度, 相対期間, シナリオ, 表示形式, 商品部門

キー指定セル、列または行: -

セル、列または行を指定: -

左の一覧で各ディメンションの行をダブルクリックするか、あるいは、左の一覧で行を選択（反転表示）した上で、「セル、列または行を指定」欄のすぐ右のボタン（上記画面赤枠のボタン）をクリックして下さい。次のような「入力」画面が表示されます：

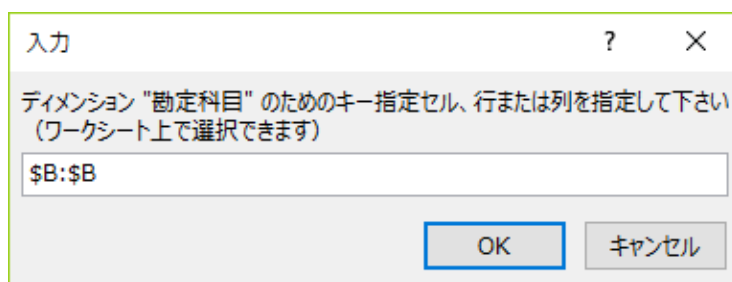


入力

ディメンション "勘定科目" のためのキー指定セル、行または列を指定して下さい
(ワークシート上で選択できます)

OK キャンセル

キー割り当て欄では、特定のセルか、行全体または列全体を指定します。たとえば「勘定科目」の場合、（勘定科目のメンバラベルを指定している）B 列の一番上の列記号欄”B”をクリックすると、下図のように B 列全体が選択されます：



入力

ディメンション "勘定科目" のためのキー指定セル、行または列を指定して下さい
(ワークシート上で選択できます)

\$B:\$B

OK キャンセル

この状態で OK ボタンをクリックすると、キー割り当て欄でディメンション「勘定科目」の行に「列 B」と表示されます。

このリンク領域では、勘定科目と店舗以外のディメンションは行に割り当てるので、それぞれ、行番号欄をクリックして行全体を選択します。店舗については、セル「E6」を指定します。

ディメンションごとに、以下の列・行または単一セルを指定して下さい：

ディメンション	(ラベル)	キー指定セル、列または行
勘定科目	(#ACCOUNT)	列 B
増減科目	(#CHANGE)	行 14
会計年度	(#FY)	行 11
相対期間	(#PERIOD)	行 15
シナリオ	(#SCENARIO)	行 12
表示形式	(#VIEW)	行 13
商品部門	(SHOHIN)	行 10
店舗	(TENPO)	セル E6

設定後、「保存」ボタンをクリックして画面を閉じて下さい。

fusion_place Excel-Link - リンク領域の設定

シート: 月次予算実績対比表

☐ ラベルで表示

領域選択: データ表示領域

削除

追加

一覧

領域名: データ表示領域

範囲: F21:AK32

領域タイプ: データ領域

アプリケーション指定セル: E1

QUICKSTART

データ領域処理条件

メンバー名称表示条件

テキスト値表示条件

元帳: 店舗・商品部門別利益

業務責任単位指定セル: E3

#NONE

処理区分: 取得のみ

版指定セル: E2

WORKSPACE

セルのロックと色変更

☐ セルのロック属性を自動切り替え

ロック色指定セル:

X

金額／数値表示条件

表示単位セル: E4

有効小数桁: 0

端数処理: 四捨五入

符号処理: 科目属性

☐ データタイプをチェックする
☒ 列挙値・論理値の名称を表示
☐ 日時文字列は日時に変換

☐ テンプレート処理で、データ有無の判定に関与させない

キー割り当て

ディメンション

キー指定セル、列または行

勘定科目

列 B

増減科目

行 14

会計年度

行 11

相対期間

行 15

シナリオ

行 12

表示形式

行 13

商品部門

行 10

セル、列または行を指定:

セル E6

X

領域設定コピー

貼り付け

保存

キャンセル

Copyright © 2018- fusions corporation

Page. 49

以上でリンク領域の設定は終了です。「[1.1 Excel-Link でシートにデータを取得する](#)」と同様の手順でデータ取得をして、「[5 実績データを取込む](#)」で取込んだ実績データが表示されることを確認してください。

【月次予算実績対比表シート】

The screenshot displays the Excel-Link application window. The 'fusion_place Excel-Link' dialog box is open, showing a message: 'データ取得処理が完了しました。' (Data acquisition processing is complete.) with the start time '開始時刻: 2018/06/14 11:24:07' and end time '終了時刻: 2018/06/14 11:24:07'. The background shows the '月次予算実績対比表' (Monthly Budget vs Actual Comparison Table) sheet. The sheet contains data for various departments (M01, M02) and categories (PL1100, PL1200, PL_ARR, PL2100, PL2200). The data is organized into columns for '予算' (Budget), '前年同月実績' (Previous Year Same Month Actual), '11月度実績' (November Actual), and '予算比' (Budget Ratio). The table includes sub-totals for '和食部' (Japanese Food Department) and '洋食部' (Western Food Department).

キー指定列	勘定科目	勘定科目	和食部				洋食部									
			予算 <年額> (A)	前年同月実績 <単月> (B)	11月度実績 <累計> (C)	予算比 (C/A)	予算 <年額> (A)	前年同月実績 <単月> (B)	11月度実績 <累計> (C)	予算比 (C/A)						
PL1100	売上高	PL1100	0	5,236	47,450	5,131	-2%	46,501	-2%	0	10,874	98,546	11,091	+2%	100,517	+2%
PL1200	売上原価	PL1200	0	3,770	34,164	3,746	-1%	33,945	-1%	0	8,156	73,909	8,263	+1%	74,885	+1%
PL_ARR	売上総利益	PL_ARR	0	1,466	13,286	1,385	-6%	12,556	-5%	0	2,718	24,636	2,828	+4%	25,632	+4%
PL2100	人件費	PL2100	0	688	6,365	676	-2%	6,254	-2%	0	1,429	13,219	1,461	+2%	13,518	+2%
PL2200	賃借料	PL2200	0	338	3,018	326	-4%	2,907	-4%	0	702	6,269	704	-	6,284	-
PL2300	その他	PL2300	0	317	3,010	274	-12%	3,083	-14%	0	451	4,174	464	-10%	4,503	-10%
	売上高・総利益集計表															

Step 7.売上・総利益集計表のリンク領域を設定する

Step1 から Step6 の内容を参考に、以下の要領で「売上・総利益集計表」シートにもリンク領域を設定します。

【設定内容】

ディメンション	設定内容(設定範囲)
領域名	データ表示領域
領域タイプ	「データ領域」を選択
範囲	G20:V38
アプリケーション指定セル	F1
元帳	「店舗・商品部門別利益」を選択
処理区分	「取得のみ」を選択
業務責任単位指定セル	F3
版指定セル	F2
表示単位セル	F4

【キー割り当て】

ディメンション	(ラベル)	キー指定セル、列または行
勘定科目	(#ACCOUNT)	行 12
増減科目	(#CHANGE)	行 13
会計年度	(#FY)	行 9
相対期間	(#PERIOD)	行 14
シナリオ	(#SCENARIO)	行 10
表示形式	(#VIEW)	行 11
商品部門	(SHOHIN)	列 B
店舗	(TENPO)	列 C

この例のように列項目を複数列設定することもできます。

The screenshot shows an Excel spreadsheet with a table containing financial data. The table has columns for dimensions (商品部門, 店舗) and various financial metrics (売上, 総利益). The data is organized into rows for different periods and scenarios.

商品部門		店舗	売上	総利益
商品部門	店舗	売上	総利益	
M01	S01	和食器	六本木店	
M01	S02	和食器	代官山店	
M01	TOKYO	和食器	東京地区	
M01	S03	和食器	横浜店	
M01	S04	和食器	京都店	
M01	TENPO_KEY	和食器	計	
M02	S01	洋食器	六本木店	

設定後、「保存」ボタンをクリックして画面を閉じて下さい。

fusion_place Excel-Link - リンク領域の設定

シート: 売上高・総利益集計表

☐ ラベルで表示

領域選択: データ表示領域

削除

追加

一覧

領域名: データ表示領域

範囲: G20-V38

領域タイプ: データ領域

アプリケーション指定セル: F1

QUICKSTART

データ領域処理条件

メンバー名称表示条件

テキスト値表示条件

元帳: 店舗・商品部門別利益

業務責任単位指定セル: F3

#NONE

処理区分: 取得のみ

版指定セル: F2

WORKSPACE

セルのロックと色変更

☐ セルのロック属性を自動切り替え

ロック色指定セル:

X

金額／数値表示条件

表示単位セル: F4

有効小数桁: 0

端数処理: 四捨五入

符号処理: 科目属性

☐ データタイプをチェックする

☒ 列挙値・論理値の名称を表示

☐ 日時文字列は日時に変換

☐ テンプレート処理で、データ有無の判定に関与させない

キー割り当て

ディメンション

キー指定セル、列または行

☐ 勘定科目

行 12

☐ 増減科目

行 13

☐ 会計年度

行 9

☐ 相対期間

行 14

☐ シナリオ

行 10

☐ 表示形式

行 11

☐ 商品部門

列 B

セル、列または行を指定:

列 C

X

領域設定コピー

貼り付け

保存

キャンセル

以上でリンク領域の設定は終了です。「[1.1 Excel-Link でシートにデータを取得する](#)」と同様の手順でデータ取得をして、「[5 実績データを取込む](#)」で取込んだ実績データが表示されることを確認してください。

【売上高・総利益集計表シート】

年度: FY2017 2017年度
 期間: M9 11月

キー指定行

シナリオ	年度	FY2017	FY2016
BUDGET	PER	PER	PER
勘定科目	PL1100	PL1100	PL1100
増減科目	#NONE	#NONE	#NONE
期間	Y	M9	M9

データ取得処理が完了しました。
 実行時刻: 2018/06/14 11:23:03
 終了時刻: 2018/06/14 11:23:03

キー指定列		商品部門		店舗		売上高		総利益		
商品部門	店舗	商品部門	店舗	前年同月実績	11月度実績	前年同月実績	11月度実績	前年同月実績	11月度実績	
(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	(J)	
M01	S01	和食器	六本木店	0	5,236	47,450	5,131	-2%	46,501	-2%
M01	S02		代官山店	0	2,597	23,532	2,467	-5%	22,510	-4%
M01	TOKYO		東京地区	0	7,832	70,982	7,598	-3%	69,010	-3%
M01	S03		横浜店	0	0	0	0	-	0	-
M01	S04		京都店	0	6,106	55,331	6,033	-1%	56,049	+1%
M01	TENPO_KEI		計	0	13,938	126,313	13,631	-2%	125,059	-1%

7 Excel-Link で予算入力表を作成する

「[6 Excel-Link で月次報告資料を作成する](#)」では fusion_place から Excel にデータを入力する方法を学びました。反対に Excel のデータを fusion_place に格納する方法を学びます。この節では Excel-Link を使用して Excel の予算入力表を作成してみましょう。

7.1 予算入力のための Excel-Link の設定方法を確認する

「はやめぐり_ひな形.xlsx」の「年間予算入力表」シートを選択します。以下の要領でリンク領域の設定をします。

【設定内容】

ディメンション	設定内容(設定範囲)
領域名	データ表示・入力領域
領域タイプ	「データ領域」を選択
範囲	F21:I28
アプリケーション指定セル	E1
元帳	「店舗・商品部門別利益」を選択
処理区分	「取得と反映」を選択
セルのロックと色変更	「セルのロック属性を自動切り替え」にチェック
業務責任単位指定セル	E3
版指定セル	E2
表示単位セル	E4

【キー割り当て】

ディメンション	(ラベル)	キー指定セル、列または行
勘定科目	(#ACCOUNT)	列 B
増減科目	(#CHANGE)	行 14
会計年度	(#FY)	行 11
相対期間	(#PERIOD)	行 15
シナリオ	(#SCENARIO)	行 12
表示形式	(#VIEW)	行 13
商品部門	(SHOHIN)	行 10
店舗	(TENPO)	行 9

fusion_place Excel-Link - リンク領域の設定

シート: 年間予算入力表 ☐ ラベルで表示

領域選択: データ表示・入力領域 削除 追加 一覧

領域名: データ表示・入力領域 範囲: F21:I28

領域タイプ: データ領域 アプリケーション指定セル: E1 QUICKSTART

データ領域処理条件 | メンバー名称表示条件 | テキスト値表示条件 |

元帳: 店舗・商品部門別利益 業務責任単位指定セル: E3 #NONE

処理区分: 取得と反映 版指定セル: E2 WORKSPACE

セルのロックと色変更

☒ セルのロック属性を自動切り替え

ロック色指定セル: X

金額／数値表示条件

表示単位セル: E4 有効小数桁: 0

端数処理: 四捨五入 符号処理: 科目属性

☐ データタイプをチェックする ☒ 列挙値・論理値の名称を表示 ☐ 日時文字列は日時に変換

☐ テンプレート処理で、データ有無の判定に関与させない

キー割り当て

ディメンション キー指定セル、列または行

ディメンション	キー指定セル、列または行
<input type="radio"/> 勘定科目	列 B
<input type="radio"/> 増減科目	行 14
<input type="radio"/> 会計年度	行 11
<input type="radio"/> 相対期間	行 15
<input type="radio"/> シナリオ	行 12
<input type="radio"/> 表示形式	行 13
<input type="radio"/> 商品部門	行 10

セル、列または行を指定: X

領域設定コピー 貼り付け 保存 キャンセル

表示専用領域と表示・入力兼用領域で、設定が異なるのは以下の二点だけです：

①処理区分

表示専用領域では「取得のみ」を選びますが、表示・入力兼用領域では「取得と反映」を選択して下さい。

②セルのロックと色変更

セルのロック属性を入力可否に合わせて切り替えるかどうか、また入力不可のセルにどの色を付けるかを指定します（指定しなければ、既定の色が付けられます）。

7.2 予算データの入力

「[2 Excel-Link で予算データを入力する](#)」と同様の手順で Excel-Link を使用して予算データを fusion_place に投入して下さい。

7.3 （参考）実績データ取込み用ファイルの Excel-Link の設定

「QUICKSTART_FY2016_ACTUAL.xlsx」では以下の要領でデータ反映の設定がされています（「QUICKSTART_FY2017_ACTUAL.xlsx」も同様のため省略します）。

リンク領域設定（データ反映部分）

【設定内容】

ディメンション	設定内容(設定範囲)
領域名	実績データ反映領域
領域タイプ	「データ領域」を選択
範囲	F12:F1000
アプリケーション指定セル	G1
元帳	「店舗・商品部門別利益」を選択
処理区分	「反映のみ」を選択
業務責任単位指定セル	G3
版指定セル	G2
表示単位セル	G4

【キー割り当て】

ディメンション	(ラベル)	キー指定セル、列または行
勘定科目	(#ACCOUNT)	列 E
増減科目	(#CHANGE)	セル G7
会計年度	(#FY)	列 A
相対期間	(#PERIOD)	列 B
シナリオ	(#SCENARIO)	セル G5
表示形式	(#VIEW)	セル G6
商品部門	(SHOHIN)	列 D
店舗	(TENPO)	列 C

リンク領域設定（データ取得部分）

【設定内容】 ※リンク領域は「リンク領域の設定」画面の左上「領域設定」から切り替えることができます

ディメンション	設定内容(設定範囲)
領域名	実績データ取得領域
範囲	G12:G1000
処理区分	「取得のみ」を選択

同一のシート内にほぼ同じ内容のリンク領域を設定する場合、リンク領域の内容をコピーして貼り付けることができます。リンク領域画面の左下「領域設定コピー」ボタンを押下し、新しい領域を追加した後、「貼り付け」ボタンを押下して貼り付けます。

設定内容の他の項目、キー割り当て項目についてはデータ反映部分と同一です。

8 簡易版フォームを使用する


これまでは、Excel-Link によるデータの入出力をお試し顶きましたが、fusion_place にはデータの入出力のための仕組みがもうひとつ用意されています。それがフォームと呼ばれる機能です。

フォームには、手軽にレポートや入力画面が作成できる「簡易版」と、簡易版より細かいレイアウトにも対応でき、計算処理なども行える「フル機能版」があります。standard では、「簡易版」は作成できますが、「フル機能版」は作成できず、premium および cloud で作成した「フル機能版」の実行のみ可能です。

ここでは「簡易版」フォームを使用して頂きます。

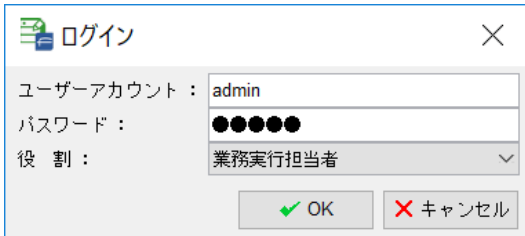
8.1 簡易版フォームで予算データを入力する

Step 1. fusion_place ブラウザを起動する

コンピュータのデスクトップにある fusion_place ブラウザのアイコン  をダブルクリックして fusion_place ブラウザを起動して下さい。

Step 2. fusion_place ブラウザにログインする

「ログイン」画面が表示されますので、以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

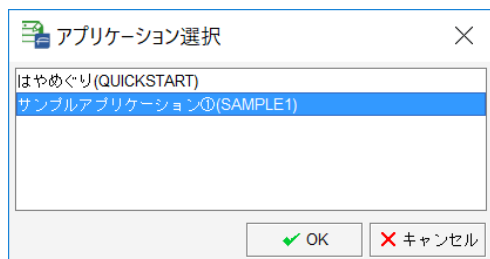


ユーザーアカウント	パスワード	役割
admin	admin	「業務実行担当者」

大文字と小文字が区別されます

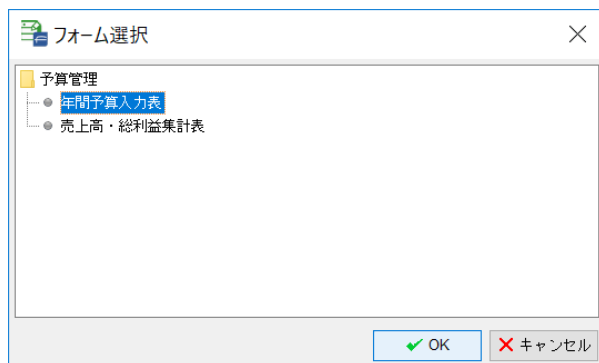
* fusion_place のセットアップ後、ユーザーアカウントやパスワードを変更した場合には、上記に代えて、適切なユーザーアカウントとパスワードを入力して下さい。

この後、「アプリケーション選択」画面が表示されます。「SAMPLE1」を選択して OK ボタンをクリックして下さい。

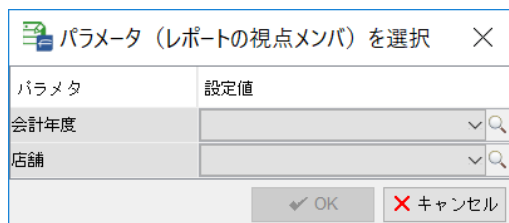


Step 3. フォームを選択します

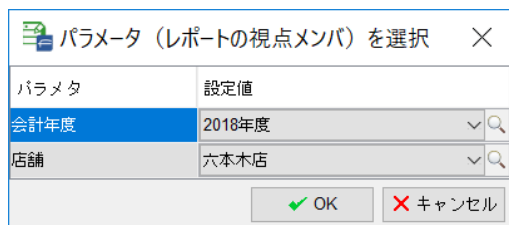
フォーム選択画面が表示されたら、予算管理／年間予算入力表を選択して OK ボタンをクリックします。



この後、「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます（※）。



「2018 年度」「六本木店」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。



※ すでにパラメータが選択されている場合、この画面は表示されません。その場合、画面上部のボタンでパラメータを切り換えることが出来ます。

また、メニューから「アクション＞視点選択...」で、上記画面を表示し、パラメータを切り換えることが出来ます。

Step 4. 予算を入力する

「簡易版」では、すべての列にデータが入力されていない行は表示されません。（「フル機能版」では表示させることもできます。）

1 行目をクリックしてドロップダウンリストからメンバを選択することで、行を表示させます。

勘定科目列をクリックして売上高 [PL1100]を選択します。

選択すると売上高の入力セルが表示されます。同様の手順で勘定科目にあるすべての勘定を表示させて下さい。

Excel-Link と同様に集計結果である売上総利益や販売費、営業利益は入力することができないことを表すため、セルが着色表示されています。

それでは値を入力してみましょう。「SAMPLE1.xlsx」ファイルの「年間予算入力表」シートを表示し、表の右側（K 列以降の領域）の六本木店の予算データを入力してください。

入力後のフォームは下図のような状態です。

勘定科目	和食器	洋食器	グラスウェア
売上高	64,000	138,000	170,000
売上原価	46,500	103,000	120,000
売上総利益	17,500	35,000	50,000
人件費	8,500	18,500	22,500
賃借料	4,000	8,000	10,000
その他販売費	2,800	6,000	7,500
販売費	15,300	32,500	40,000
営業利益	2,200	2,500	10,000

データを入力しただけでは、fusion_place にデータは保存されません。データを保存するためには、画面右下にある保存(S)ボタンをクリックします。

フォームではセルを編集するごとに集計メンバが動的に計算されます。

Step 5. 他店舗の予算データを入力する

他の店舗の予算データも入力してみましょう。画面左上にある店舗パラメータ（「六本木店」と表示されている箇所）をクリックしてください。「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されたら、代官山店を選択し、OK ボタンをクリックしてください。

ラベル	名称
TENPO_KEI	店舗合計
S01	六本木店
S02	代官山店
S03	横浜店
S04	京都店
TOKYO	東京地区

代官山店を選択すると、以下の画面が表示されます。Step4 の手順を参考にして代官山の予算データを入力します。

勘定科目	和食器	洋食器	グラスウェア
------	-----	-----	--------

さきほどの六本木店の入力では、ひとつひとつのセルに入力を行いましたが、Excel-Link での入力と同様に複数セルにコピー＆ペーストで入力することができます。売上高からその他販売費までのデータをコピーし、フォーム画面で貼り付け（ctrl+v）を行ってください。

貼り付け後の画面は以下の通りです。

勘定科目	和食器	洋食器	ガラスウェア
売上高	30,500	80,000	115,000
売上原価	20,500	55,500	77,000
売上総利益	10,000	24,500	38,000
人件費	5,400	14,000	20,000
賃借料	1,500	3,700	5,300
その他販売費	1,300	3,600	5,200
販売費	8,200	21,300	30,500
営業利益	1,800	3,200	7,500

※ 貼り付けする領域に集計行があっても構いません。

画面右下にある保存ボタン(S)をクリックします。

同様の手順で横浜店、京都店の予算も入力してください。

8.2 簡易版フォームで予実データを表示する

Excel-Link で確認した帳票「売上高・総利益集計表」をフォームで確認してみましょう。

画面左上にあるフォーム選択ボタンをクリックし、フォーム選択画面から「売上高・総利益集計表」を選択し OK ボタンをクリックします。

「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます。

パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択

×

パラメータ

設定値

会計年度

2018年度

▼

🔍

相対期間

▼

🔍

✓ OK

✗ キャンセル

「2017 年度」「3 月」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。

パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択

×

パラメータ

設定値

会計年度

2017年度

▼

🔍

相対期間

3月

▼

🔍

✓ OK

✗ キャンセル

フォームが表示されます。

fusion_place ブラウザ

ファイル(F) 編集(E) アクション(A) オプション(O) ヘルプ(H)

実行責任単位: なし (システム定義)

元帳帳: 共有作業帳

売上高・総利益集計表

2017年度

3月

商品部門	店舗	売上高 実績 期別	売上高 実績 年度累計	売上高 予算 期別	売上高 予算 年度累計	売上総利益 実績 期別	売上総利益 実績 年度累計	売上総利益 予算 期別	売上総利益 予算 年度累計
和食部	六本木店	3,992	67,411	64,000	64,000	1,613	19,817	17,500	17,500
	代官山店	2,613	33,756	30,500	30,500	1,490	11,300	10,000	10,000
	東京地区	6,605	101,168	94,500	94,500	3,103	31,117	27,500	27,500
	京都店	5,419	79,372	75,000	75,000	2,759	26,185	24,000	24,000
	店舗合計	12,024	180,540	169,500	169,500	5,962	57,302	51,500	51,500
洋食部	六本木店	8,291	140,003	138,000	138,000	3,143	37,039	35,000	35,000
	代官山店	6,249	80,730	80,000	80,000	3,544	26,633	24,500	24,500
	東京地区	14,540	220,733	218,000	218,000	6,687	63,673	59,500	59,500
	横浜店	2,302	35,828	50,000	50,000	956	11,349	15,000	15,000
	京都店	8,843	129,538	130,000	130,000	4,296	38,584	37,500	37,500
	店舗合計	25,686	386,098	398,000	398,000	11,939	113,606	112,000	112,000
ガラスウェア	六本木店	11,752	172,143	170,000	170,000	5,901	55,119	50,000	50,000
	代官山店	5,411	79,267	115,000	115,000	2,863	28,306	38,000	38,000
	東京地区	17,164	251,410	285,000	285,000	8,764	83,425	88,000	88,000
	横浜店	2,121	28,984	55,000	55,000	1,077	10,012	18,000	18,000
	京都店	6,246	153,857	165,000	165,000	876	46,465	50,000	50,000
	店舗合計	25,530	434,251	605,000	605,000	10,718	139,902	156,000	156,000
商品合計	六本木店	24,036	379,557	372,000	372,000	10,657	111,976	102,500	102,500
	代官山店	14,273	193,753	225,500	225,500	7,897	66,240	72,500	72,500
	東京地区	38,309	573,310	597,500	597,500	18,554	178,215	175,000	175,000

プレビュー(00)

印刷(0)

Excel出力(0)

再取得(0)

チェック(0)

保存(0)

admin 業務実行担当者

SAMPLE1

Excel-Link のフォームと同じようなレイアウトですが、standard で利用できる簡易版フォームでは、“予算列は年度累計だけを表示する”といったレイアウト調整や、比率の計算などはできません。

8.3 表示したフォームを Excel に出力する

さきほどのフォーム画面で画面左下にある「Excel 出力(X)」をクリックしてください。

fusion_place ブラウザ

ファイル(F) 編集(E) アクション(A) オプション(O) ヘルプ(H)

業務責任単位: なし (システム定義) 元帳版: 共有作業版

売上高・総利益集計表 2017年度 3月

売上高・総利益集計表 千円

商品部門	店舗	売上高 実績 期別	売上高 実績 年度累計	売上高 予算 期別	売上高 予算 年度累計	売上総利益 実績 期別	売上総利益 実績 年度累計
和食器	六本木店	3,992	67,411	64,000	64,000	1,613	19,411
	代官山店	2,613	33,756	30,500	30,500	1,490	11,490
	東京地区	6,605	101,168	94,500	94,500	3,103	31,103
	京都店	5,419	79,372	75,000	75,000	2,759	26,759
	店舗合計	12,024	180,540	169,500	169,500	5,865	57,663
洋食器	六本木店	8,291	140,003	138,000	138,000	3,143	37,000
	代官山店	6,249	80,730	80,000	80,000	3,544	26,544
	東京地区	14,540	220,733	218,000	218,000	6,687	63,687
	横浜店	2,302	35,828	50,000	50,000	956	11,956
	京都店	8,843	129,538	130,000	130,000	4,296	38,296
店舗合計	25,686	386,098	398,000	398,000	11,939	113,686	
ガラスウェア	六本木店	11,752	172,143	170,000	170,000	5,901	55,901
	代官山店	5,411	79,267	115,000	115,000	2,863	28,863
	東京地区	17,164	251,410	285,000	285,000	8,764	83,764
	横浜店	2,121	28,984	55,000	55,000	1,077	10,077
	京都店	6,246	153,857	165,000	165,000	876	46,876
店舗合計	25,530	434,251	505,000	505,000	10,718	139,530	
商品合計	六本木店	24,036	379,557	372,000	372,000	10,657	111,657
	代官山店	14,273	193,753	225,500	225,500	7,897	66,753
	東京地区	38,309	573,310	597,500	597,500	18,554	178,310
	横浜店	4,423	64,811	105,000	105,000	2,034	21,811

2018/03/21 10:29:45 シート「年間予算入力表」を作成するのに必要なデータを取得しています。

プレビュー(W) 印刷(P) Excel出力(X) 再取得(F) チェック(V) 保存(S)

admin業務実行担当者 SAMPLE1

以下のようにフォームの表示内容が Excel ファイルに出力されます。

SAMPLE1_FORM2_FY2017_M12.2018-03-20_09-15-04 - Excel

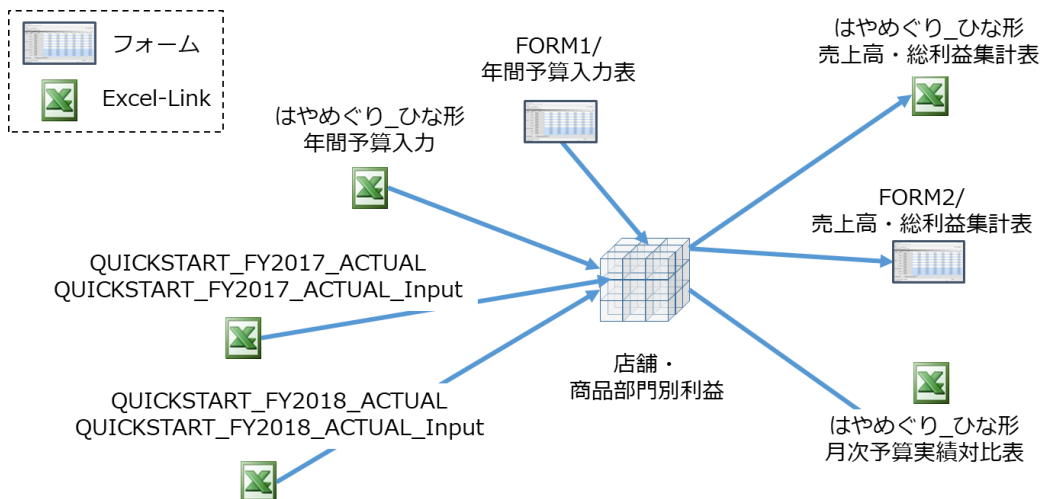
ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 開発 アドイン fusions 実行したい作業を入力してください

店舗	売上高 実績 期別	売上高 実績 年度累計	売上高 予算 期別	売上高 予算 年度累計	売上総利益 実績 期別	売上総利益 実績 年度累計	売上総利益 予算 期別	売上総利益 予算 年度累計
六本木店	3992.328	67411.44	64000	64000	1612.617	19817.21	17500	17500
代官山店	2612.869	33756.32	30500	30500	1490.052	11299.98	10000	10000
東京地区	6605.197	101167.8	94500	94500	3102.669	31117.19	27500	27500
京都店	5418.649	79371.76	75000	75000	2759.319	26185.16	24000	24000
店舗合計	12023.85	180539.5	169500	169500	5861.988	57302.35	51500	51500
六本木店	8291.425	140002.8	138000	138000	3143.253	37039.31	35000	35000
代官山店	6248.812	80730	80000	80000	3543.982	26633.39	24500	24500
東京地区	14540.24	220732.8	218000	218000	6687.235	63672.7	59500	59500
横浜店	2302.444	35827.5	50000	50000	956.134	11349.14	15000	15000
京都店	8843.476	129538.2	130000	130000	4295.749	38583.7	37500	37500
店舗合計	25686.16	386098.5	398000	398000	11939.12	113605.5	112000	112000
六本木店	11752.06	172142.9	170000	170000	5900.88	55119.23	50000	50000
代官山店	5411.478	79266.72	115000	115000	2863.45	28306.16	38000	38000
東京地区	17163.54	251409.6	285000	285000	8764.33	83425.39	88000	88000
横浜店	2120.831	28983.76	55000	55000	1077.38	10011.92	18000	18000
京都店	6245.694	153857.3	165000	165000	876.08	46465.05	50000	50000
店舗合計	25530.07	434250.7	505000	505000	10717.79	139902.4	156000	156000

準備完了


9 簡易版フォームを作成する

それではさきほど表示したフォームを実際に作成してみましょう。フォームを作成するためには、まずフォームリストを作成します。次にそのフォームリストの中にフォームを作成します。使用するアプリケーションのイメージは下図の通りです。



9.1 フォームリストを作成する

Step 1. fusion_place マネージャを起動する

コンピュータのデスクトップにある fusion_place ブラウザのアイコン  をダブルクリックして fusion_place マネージャを起動して下さい。

Step 2. fusion_place マネージャにログインする

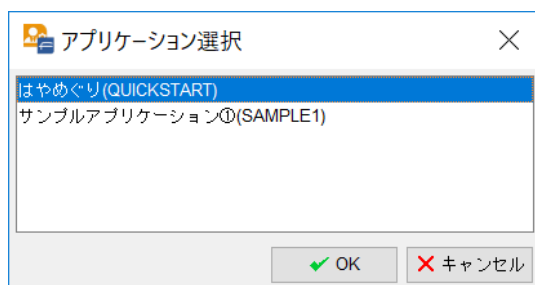
「ログイン」画面が表示されますので、以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

ユーザーアカウント	パスワード	役割
admin	admin	「設計者」

大文字と小文字が区別されます

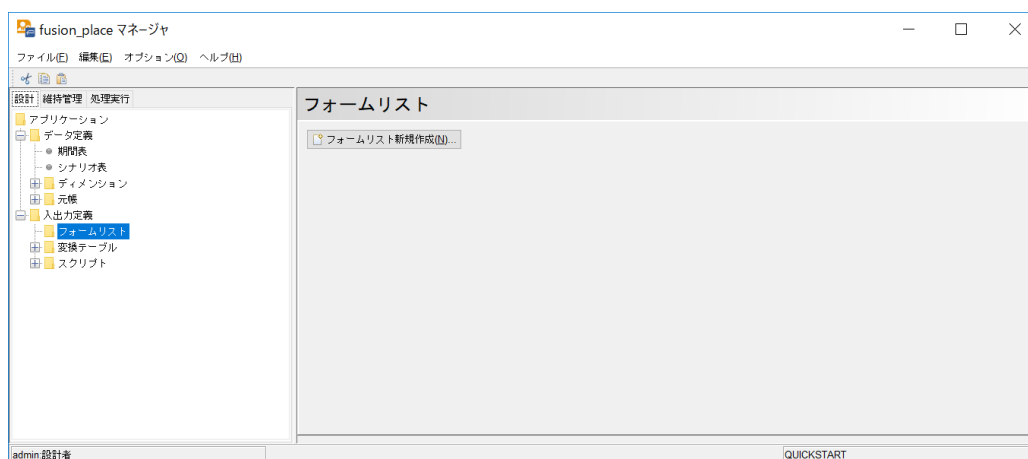
*fusion_place のセットアップ後、ユーザーアカウントやパスワードを変更した場合には、上記に代えて、適切なユーザーアカウントとパスワードを入力して下さい。

この後、「アプリケーション選択」画面が表示されます。「QUICKSTART」を選択して OK ボタンをクリックして下さい。



Step 3. フォームリストを作成します

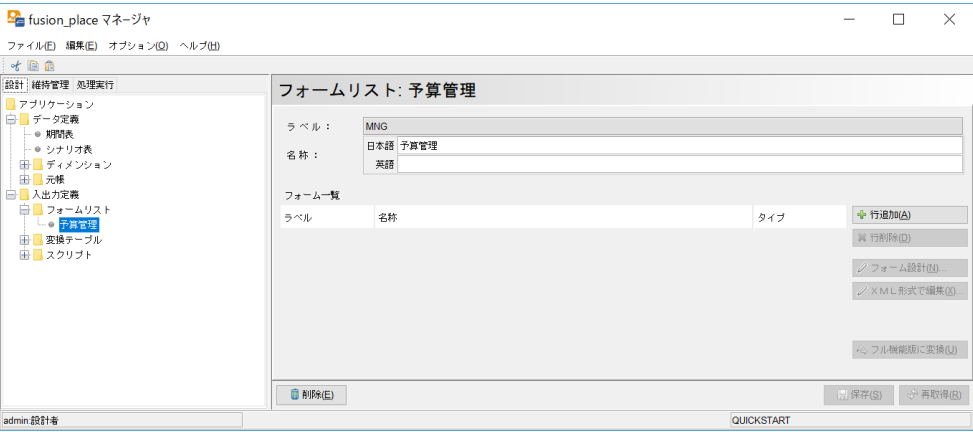
fusion_place マネージャの画面左側部分、「設計」タブの [アプリケーション]—[入出力定義]—[フォームリスト]をクリックしてフォームリスト画面を表示して下さい。



フォームリスト画面の「フォームリスト新規作成(N)...」ボタンをクリックして下さい。「フォームリスト新規作成」画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

ラベル	名称
MNG	予算管理

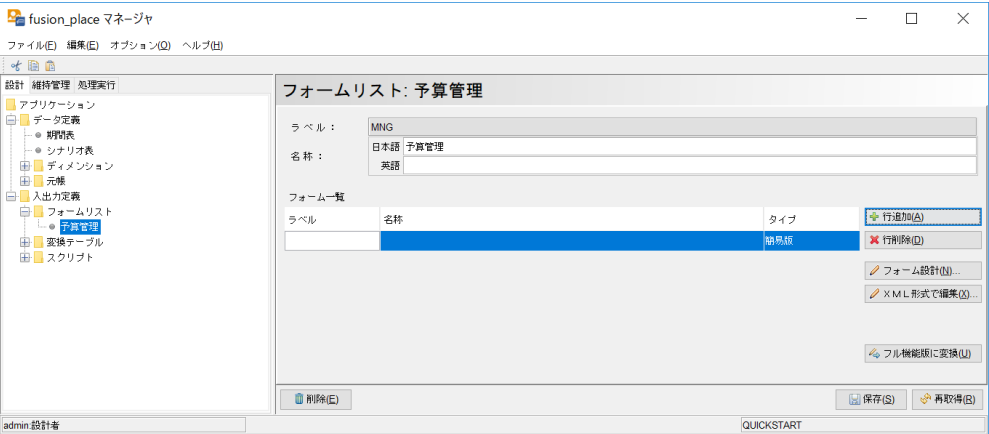
フォームリストが作成され、フォーム一覧画面が表示されます。



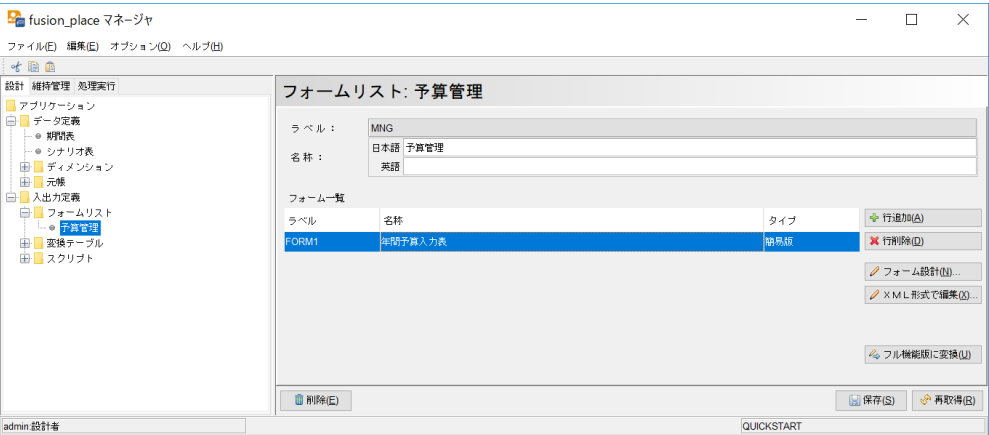
9.2 年間予算入力フォームを作成する

Step 1. フォームを作成する

画面右側にある[行追加 (A)]を選択すると、以下のように行が追加されます。



入力する項目をダブルクリックし、以下のように入力してください。



ラベル	名称
FORM1	年間予算入力表

Step 2. フォームを編集する

FORM1 を選択した状態で、画面右側にある[フォーム設計(N)...]を選択すると、以下のよう
に「フォームデザイナー（簡易版フォーム用）」画面が表示されます。

フォームデザイナー（簡易版フォーム用）

対象元帳とディメンション割当条件 | 金額・数値の表示/入力方法 | 帳票の体裁 | 単位表示 | インポート仕様

対象元帳:

ディメンション割当条件:

ディメンション	割当先	順序	メンバーリスト	メンバー	変換テーブル
---------	-----	----	---------	------	--------

プレビュー

チェック 前の画面に戻る キャンセル

「対象元帳」欄で「店舗・商品部門別利益」を選択します。
ディメンション割当条件の欄に、「店舗・商品部門別利益」元帳に定義されているディメンシ
ョンがすべて表示されます。

フォームデザイナー（簡易版フォーム用）

対象元帳とディメンション割当条件 | 金額・数値の表示/入力方法 | 帳票の体裁 | 単位表示 | インポート仕様

対象元帳:

店舗・商品部門別利益

ディメンション割当条件:


ディメンション	割当先	順序	メンバーリスト	メンバー	変換テーブル
勘定科目		0			
増減科目		0			
会計年度		0			
相対期間		0			
シナリオ		0			
表示形式		0			
商品部門		0			
店舗		0			




プレビュー

チェック 前の画面に戻る キャンセル

次に、下記の通り設定を変更します。

ディメンション	割当先	順序	メンバリスト	メンバ	変換テーブル
会計年度	1.パラメータ	1	全メンバ		
店舗	1.パラメータ	4	全メンバ		
商品部門	2.横軸	4	視点メンバの最下位子孫でかつリーフ	商品合計	
勘定科目	3.縦軸	1	視点メンバの子孫(子優先ならび)	営業利益	
増減科目	4.バックグラウンド	1		なし	
相対期間	4.バックグラウンド	1		年	
シナリオ	4.バックグラウンド	2		予算	
表示形式	4.バックグラウンド	3		期別	


フォームデザイナー（簡易版フォーム用）
✕

対象元帳とディメンション割当条件

金額・数値の表示/入力方法

帳票の体裁


単位表示

インポート仕様


対象元帳：


店舗・商品部門別利益


ディメンション割当条件：



 自動設定(A)

ディメンション	割当先	順序	メンバーリスト	メンバ	変換テーブル
会計年度	1.パラメータ		1 全メンバ		
店舗	1.パラメータ		4 全メンバ		
商品部門	2.横軸		4 視点メンバの最下位子孫でかつリーフ	商品合計	
勘定科目	3.縦軸		1 視点メンバの子孫（子優先ならび）	営業利益	
増減科目	4.バックグラウンド	1		なし	
相対期間	4.バックグラウンド	1		年	
シナリオ	4.バックグラウンド	2		予算	
表示形式	4.バックグラウンド	3		期別	

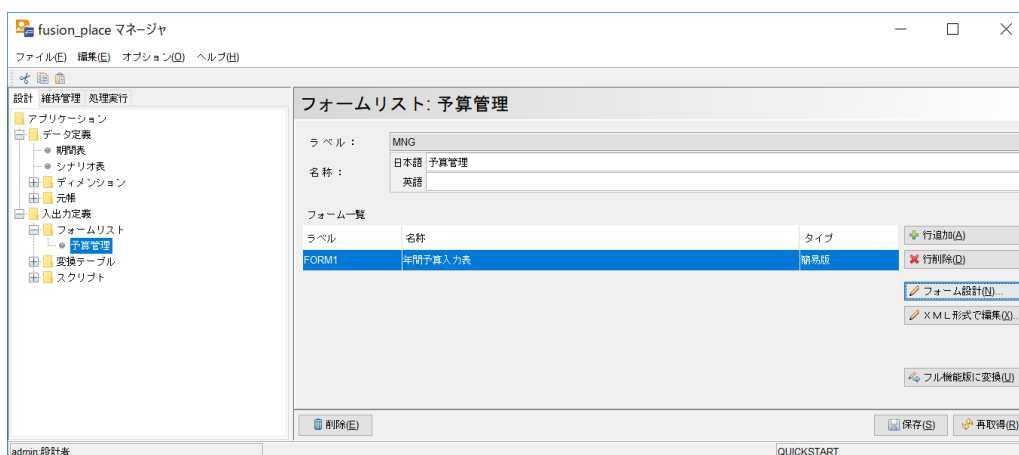

 プレビュー(W)


 チェック(V)


 前の画面に戻る


 キャンセル

「前の画面に戻る」ボタンをクリックし、フォーム画面で「保存」ボタンをクリックします。



簡易版フォームでフォームを作成する場合は、元帳をひとつ選択し、その元帳を構成する全てのディメンションを、作成したい帳票のレイアウトに応じて下記①～④のいずれかに割り当てます。

- ①パラメータ： フォーム全体に適用するディメンション。
フォーム表示時にメンバを切り替えることができます。
- ②横軸： フォームの列に設定するディメンション。
- ③縦軸： フォームの行に設定するディメンション。
- ④バックグラウンド： フォーム全体に適用するディメンション。パラメータと異なりフォーム表示時に切り替える必要がない場合、バックグラウンドにディメンションとメンバを指定します。

8章の手順を参考にして作成したフォームをブラウザで確認してください。アプリケーションは「サンプルアプリケーション① (SAMPLE1)」から「はやめぐり (QUICKSTART)」に切り替える必要があります。

9.3 売上高・総利益集計表フォームを作成する

売上高・総利益集計表は以下のようなレイアウトで作成します。横軸は売上高と売上総利益の実績と予算を期別値と年度累計値で表示します。

商品部門	店舗	売上高 実績 期別	売上高 実績 年度累計	売上高 予算 期別	売上高 予算 年度累計	売上総利益 実績 期別	売上総利益 実績 年度累計	売上総利益 予算 期別	売上総利益 予算 年度累計
和食部	六本木店	3,992	67,411	64,000	64,000	1,613	19,817	17,500	17,500
	代官山店	2,613	33,756	30,500	30,500	1,490	11,300	10,000	10,000
	東京地区	6,605	101,168	94,500	94,500	3,103	31,117	27,500	27,500
	京都市	5,419	79,372	75,000	75,000	2,759	26,185	24,000	24,000
	店舗合計	12,024	180,540	169,500	169,500	5,862	57,302	51,500	51,500
洋食部	六本木店	8,291	140,003	138,000	138,000	3,143	37,039	35,000	35,000
	代官山店	6,249	80,730	80,000	80,000	3,544	26,633	24,500	24,500
	東京地区	14,540	220,733	218,000	218,000	6,687	63,673	59,500	59,500
	横浜店	2,302	35,828	50,000	50,000	956	11,349	15,000	15,000
	京都市	8,843	129,538	130,000	130,000	4,296	38,584	37,500	37,500
	店舗合計	25,686	386,088	398,000	398,000	11,933	113,606	112,000	112,000

メンバリストを使うと上記のように横軸（または縦軸）にメンバを限定して配置することができます。以下の手順に沿って、メンバリストを作成してからフォームを作成してください。

Step 1. メンバリスト（表示形式）を作成する

fusion_place マネージャの画面左側部分、「設計」タブの [アプリケーション]—[データ定義]—[ディメンション] —[表示形式]をクリックして「ディメンション（設計）：表示形式」画面を表示して下さい。

fusion_place マネージャ

設計 | 維持管理 | 処理実行

アプリケーション

- データ定義
 - 期別表
 - シナリオ表
 - ディメンション
 - 会計年度
 - 相対期間
 - シナリオ
 - 表示形式**
 - 勘定科目
 - 増減科目
 - 商品部門
 - 店舗
- 元帳
- 入出力定義
 - フォームリスト
 - 変換テーブル
 - スクリプト

ディメンション(設計)：表示形式

基本情報 | メンバ | プロパティ | メンバリスト

メンバツリー

- 期別
- 四半期累計
- 半期累計
- 年度累計

ラベル：
名称：
日本語
英語

プロパティ値設定内容

プロパティ	値
メンバタイプ	
リーフ区分	
使用区分	

ツリーに含まれないメンバ

削除(E)

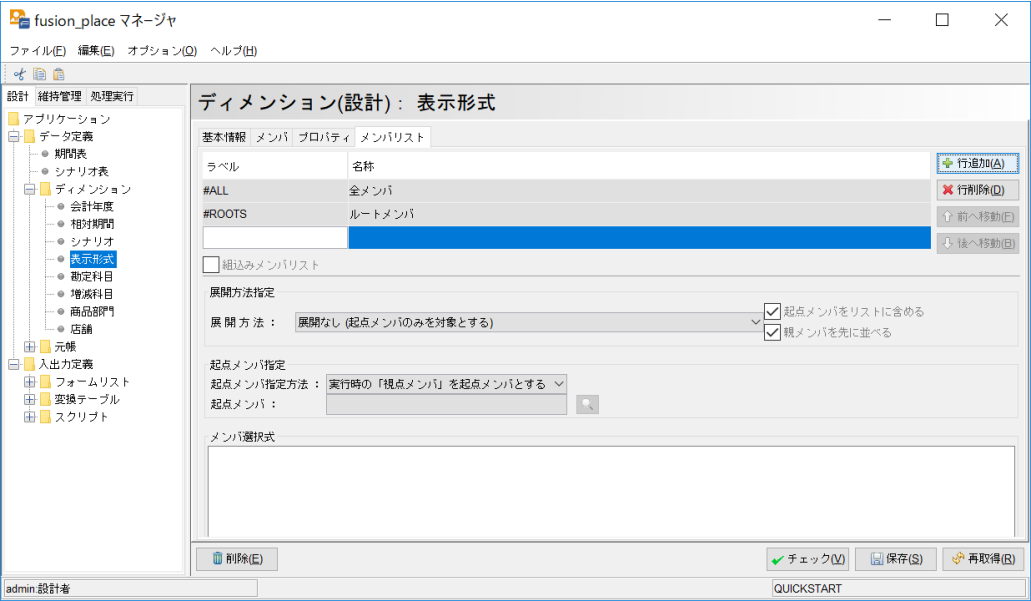
クリップボードへ(H) | クリップボードから(F)

チェック(O) | 保存(S) | 再取得(R)

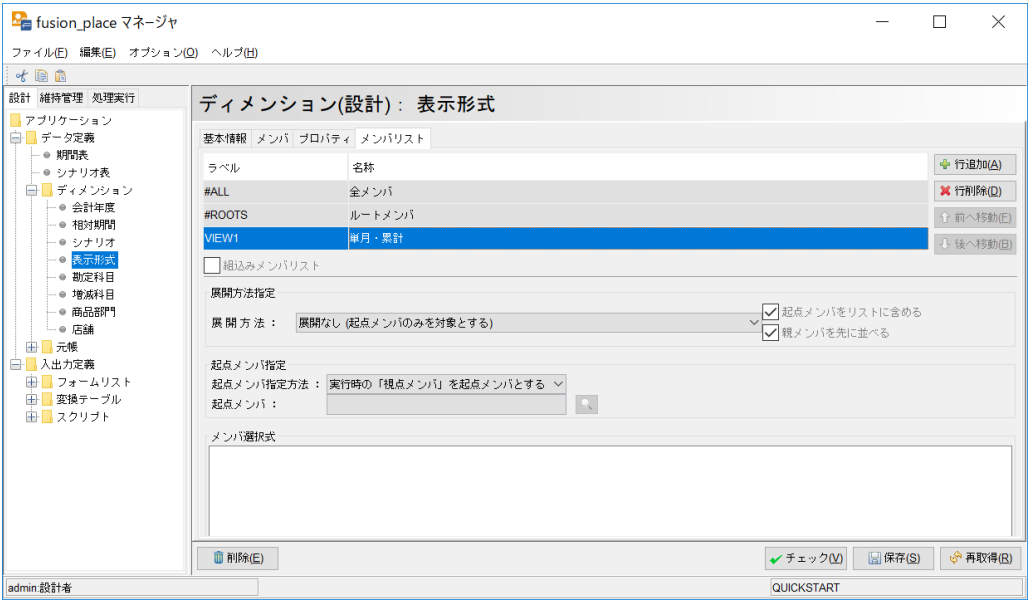
admin 設計者

QUICKSTART

メンバリスタブを選択し、画面右側にある[行追加 (A)]を選択すると、以下のように行が追加されます。

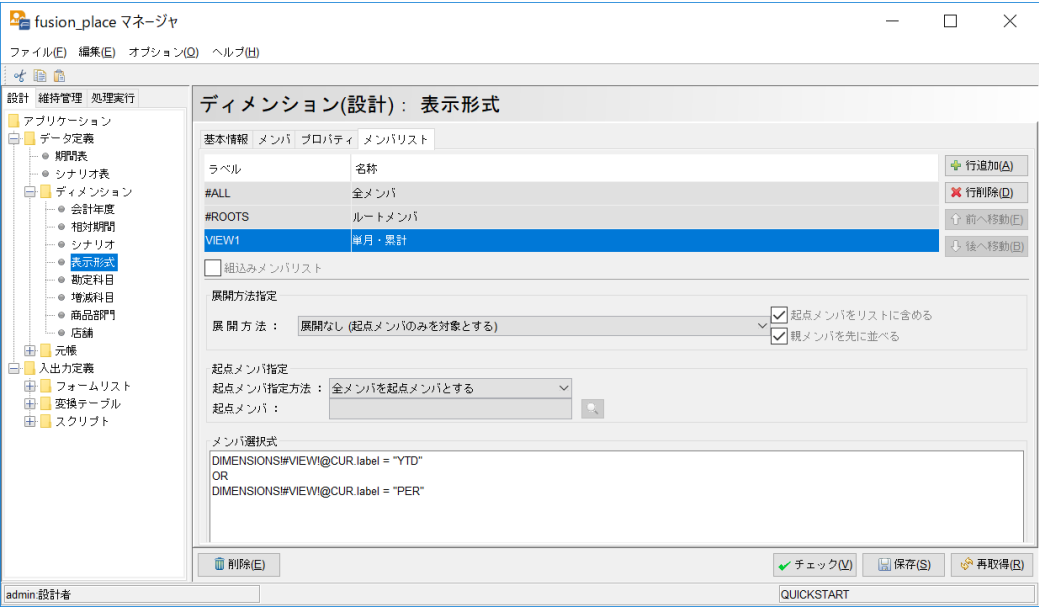


以下のように入力してください。



ラベル	名称
VIEW1	単月・累計

起点メンバ指定方法、メンバ選択式にそれぞれ以下のように入力してください。



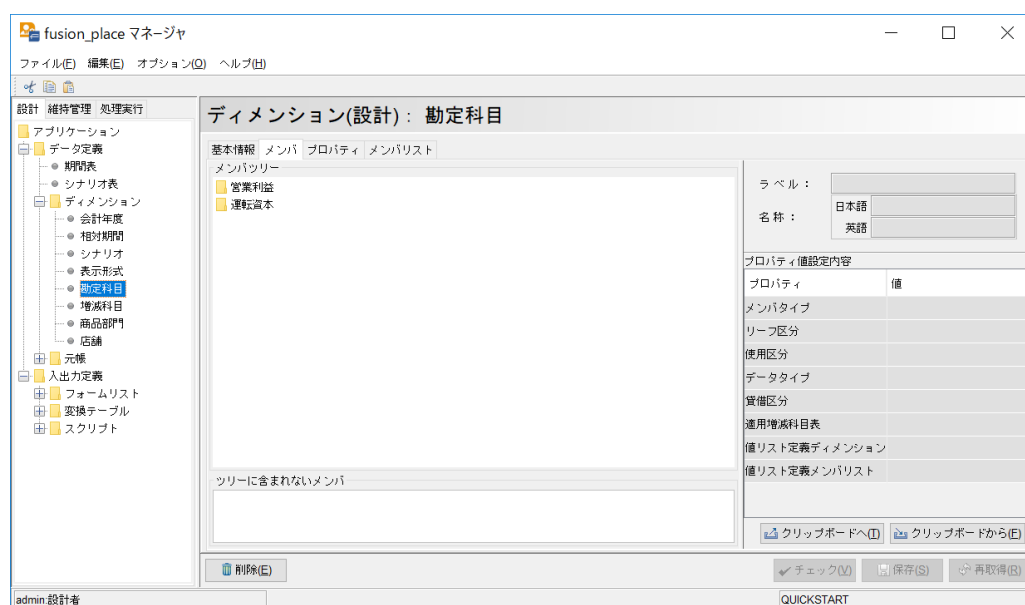
展開方法:	展開なし(起点メンバのみを対象とする) ※デフォルトのまま <input checked="" type="checkbox"/> 起点メンバをリストに含める <input checked="" type="checkbox"/> 親メンバを先に並べる
起点メンバ指定方法:	全メンバを起点メンバとする
起点メンバ:	-
メンバ選択式	DIMENSIONS!#VIEW1@CUR.label = "YTD" OR DIMENSIONS!#VIEW1@CUR.label = "PER"

画面右下の「保存」ボタンをクリックします。



Step 2. メンバリスト（勘定科目）を作成する

fusion_place マネージャの画面左側部分、「設計」タブの [アプリケーション] - [データ定義] - [ディメンション] - [勘定科目] をクリックして「ディメンション（設計）：勘定科目」画面を表示して下さい。



メンバリスタブを選択し、画面右側にある[行追加 (A)]を選択すると、以下のように行が追加されます。

以下のように入力してください。

ラベル	名称
ACCOUNT1	売上高・売上総利益

起点メンバ指定方法、メンバ選択式にそれぞれ以下のように入力してください。

展開方法:	子孫メンバ(起点メンバの下全てのメンバを対象とする) <input checked="" type="checkbox"/> 起点メンバをリストに含める <input type="checkbox"/> 親メンバを先に並べる
起点メンバ指定方法:	指定したメンバを起点メンバとする
起点メンバ:	PL_EIR
メンバ選択式	DIMENSIONS!#ACCOUNT!@CUR.label = "PL1100" OR DIMENSIONS!#ACCOUNT!@CUR.label = "PL_ARR"

画面右下の「保存」ボタンをクリックします。

Step 3. フォームを作成する

続いて、売上高・総利益集計表を作成します。フォームリスト「予算管理」を選択し、画面右側にある[行追加 (A)]を選択すると、以下のように行が追加されます。

以下のように入力してください。

ラベル	名称
FORM2	売上高・総利益集計表

Step 4. フォームを編集する

FORM2 を選択した状態で、画面右側にある[フォーム設計(N)...]を選択すると、以下のよう
にフォームデザイナー（簡易版フォーム用）画面が表示されます。

フォームデザイナー (簡易版フォーム用)

対象元帳とディメンション割当条件 | 金額・数値の表示/入力方法 | 帳票の体裁 | 単位表示 | インポート仕様

対象元帳:

ディメンション割当条件:

ディメンション	割当先	順序	メンバリスト	メンバ	変換テーブル
---------	-----	----	--------	-----	--------

プレビュー

チェック 前の画面に戻る キャンセル

「対象元帳」欄で「店舗・商品部門別利益」を選択します。
ディメンション割当条件の欄に、「店舗・商品部門別利益」元帳に定義されたディメンションが
すべて表示されます。

フォームデザイナー (簡易版フォーム用)

対象元帳とディメンション割当条件 | 金額・数値の表示/入力方法 | 帳票の体裁 | 単位表示 | インポート仕様

対象元帳:

ディメンション割当条件:


ディメンション	割当先	順序	メンバリスト	メンバ	変換テーブル
勘定科目		0			
増減科目		0			
会計年度		0			
相対期間		0			
シナリオ		0			
表示形式		0			
商品部門		0			
店舗		0			


プレビュー

チェック 前の画面に戻る キャンセル

次に、下記の通り設定を変更します。

ディメンション	割当先	順序	メンバーリスト	メンバ	変換テーブル
会計年度	1.パラメータ	1	ルートメンバ		
相対期間	1.パラメータ	1	視点メンバの最下位子孫でかつリーフ	年	
勘定科目	2.横軸	1	売上高・売上総利益		
シナリオ	2.横軸	2	全メンバ		
表示形式	2.横軸	3	単月・累計		
商品部門	3.縦軸	1	ルートメンバすべての子孫(子優先ならび)		
店舗	3.縦軸	2	ルートメンバすべての子孫(子優先ならび)		
増減科目	4.バックグラウンド	1		なし	


フォームデザイナー（簡易版フォーム用）
✕



対象元帳とディメンション割当条件

金額・数値の表示/入力方法

帳票の体裁

単位表示

インポート仕様

対象元帳：

店舗・商品部門別利益

ディメンション割当条件：

自動設定(A)

ディメンション	割当先	順序	メンバーリスト	メンバー	変換テーブル
会計年度	1.パラメータ	1	ルートメンバー		
相対期間	1.パラメータ	1	視点メンバーの最下位子孫でかつリーフ	年	
勘定科目	2.横軸	1	売上高・売上総利益		
シナリオ	2.横軸	2	全メンバー		
表示形式	2.横軸	3	単月・累計		
商品部門	3.縦軸	1	ルートメンバーすべての子孫（子優先ならび）		
店舗	3.縦軸	2	ルートメンバーすべての子孫（子優先ならび）		
増減科目	4.バックグラウンド	1		なし	

プレビュー(W)

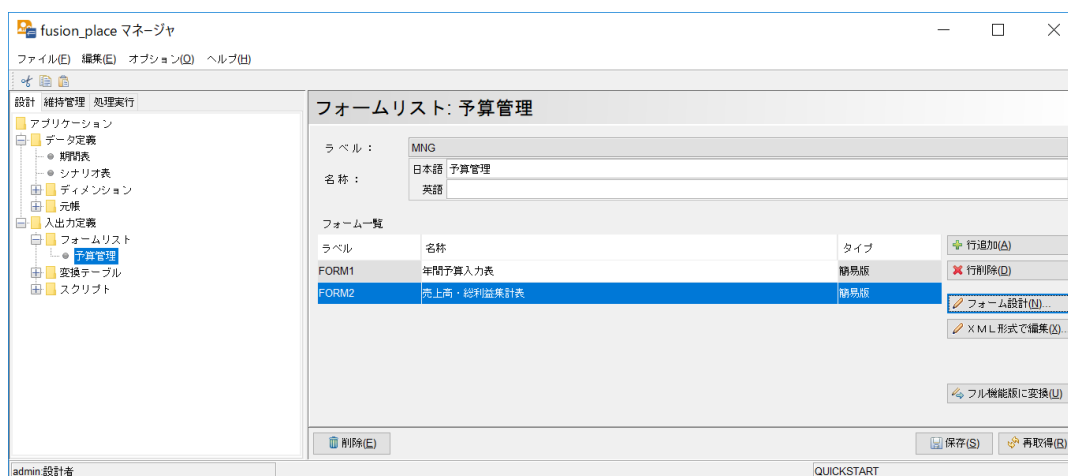
✓ チェック(W)

前の画面に戻る

✕ キャンセル

※ 「割当先」と「順序」の設定により、行の並び順が変わります。

「前の画面に戻る」ボタンをクリックします。フォーム画面で「保存」ボタンをクリックします。



8 章の手順を参考にして作成したフォームをブラウザで確認してください。アプリケーションは「サンプルアプリケーション① (SAMPLE1)」から「はやめぐり (QUICKSTART)」に切り替える必要があります。

簡易版フォームのさらなる活用

ここまでの実習で簡易版フォームの基本的な機能をご理解頂けたと思います。簡易版フォームには、これまでご紹介した画面によるデータ入出力の他に、データインポート、データエクスポート機能があります。

詳しくはユーザマニュアルの以下の項目をご覧ください：

「操作の手引き」-「02.ブラウザ」-「09.データをインポート/エクスポートする」

10 fusion_place をさらにご活用いただくために

「はやめぐり」を終えて、fusion_place を皆さまの業務に具体的にどのように適用できるか、イメージをお持ちになって頂けたでしょうか。

fusion_place には、このチュートリアルではご説明を割愛した様々な機能があります。そうした機能に親しんで頂くために、ユーザマニュアル（オンラインヘルプ）をご活用下さい。

主だったものについて、参照頂きたいユーザマニュアルのトピックを併せて示します。

非数値データの保持

元帳には、数値データ以外に、文字列、論理値、列挙値を保持することができます。

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「08.元帳」-「03.【設・管】元帳セルのデータタイプ」

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「08.元帳」-「06.【設・管】注記元帳」

Excel-Link によるメンバ名等の取得

Excel-Link では、元帳に含まれるデータ値だけではなく、ディメンションメンバの名称やプロパティ値も取得することができます。

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「15.Excel-Link」-「02. リンク機能の詳細」

Excel-Link でのテンプレート処理（繰返し処理）

当資料でご紹介した Excel-Link シートは行数が固定されていましたが、メンバごとあるいはメンバの組合せごとに処理を繰返すことで、行数可変のシートを作成することもできます。処理結果を元帳に反映することも可能です。

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「15.Excel-Link」-「03. テンプレート処理機能の詳細」

「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルにある「TEMPLATE.xlsx」はテンプレート処理のサンプルです。各シートで、「データ取得」を実行することで機能を確認できます。

マクロからの Excel-Link 使用

Excel-Link のデータ取得処理やデータ反映処理をマクロから実行することができます。これを利用すれば複数シート一括でデータ取得を行うことなども出来ます。

⇒ 「操作の手引き」-「04.Excel-Link」-「13.Excel-Link の機能をマクロから使う」

版別のデータ管理

データを「共有作業版」上で加工し、確定したら「公開版」に移す、という運用が可能です。共有作業版の内容をクリアすれば直前の公開時の内容に戻りますので、バックアップ取得の目的でご利用頂けます。

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「08.元帳」-「07.【設・管】元帳データの版管理」

さらには、共有作業版と公開版に加えて、任意の版を設けることができます。予算編成作業の任意の時点でスナップショットを保管しておき、差異を把握するといった使い方が可能です。

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「08.元帳」-「07.【設・管】元帳データの版管理」

元帳のオープン／クローズ機能

データ入力を許す期間をシナリオごとに設定することができます（エンタープライズタイプのアプリケーション固有の機能です）。

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「09.元帳アクセスコントロール」-「05.【設・管】元帳のオープン／クローズ」

履歴管理機能

fusion_place はマスタ変更履歴と元帳更新履歴を保持しています。履歴には、誰が、いつ、どのような変更をマスタと元帳データに加えたのか記録されています。

⇒ 「操作の手引き」-「01.マネージャ」-「13.履歴の照会と管理」

11 より高度な機能のご紹介

fusion_place premium, cloud で提供される機能をご紹介します。

高度なデータインポート機能

インポートするファイルのフィールドにディメンションと異なる項目がある場合や、金額項目が横並び（月別の情報を横並びで保持）といったファイルも取り込むことができ、データインポートの機能性が向上します。

⇒ 「操作の手引き」-「02.ブラウザ」-「09.データをインポート/エクスポートする」

インポート時のコード変換

データインポートに際して、簡易版フォームではできない、フィールドを結合あるいは分解するといった複雑な処理を行うことができ、それに多段階のコード変換を組み合わせることができます。

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「10.フォーム」-「04.フル機能版フォーム」

「フル機能版フォーム」による画面・帳票の作成

フル機能版「フォームエディタ」という画面・帳票設計ツールを用いて、ドリルダウンなど洗練された機能を提供する画面・帳票を作成することができます。

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「10.フォーム」-「04.フル機能版フォーム」

元帳アクセスコントロール機能

各ユーザの元帳セルへのアクセス権限を、一律に、あるいは、ユーザの所属する部門や担当職務に応じて動的に設定することができます（エンタープライズタイプのアプリケーション固有の機能です）。

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「09.元帳アクセスコントロール」


ワークフロー管理機能

予算編成などの一連の作業を業務プロセスとして定義し、フォームや Excel-Link によるデータの提出、承認等のワークフローを設定し運用することが可能です（ワークフロータイプアプリケーション固有の機能です）。

⇒ 「fusion_place のしくみ」-「16.業務プロセス(ワークフロー)」

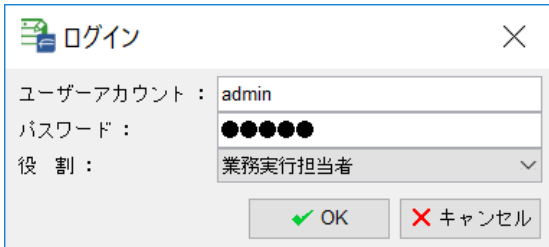
11.1 事前準備

Step 1. fusion_place ブラウザを起動する

コンピュータのデスクトップにある fusion_place ブラウザのアイコン  をダブルクリックして fusion_place ブラウザを起動して下さい。

Step 2. fusion_place ブラウザにログインする

「ログイン」画面が表示されますので、以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。



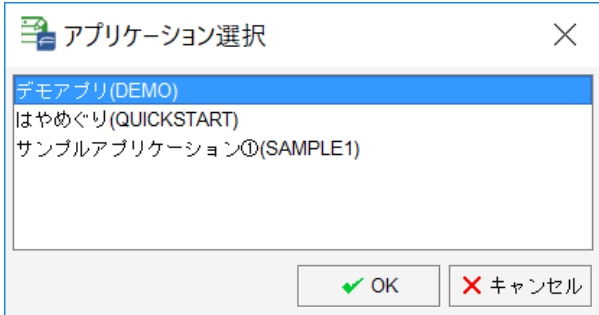
ログイン画面のスクリーンショット。タイトルは「ログイン」で、右上には閉じるボタン（X）があります。フィールドには「ユーザーアカウント : admin」、「パスワード : 黒い丸印5つ」、「役割 : 業務実行担当者」が設定されています。下部には「OK」ボタン（緑のチェックマーク）と「キャンセル」ボタン（赤のX）があります。

ユーザアカウント	パスワード	役割
admin	admin	「業務実行担当者」

大文字と小文字が区別されます

*fusion_place のセットアップ後、ユーザアカウントやパスワードを変更した場合には、上記に代えて、適切なユーザアカウントとパスワードを入力して下さい。

この後、「アプリケーション選択」画面が表示されます。「DEMO」を選択して OK ボタンをクリックして下さい。



アプリケーション選択画面のスクリーンショット。タイトルは「アプリケーション選択」で、右上には閉じるボタン（X）があります。リストには「デモアプリ(DEMO)」、「はやめぐり(QUICKSTART)」、「サンプルアプリケーション①(SAMPLE1)」が並んでいます。最初の項目「デモアプリ(DEMO)」が青い背景で選択されています。下部には「OK」ボタン（緑のチェックマーク）と「キャンセル」ボタン（赤のX）があります。

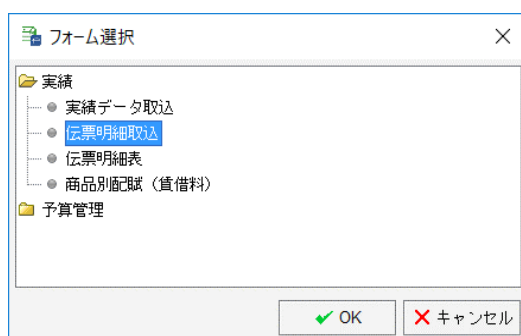
11.2 ご紹介機能① 高度なインポート

会計システムから出力された以下の CSV ファイルを伝票明細元帳へ取り込んでみましょう。

1	伝票番号	勘定コード	店舗コード	商品コード	ソートキー	通貨	概要	年度	期間	伝票日付	金額
2	1	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上040958-256322-1804	2018 4月	2018/4/2		-100040
3	2	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上011097-256327-1804	2018 4月	2018/4/3		-82300
4	3	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上020561-256328-1804	2018 4月	2018/4/4		-40000
5	4	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上020837-256329-1804	2018 4月	2018/4/5		-60000
6	5	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上023388-256330-1804	2018 4月	2018/4/6		-12000
7	6	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上032964-256331-1804	2018 4月	2018/4/7		-78000
8	7	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上033067-256332-1804	2018 4月	2018/4/8		-100000
9	8	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上034476-256333-1804	2018 4月	2018/4/10		-86000
10	9	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上036102-256334-1804	2018 4月	2018/4/11		-50000
11	10	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上037600-256335-1804	2018 4月	2018/4/13		-400000
12	11	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上037640-256336-1804	2018 4月	2018/4/14		-500000
13	12	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上037909-256337-1804	2018 4月	2018/4/15		-30000
14	13	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上038507-256338-1804	2018 4月	2018/4/18		-24000
15	14	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上038738-256339-1804	2018 4月	2018/4/19		-680000
16	15	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上038832-256340-1804	2018 4月	2018/4/20		-520000
17	16	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上039000-256341-1804	2018 4月	2018/4/21		-1020000
18	17	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上039062-256342-1804	2018 4月	2018/4/22		-312000
19	18	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上039199-256343-1804	2018 4月	2018/4/23		-125000
20	19	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上039894-256344-1804	2018 4月	2018/4/24		-43800
21	20	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上040301-256345-1804	2018 4月	2018/4/26		-700000

Step 1. フォームを選択します

ブラウザを起動後、フォーム選択画面が表示されたら、フォームリスト「実績」中の「伝票明細取込」を選択して OK ボタンをクリックします。



この後、「パラメータ (レポートの視点メンバ) を選択」画面が表示されます。

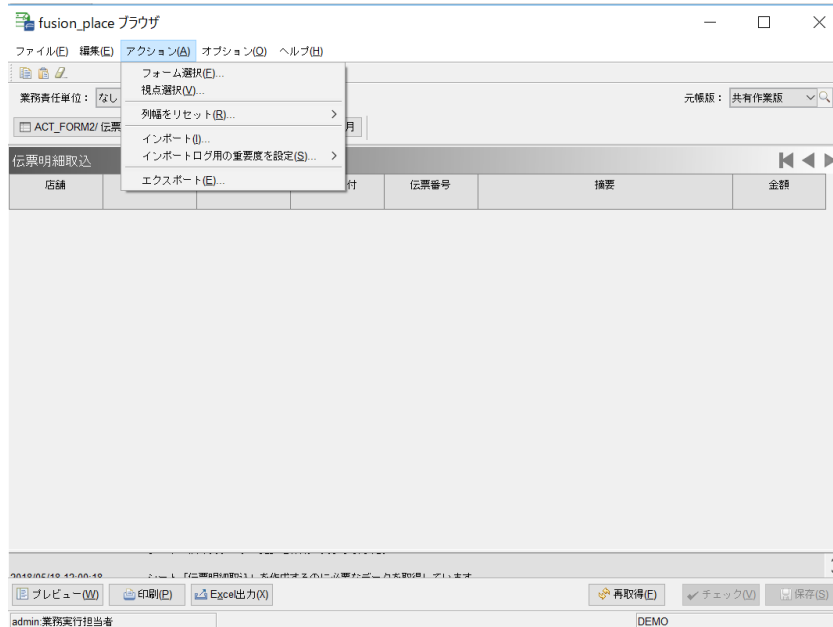
「2018 年度」「4 月」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。

このフォームには、fusion_place premium, cloud の機能を使い、あらかじめ以下のインポート設定がしてあります。standard では、インポートの設定はできませんが、実行はできます。

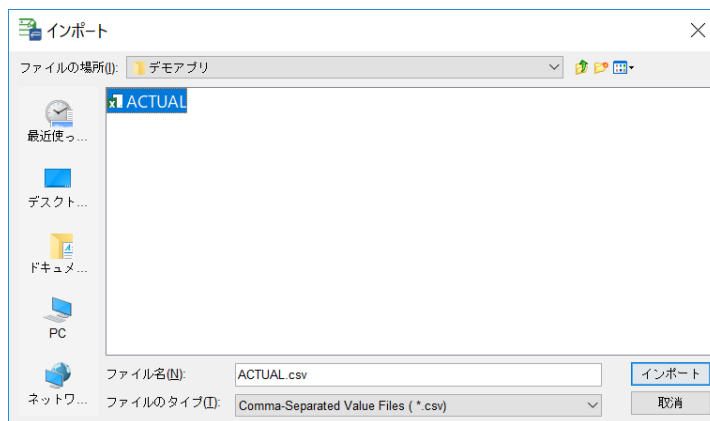
- 取り込みに不要な列をスキップ (取込時に「ソートキー」「通貨」列を除外)
- フィールドの分解 (店舗コード 000S01 から S01 を取り出す)

Step 2. フォームをインポートします。

「アクション」→「インポート(I)...」をクリックします。



この「はやめぐり」チュートリアルと同じフォルダ内の「DEMO」フォルダの「ACTUAL.CSV」ファイルを選択し、「インポート」をクリックしてください。



データがインポートされますので、「保存」ボタンを押してください。

fusion_place ブラウザ

ファイル(F) 編集(E) アクション(A) オプション(O) ヘルプ(H)

業務責任単位: なし (システム定義)

元帳版: 共有作業版

伝票明細取込

2018年度

4月

店舗	商品部門	勘定科目	伝票日付	伝票番号	摘要	金額
六本木店	和食器	売上高	2018/4/2	0001	六本木店 和食器 4月分 売上計上040958-256322-1804	100
六本木店	和食器	売上高	2018/4/3	0002	六本木店 和食器 4月分 売上計上011097-256327-1804	82
六本木店	和食器	売上高	2018/4/4	0003	六本木店 和食器 4月分 売上計上020561-256328-1804	40
六本木店	和食器	売上高	2018/4/5	0004	六本木店 和食器 4月分 売上計上020837-256329-1804	60
六本木店	和食器	売上高	2018/4/6	0005	六本木店 和食器 4月分 売上計上023388-256330-1804	12
六本木店	和食器	売上高	2018/4/7	0006	六本木店 和食器 4月分 売上計上032964-256331-1804	78
六本木店	和食器	売上高	2018/4/8	0007	六本木店 和食器 4月分 売上計上033067-256332-1804	100
六本木店	和食器	売上高	2018/4/10	0008	六本木店 和食器 4月分 売上計上034476-256333-1804	86
六本木店	和食器	売上高	2018/4/11	0009	六本木店 和食器 4月分 売上計上036102-256334-1804	50
六本木店	和食器	売上高	2018/4/13	0010	六本木店 和食器 4月分 売上計上037600-256335-1804	400
六本木店	和食器	売上高	2018/4/14	0011	六本木店 和食器 4月分 売上計上037640-256336-1804	500
六本木店	和食器	売上高	2018/4/15	0012	六本木店 和食器 4月分 売上計上037909-256337-1804	30
六本木店	和食器	売上高	2018/4/18	0013	六本木店 和食器 4月分 売上計上038507-256338-1804	24
六本木店	和食器	売上高	2018/4/19	0014	六本木店 和食器 4月分 売上計上038738-256339-1804	680
六本木店	和食器	売上高	2018/4/20	0015	六本木店 和食器 4月分 売上計上038832-256340-1804	520
六本木店	和食器	売上高	2018/4/21	0016	六本木店 和食器 4月分 売上計上039000-256341-1804	1,020
六本木店	和食器	売上高	2018/4/22	0017	六本木店 和食器 4月分 売上計上039062-256342-1804	312
六本木店	和食器	売上高	2018/4/23	0018	六本木店 和食器 4月分 売上計上039199-256343-1804	125
六本木店	和食器	売上高	2018/4/24	0019	六本木店 和食器 4月分 売上計上039894-256344-1804	44
六本木店	和食器	売上高	2018/4/26	0020	六本木店 和食器 4月分 売上計上040301-256345-1804	700
六本木店	和食器	売上高	2018/4/27	0021	六本木店 和食器 4月分 売上計上040620-256346-1804	5
六本木店	和食器	売上高	2018/4/28	0022	六本木店 和食器 4月分 売上計上041032-256347-1804	163
六本木店	和食器	売上原価	2018/4/28	0057	六本木店 和食器 4月期首商品在庫	335

プレビュー(W)

印刷(P)

Excel出力(X)

再取得(E)

チェック(V)

保存(S)

admin 業務実行担当者

DEMO

11.3 ご紹介機能② フォーム機能 1

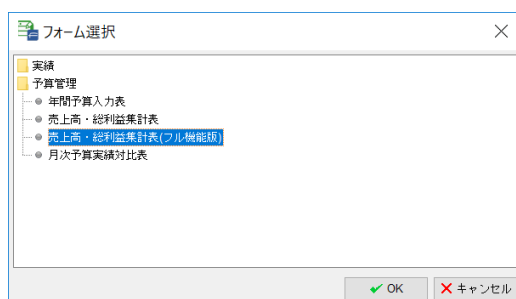
8.2 でお試し頂いた簡易版フォーム「売上高・総利益集計表」では以下のような、予算列のみ累計値を表示する、といったレイアウト調整、前年対比、予算比などの比率の計算ができませんでした。

フル機能版フォームでは細かなレイアウト調整、計算等が可能です。

商品部門	店舗	売上高 実績 期別	売上高 実績 年度累計	売上高 予算 期別	売上高 予算 年度累計	売上総利益 実績 期別	売上総利益 実績 年度累計	売上総利益 予算 期別	売上総利益 予算 年度累計
和食部	六本木店	5,131	5,131	0	0	1,385	1,385	0	0
	代官山店	2,467	2,467	0	0	760	760	0	0
	東京地区	7,598	7,598	0	0	2,145	2,145	0	0
	京都店	6,228	6,228	0	0	2,002	2,002	0	0
	店舗合計	13,826	13,826	0	0	4,147	4,147	0	0
洋食部	六本木店	11,091	11,091	0	0	2,828	2,828	0	0
	代官山店	6,396	6,396	0	0	1,951	1,951	0	0
	東京地区	17,488	17,488	0	0	4,779	4,779	0	0
	横浜店	4,215	4,215	0	0	1,307	1,307	0	0
	店舗合計	30,289	30,289	0	0	7,185	7,185	0	0
グラスウェア	六本木店	13,639	13,639	0	0	4,023	4,023	0	0
	代官山店	9,207	9,207	0	0	3,057	3,057	0	0
	東京地区	22,846	22,846	0	0	7,080	7,080	0	0
	横浜店	4,682	4,682	0	0	1,508	1,508	0	0
	店舗合計	13,133	13,133	0	0	3,674	3,674	0	0

Step 1. フォームを選択します

ブラウザを起動後、フォーム選択画面が表示されたら、フォームリスト「予算管理」中の、「売上高・総利益集計表（フル機能版）」を選択して OK ボタンをクリックします。



「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます。

「2018 年度」「4 月」「報告値」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。

パラメータ	設定値
会計年度	2018年度
相対期間	4月
データ種別	報告値

フォームが表示されます。Excel-Link と同様のレイアウト、比率の計算が実現できていることがお分かりいただけると思います。

fusion_place ブラウザ

ファイル(F) 編集(E) アクション(A) オプション(O) ヘルプ(H)

業務責任単位: なし (システム定義)

元帳版: 共有作業版

売上高・総利益集計表(フル機能版) 2018年度 4月 報告値

売上高・総利益集計表(フル機能版)

商品部門	店舗	売上高 予算 期別 (A)	売上高 実績 期別 (B)	売上高 前年同月実績 期別 (B)	対前年	売上高 実績 年度累計 (C)	売上高 前年同月実績 年度累計 (C)	対前年	売上高 予算比 (C/A)	売上総利益 予算 期別 (A)	売上総利益 実績 期別 (B)	売上総利益 前年同月実績 期別 (B)	対前年	売上総利益 実績 年度累計 (C)
和食部	六本木店	64,000	5,131	5,236	-2%	5,131	5,236	-2%	8%	17,500	1,385	1,466	-6%	1,385
	代官山店	30,500	2,467	2,597	-5%	2,467	2,597	-5%	8%	10,000	760	818	-7%	760
	東京地区	94,500	7,598	7,832	-3%	7,598	7,832	-3%	8%	27,500	2,145	2,284	-6%	2,145
	横浜店	0	0	0	-	0	0	-	-	0	0	0	-	0
	京都店	75,000	6,228	6,106	2%	6,228	6,106	2%	8%	24,000	2,002	1,893	6%	2,002
	店舗合計	169,500	13,826	13,938	-1%	13,826	13,938	-1%	8%	51,500	4,147	4,177	-1%	4,147
洋食部	六本木店	138,000	11,091	10,874	2%	11,091	10,874	2%	8%	35,000	2,828	2,718	4%	2,828
	代官山店	80,000	6,396	6,210	3%	6,396	6,210	3%	8%	24,500	1,951	1,925	1%	1,951
	東京地区	218,000	17,488	17,084	2%	17,488	17,084	2%	8%	59,500	4,779	4,644	3%	4,779
	横浜店	50,000	4,215	2,810	50%	4,215	2,810	50%	8%	15,000	1,307	871	50%	1,307
	京都店	130,000	10,503	9,964	5%	10,503	9,964	5%	8%	37,500	3,015	2,760	9%	3,015
	店舗合計	398,000	32,205	29,858	8%	32,205	29,858	8%	8%	112,000	9,101	8,275	10%	9,101
グラスウェア	六本木店	170,000	13,639	13,242	3%	13,639	13,242	3%	8%	50,000	4,023	3,973	1%	4,023
	代官山店	115,000	9,207	6,097	51%	9,207	6,097	51%	8%	38,000	3,057	2,061	48%	3,057
	東京地区	285,000	22,846	19,339	18%	22,846	19,339	18%	8%	88,000	7,080	6,034	17%	7,080

2018/05/28 01:39:24 データを取得しました。シートを表示する準備をしています。
 2018/05/28 01:39:25 シート「売上高・総利益集計表(フル機能版)」を作成・表示しました。
 2018/05/28 01:40:19 シート「売上高・総利益集計表(フル機能版)」を作成するのに必要なデータを取得しています。
 2018/05/28 01:40:19 データを取得しました。シートを表示する準備をしています。
 2018/05/28 01:40:19 シート「売上高・総利益集計表(フル機能版)」を作成・表示しました。

プレビュー(0) 印刷(0) Excel出力(0) 再取得(0) チェック(0) 保存(0)

admin 業務実行担当 DEMO

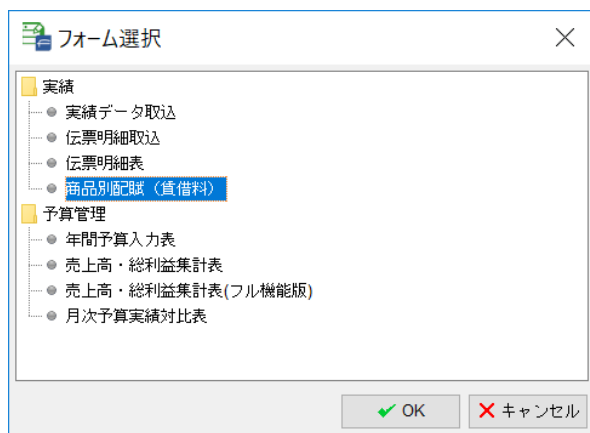
11.4 ご紹介機能③ フォーム機能 2

前項のフォームの「比率」は、フォーム上で計算、表示しただけですが、計算結果を元帳に保存することも可能です。この機能により、配賦、換算処理などを実現できます。

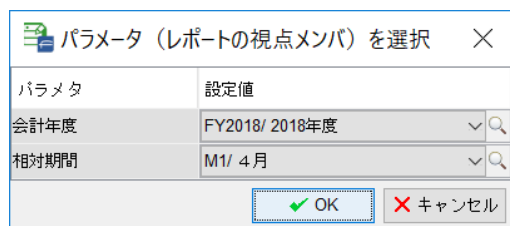
また、例えば配賦率の入力の際に、合計が 100%にならない場合、エラーとしてデータの保存を禁止することができます（バリデーションルール）。

Step 1. フォームを選択します

ブラウザを起動後、フォーム選択画面が表示されたら、フォームリスト「実績」中の「商品別配賦（賃借料）」を選択して OK ボタンをクリックします。



この後、「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます。「2018 年度」「4 月」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。



以下の画面が表示されます。

fusion_place ブラウザ

ファイル(E) 編集(E) アクション(A) オプション(O) ヘルプ(H)

業務責任単位: なし (システム定義)

元帳版: 共有作業版

商品別配賦 (賃借料)

2018年度 4月

商品別配賦 (賃借料)

店舗	商品部門	配賦率	配賦元金額	配賦受払額	配賦後額
六本木店	商品共通		1,872,480	0	1,872,480
	和食器	0.0%	0	0	0
	洋食器	0.0%	0	0	0
	ガラスウェア	0.0%	0	0	0
	商品合計	0.0%	1,872,480	0	1,872,480
代官山店	商品共通		871,500	0	871,500
	和食器	0.0%	0	0	0
	洋食器	0.0%	0	0	0
	ガラスウェア	0.0%	0	0	0
	商品合計	0.0%	871,500	0	871,500
横浜店	商品共通		442,556	0	442,556
	和食器	0.0%	0	0	0
	洋食器	0.0%	0	0	0
	ガラスウェア	0.0%	0	0	0
	商品合計	0.0%	442,556	0	442,556
京都店	商品共通		1,866,753	0	1,866,753
	和食器	0.0%	0	0	0
	洋食器	0.0%	0	0	0
	ガラスウェア	0.0%	0	0	0
	商品合計	0.0%	1,866,753	0	1,866,753

プレビュー(W) 印刷(P) Excel出力(X)

再取得(E) チェック(V) 保存(S)

admin.業務実行担当者 DEMO

Step 2. 配賦率を入力し、結果を保存します。

店舗・商品ごとに配賦率を入力します。以下のように入力してください。バリデーションルールでエラーとするために、六本木店は合計が 100%にならないようにしています。

fusion_place ブラウザ

ファイル(E) 編集(E) アクション(A) オプション(O) ヘルプ(H)

業務責任単位: なし (システム定義)

元帳版: 共有作業版

商品別配賦 (賃借料)

2018年度

4月

商品別配賦 (賃借料)

店舗	商品部門	配賦率	配賦元金額	配賦受払額	配賦後額
六本木店	商品共通		1,872,480	-1,872,480	0
	和食器	17.1%	0	320,835	320,835
	洋食器	37.1%	0	696,082	696,082
	グラスウェア	45.6%	0	855,563	855,563
	商品合計	99.8%	1,872,480	0	1,872,480
代官山店	商品共通		871,500	-871,500	0
	和食器	13.0%	0	113,295	113,295
	洋食器	35.0%	0	305,025	305,025
	グラスウェア	52.0%	0	453,180	453,180
	商品合計	100.0%	871,500	0	871,500
横浜店	商品共通		442,556	-442,556	0
	和食器	0.0%	0	0	0
	洋食器	47.2%	0	208,886	208,886
	グラスウェア	52.8%	0	233,670	233,670
	商品合計	100.0%	442,556	0	442,556
京都店	商品共通		1,866,753	-1,866,753	0
	和食器	20.0%	0	373,350	373,350
	洋食器	34.0%	0	634,696	634,696
	グラスウェア	46.0%	0	858,707	858,707
	商品合計	100.0%	1,866,753	0	1,866,753

プレビュー(W)

印刷(P)

Excel出力(X)

再取得(E)

チェック(M)

保存(S)

admin.業務実行担当者

DEMO

フォーム画面の右下にある「チェック」をクリックしてください。店舗毎に各商品別に入力した配賦率の合計が 100%にならない場合、エラーメッセージが表示され、合計セルがハイライトされます。

fusion_place ブラウザ

ファイル(F) 編集(E) アクション(A) オプション(O) ヘルプ(H)

業務責任単位: なし (システム定義)

元帳版: 共有作業版

☐ 商品別配賦 (賃借料)
2018年度
4月

商品別配賦 (賃借料)

店舗	商品部門	配賦率	配賦元金額	配賦受払額	配賦後額
六本木店	商品共通		1,872,480	-1,872,480	0
	和食器	17.1%	0	320,835	320,835
	洋食器	37.1%	0	696,082	696,082
	グラスウェア	45.6%	0	855,563	855,563
	商品合計	99.8%	1,872,480	0	1,872,480
代官山店	商品共通		871,500	-871,500	0
	和食器	13.0%	0	113,295	113,295
	洋食器	35.0%	0	305,025	305,025

処理状況

2018/05/08 12:02:02 シート「商品別配賦 (賃借料)」のチェック処理を開始します。
2018/05/08 12:02:02 [誤り] 配賦率合計が100%になっていません
2018/05/08 12:02:02 シート「商品別配賦 (賃借料)」のチェック処理を完了しました。1件の問題が見つかりました。対象セルは

☐ 処理が終わっても表示し続ける

閉じる

グラスウェア	46.0%	0	858,707	858,707
商品合計	100.0%	1,866,753	0	1,866,753

プレビュー(W)
印刷(P)
Excel出力(X)

再取得(E)

チェック(V)

保存(S)

admin:業務実行担当者
DEMO

六本木店・ガラスウェアの配賦率を 45.8%に変更し、再度チェックボタンをクリックしてください。ハイライトが解消しエラーメッセージも表示されません。

fusion_place ブラウザ

ファイル(F) 編集(E) アクション(A) オプション(O) ヘルプ(H)

業務責任単位: なし (システム定義) 元帳版: 共有作業版

商品別配賦 (賃借料) 2018年度 4月

商品別配賦 (賃借料)

店舗	商品部門	配賦率	配賦元金額	配賦受払額	配賦後額
六本木店	商品共通		1,872,480	-1,872,480	0
	和食器	17.1%	0	320,194	320,194
	洋食器	37.1%	0	694,690	694,690
	ガラスウェア	45.8%	0	857,596	857,596
	商品合計	100.0%	1,872,480	0	1,872,480
代官山店	商品共通		871,500	-871,500	0
	和食器	13.0%	0	113,295	113,295
	洋食器	35.0%	0	305,025	305,025

処理状況

2018/05/08 12:06:36 シート「商品別配賦 (賃借料)」のチェック処理を開始します。
 2018/05/08 12:06:36 シート「商品別配賦 (賃借料)」のチェック処理を完了しました。問題はありませんでした。

☐ 処理が終わっても表示し続ける 閉じる

ガラスウェア	46.0%	0	858,707	858,707
商品合計	100.0%	1,866,753	0	1,866,753

プレビュー(W) 印刷(P) Excel出力(X) 再取得(E) チェック(V) 保存(S)

admin:業務実行担当者 DEMO

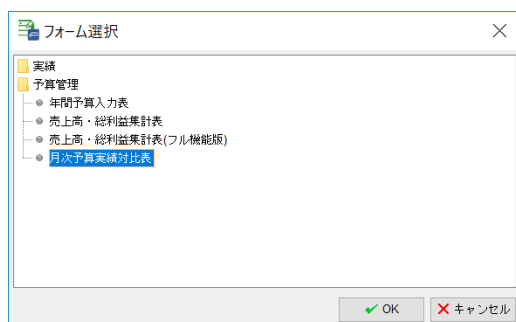
右下の保存ボタンをクリックすると、計算結果を元帳に保存できます。

11.5 ご紹介機能④ ドリルダウン

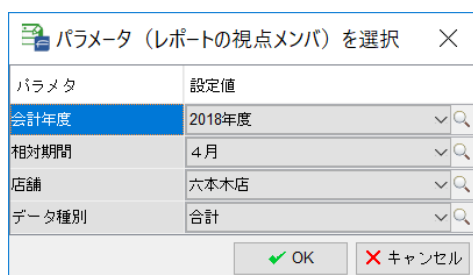
フォーム「月次予算実績対比表」は伝票明細へドリルダウンできます。

Step 1. フォームを選択します

ブラウザを起動後、フォーム選択画面が表示されたら、フォームリスト「予算管理」中の「月次予算実績対比表」を選択して OK ボタンをクリックします。



この後、「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます。
「2018年度」「4月」「六本木店」「合計」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。



フォームが表示されます。ここで青字の下線付きの金額をクリックすると、伝票明細画面にドリルダウンします

fusion_place ブラウザ

ファイル(F) 編集(E) アクション(A) オプション(O) ヘルプ(H)

業務責任単位: なし (システム定義)

FORM4/ 月次予算実績対比表 FY2018/ 2018年度 M1/ 4月 S01/ 六本木店 TOTAL/ 合計

月次予算実績対比表

勘定科目	和食器 予算 期別 (A)	和食器 実績 期別 (B)	和食器 前年同月実績 期別 (E)	対前年	和食器 実績 年度累計 (C)	和食器 前年同月実績 年度累計 (C)	対前年	和食器 予算比 (C/A)	洋食器 予算 期別 (A)
売上高	64,000	5,131	5,236	-2%	5,131	5,236	-2%	8%	138,000
売上原価	46,500	3,746	3,770	1%	3,746	3,770	1%	-8%	103,000
売上総利益	17,500	1,385	1,466	-6%	1,385	1,466	-6%	8%	35,000
人件費	8,500	676	688	2%	676	688	2%	-8%	18,500
賃借料	4,000	322	334	4%	322	334	4%	-8%	8,000
その他販売費	2,800	230	217	-6%	230	217	-6%	-8%	6,000
販売費	15,300	1,227	1,239	1%	1,227	1,239	1%	-8%	32,500
営業利益	2,200	158	227	-30%	158	227	-30%	7%	2,500

2018/04/03 09:39:51 シート「月次予算実績対比表」を作成・表示しました。

プレビュー(W) 印刷(P) Excel出力(X)

「和食器 実績 年度累計(C)」列、「その他販管費」行の金額（上記画面赤枠）をクリックしてください。

fusion_place ブラウザ

ファイル(F) 編集(E) アクション(A) オプション(O) ヘルプ(H)

業務責任単位: なし (システム定義) 元帳版: 共有作業版

ACT_FORM3/ 伝票明細表 FY2018/ 2018年度 M1/ 4月 S01/ 六本木店 PL2300/ その他販売費 M02/ 洋食器

伝票明細表

伝票番号	店舗	商品部門	勘定科目	テキスト	転記日付	値
0081/ 0081	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	大阪出張旅費（セミナー参加のため）	2018/4/8	28
0082/ 0082	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	交通費 4月分	2018/4/28	30
0083/ 0083	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	2019年新入社員研修 会場費	2018/4/2	46
0084/ 0084	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	店長会議	2018/4/2	28
0085/ 0085	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	サイトシステム保守費用他	2018/4/2	46
0086/ 0086	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	4月六本木店 電話通信料	2018/4/2	44
0087/ 0087	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	接待交際費	2018/4/2	44
0088/ 0088	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	4月六本木店 電気・ガス・水道代	2018/4/2	42
0089/ 0089	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	福岡出張旅費（研修受講のため）	2018/4/14	48
0090/ 0090	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	交通費 4月分	2018/4/28	42
0091/ 0091	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	事務部門研修時宿泊費	2018/4/2	43
0092/ 0092	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	出張旅費（会議のため）	2018/4/2	44
0093/ 0093	S01/ 六本木店	M02/ 洋食器	その他販売費	クラウドシステム利用料	2018/4/2	11

2018/04/03 09:35:58 シート「伝票明細表」を作成・表示しました。

プレビュー(W) 印刷(P) Excel出力(X) 再取得(E) チェック(U) 保存(S)

※この明細表のデータは、「11.2 ご紹介機能① 高度なインポート」でインポートした明細表のデータです。

※ 画面右上の◀をクリックすると、元のフォームに戻ることができます。

fusions

<http://www.fusions.co.jp>